

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジアの企業と文化	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桑原 浩	3年	e9wahara@gmail.com	

学びの準備	ねらい 日本企業と多国籍企業が東南アジア、東アジア諸国でマーケティング活動を行った事例に焦点を当て、特に各地域の文化的背景とマーケティングとの関係を議論しながら、グローバルマーケティング論の基礎的概念の習得を目指します。	メッセージ 日本企業のアジア圏でのマーケティング活動のリアルな現実を、事例を通じて学ぶ授業です。そのために、現地で日系企業が実際に製造販売している製品のいくつかを、体験してもらう予定です。
	到達目標 1. グローバルマーケティングに関する基盤的知識を理解できること。 2. 実際のアジア地域のマーケティング活動に対して、活用可能なマーケティング概念を理解できること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	消費者行動への越境的な視点（1）；「カップヌードル」他を事例として	第一回宿題
	3	消費者行動への越境的な視点（2）；「TOTO」を事例として 第1回宿題の発表あり	
	4	国のセグメンテーションとターゲット（1）；「かっぱえびせん」他を事例として	
	5	国のセグメンテーションとターゲット（2）；「かっぱえびせん」他を事例として	
	6	国内市場のセグメンテーションとターゲット（1）；「大戸屋」他を事例として	
	7	国内市場のセグメンテーションとターゲット（2）；「大戸屋」他を事例として	
	8	前半期間(2-7回)の補足とまとめ、中間テスト	
	9	ポジショニング（1）；緑茶飲料他を事例として	
	10	ポジショニング（2）；緑茶飲料他を事例として	第二回宿題
	11	ブランディング（1）；「スターバックス」他を事例として	
	12	ブランディング（2）；「スターバックス」他を事例として	
	13	市場参入（1）；「吉野家」他を事例として	
	14	市場参入（2）；「大戸家」他を事例として	
15	沖縄県企業のアジアマーケティング	期末課題	
16			

テキスト・参考文献・資料など
資料、講義ノート等をテキストとし、プリントで提供します。以下、参考文献です。 『グローバル・マーケティング入門』 相原 修・嶋 正・三浦 俊彦 著、2009年発行、日本経済新聞出版社 『日本企業のグローバル・マーケティング』 グローバルマーケティング研究会著、大石芳裕（編集）、2009年発行、白桃書房

学びの手立て
マーケティングの入門科目が履修済みの学生を想定して授業が行われます。これまでマーケティング関係の科目を履修していないが本科目を履修したいと望む学生は、必ず初回授業でそのことを教員に連絡し、適当な指示を受けてください。

評価
1) 中間テスト 25%
2) 期末課題 25%
3) 宿題(2回) 50%

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英文簿記・会計	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	2年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	企業活動・ビジネスに国境がないように、簿記・会計の世界でも徐々に国境がなくなりつつあります。国境がなくなった時、世界標準の貸借対照表や損益計算書は、当然ながら英語で作成されます。この講義では、「商業簿記Ⅰ」「同Ⅱ」で学んだ簿記一巡の手続を英語で行えるようになることを目指します。	英文簿記・会計に関する資格として、東京商工会議所主催の国際会計検定BATIC (Bookkeeping and Accounting Test for International Communication) があります。この講義はSubject1に対応しています。直前対策講座も実施する予定なので、是非、チャレンジしてください。
到達目標	① 商品売買取引、手形取引、資金調達取引などの諸取引を英語で仕訳（記録）できる。 ② 上記①の諸取引を英語でSpecialized journal（特殊仕訳帳）へ記帳し、Ledger（元帳）に転記できる。 ③ 決算を行い、Income statement（損益計算書）とBalance sheet（貸借対照表）を英語で作成できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Guidance（ガイダンス）	—
	2	Basic Concepts of Bookkeeping and Accounting（簿記・会計の基礎概念）	講義内容の復習
	3	Transactions and Journal Entries（取引と仕訳）	同上
	4	Transactions and Journal Entries（取引と仕訳）	同上
	5	Journals and Ledgers（仕訳帳と元帳）	同上
	6	Journals and Ledgers（仕訳帳と元帳）	同上
	7	Trial Balance（試算表）	同上
8	Test①（中間テスト）	—	
9	Adjusting Entries（決算整理仕訳）	講義内容の復習	
10	Worksheet（精算表）	同上	
11	Closing Entries（帳簿の締切り）	同上	
12	Financial Statements（財務諸表）	同上	
13	Financial Statements（財務諸表）	同上	
14	Financial Statement Analysis（財務諸表分析）	同上	
15	Internal Control（内部統制）	同上	
16	Test②（期末テスト）	—	
テキスト・参考文献・資料など	・テキスト：清村英之『英文会計が基礎からわかる本』同文館出版，平成27年10月，2,200円＋税。 ・参考文献：講義中に紹介します。		
学びの手立て	履修上の注意事項／心構え： ・「商業簿記Ⅰ」を履修済みの学生（またはそれと同等の能力を持つ学生）しか登録できません。 ・例年、遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないよう心がけてください。 学びを深めるために： ・映画、音楽、雑誌等、日常的に英語に触れる機会を作るといいでしょう。		
評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際会計検定BATICは、7月と11月に行われます。「メッセージ」にも書いたように、検定試験の前には直前対策講座を実施する予定です。是非、チャレンジを！
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	オフィス・マネジメント	前期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て

学びの継続	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計学特別講義	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-坂本 雅士	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では会計学の一領域である「税務会計」を取り上げる。法人税法の課税所得は企業利益を基礎として、これを税務規定により修正し算出される仕組みとなっている。したがって、税務会計を修得するうえで簿記を含む企業会計や税法の知識は必須である。講義では、会計学と法律学の双方の観点から、「税」を取り上げ、税務会計に関する理解を深めることを目的とする。</p>	<p>現在、日本に企業利益を計算するための会計ルールがいくつあるか知っていますか？「えっ、1つじゃないの？」。普通はそう思いますよね。正解は、なんと6つ。会計基準の国際的統合化に歩を進める一方、国内に目を転じれば複数の会計基準が併存するというかつてない状況は、税務上の対応においてもさまざまな論点を提起しています。</p>
到達目標	授業では、会計学の知識を学ぶとともに、法人税法の理論及び計算構造を修得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、講義のねらい・アプローチ	授業内容の復習
	2	租税法の体系と範囲、租税の意義・目的・根拠・分類	同上
	3	租税法の法源・効力・基本原則	同上
	4	租税法令の解釈、租税法と私法	同上
	5	租税回避行為と租税法	同上
	6	租税行政過程、租税争訟制度、租税処罰法	同上
	7	アドバンススタディ① BEPSへの対応	同上
	8	企業利益と課税所得	同上
	9	確定決算主義について	同上
	10	損金経理要件と逆基準性の問題点	同上
	11	一般に公正妥当と認められる会計処理の基準	同上
	12	税務調整、益金の範囲、損金の範囲	同上
	13	事例研究① 交際費等課税	同上
14	事例研究② 減価償却	同上	
15	アドバンススタディ② 会計基準の複線化と法人税法	同上	
16	試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など 坂本雅士著『租税法講義ノート（1）』三恵社		
学びの手立て	①「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。真剣に授業に臨むこと（授業の理解度を確認するために、小テストを実施する）。 ②「学びを深めるために」 必要に応じ、参考レジュメや新聞記事等を配布するので目を通すこと。		
評価	試験70%、小テスト20%、平常点10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「税法」「税務会計」がある。
-------	--------------------------------------

※ポリシーとの関連性 ビジネス社会で活躍する人材を育成するための専門基礎知識の修得、判断力、考える力などを授業を通して学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計学Ⅰ	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 建夫	2年	授業についての問い合わせは、授業中や授業後に積極的に行うようにして下さい。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、財務会計分野の基礎的、全般的内容を修得させることを目標とする。財務会計は企業の外部利害関係者への報告を中心とした分野であり、企業の内部管理のための管理会計と対比される会計分野である。このような外部報告会計のための基本原理について、企業会計原則・会計基準を中心に会社法会計、金融商品取引法会計との比較を行い、わかりやすく講義と質疑で進めていく。</p>	<p>日商簿記検定等の資格取得とも関連させながら受講者は目標を立ててほしい。</p>
到達目標	<p>会計事務所や会社の経理、総務などの業務に役立つための基礎知識の修得と日商2級、公認会計士、税理士などの資格取得の基礎学習の理解を目標とする。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（授業の進め方、評価の方法など）	質問の準備
	2	会計学の役割と領域	授業の予習と復習
	3	会計公準論	授業の予習と復習
	4	会計原則、会計基準	授業の予習と復習
	5	一般原則 その1	授業の予習と復習
	6	一般原則 その2	授業の予習と復習
	7	一般原則 その3	授業の予習と復習
8	流動資産会計 その1 と中間テスト	授業の予習と復習	
9	流動資産会計 その2	授業の予習と復習	
10	固定資産会計	授業の予習と復習	
11	減価償却会計 その1	授業の予習と復習	
12	減価償却会計 その2	授業の予習と復習	
13	繰延資産会計	授業の予習と復習	
14	負債会計	授業の予習と復習	
15	純資産会計	授業の予習と復習	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>上江洲・大城編著『財務会計の基礎理論と展開』同文館出版 広瀬義州『財務会計』中央経済社、伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』日本経済新聞社、桜井久勝『財務会計講義』中央経済社</p>		
学びの手立て	<p>商業簿記Ⅰ・Ⅱの簿記原理との比較を通じて、財務会計の特徴と内容をしっかりとらえることが重要です。</p>		
評価	<p>成績評価の方法は、出席状況、中間テスト、期末試験などを総合して判断する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 会計学Ⅱ、財務会計Ⅰ・Ⅱ、税法、税務会計、会社法、非営利会計、会計監査、経営分析なども受講することが望ましい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

ビジネス社会で活躍する人材を育成するため専門基礎知識の修得と同時に業務に必要な判断力、考える力を学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計学Ⅱ	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 建夫	2年	授業についての問い合わせは、授業中、授業後に積極的に行ってください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、財務会計分野の基礎的、全般的内容を修得させることを目標とする。財務会計は、企業外部の利害関係者への報告を中心とした分野であり、企業の内部管理のための管理会計と対比されるものである。このような外部報告会計のための基本原理について、企業会計原則、会計基準、中小企業会計要領などから取りあげていくものである。</p>	<p>会計学の理解には、簿記の計算原理との関連が重要であり日商簿記検定等の資格取得も積極的に行うようにして下さい。</p>
到達目標	<p>会計事務所や会社の経理、総務などの業務に役立つための基礎知識の修得とともに日商2級、公認会計士、税理士などの資格取得の基礎学習の理解を目標とする。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー財務会計と中小企業会計の役割	質問の準備
	2	貸借対照表と純資産その1	授業の予習と復習
	3	貸借対照表と純資産その2	同上
	4	貸借対照表と純資産その3	同上
	5	損益会計	同上
	6	収益の認識基準	同上
	7	収益・費用の測定、中間テスト	同上
	8	財務諸表の作成原則と様式ー貸借対照表その1	同上
	9	財務諸表の作成原則と様式ー貸借対照表その2	同上
	10	損益計算書その1	同上
	11	損益計算書その2	同上
	12	中小企業会計の役割 その1	同上
	13	中小企業会計の役割 その2	同上
14	中小企業会計の役割 その3	同上	
15	まとめ	同上	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>上江洲・大城編著『財務会計の基礎理論と展開』同文館出版 河崎・万代『詳解中小会社の会計要領』中央経済社、桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、佐藤・河崎他編著『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ』中央経済社</p>		
学びの手立て	<p>簿記の計算原理、記帳手続などと会計原則、会計基準との比較を通して、会計学の特徴、内容を理解するようにして下さい。</p>		
評価	<p>成績評価の方法は、出席状況、中間テスト、期末テスト、簿記検定試験合格などを総合して判断する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 原価計算、管理会計、非営利会計、会計監査、経営分析、会社法なども受講することが望ましい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会社法	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	伊達 竜太郎	3年	r.date@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 我々が生きる現代社会において、「会社」は人々の生活と密接に関係している。ここで取り扱う「会社」では、会社内部の株主や取締役などの意思決定の下で、会社内部の権限・利益配分や会社外部の債権者との取引を行う。本講では、このような会社をめぐる利害関係者を規制する「会社法」を中心に議論を進める。	メッセージ 皆さんの質問にも丁寧に答えつつ、分かりやすく解説したい。「会社法」の楽しさと奥深さを一緒に学びましょう。
	到達目標 法と経済学や国際会社法などの現代的なトピックを交えつつ、諸制度の基本的知識を理解し、実社会に出た後も活用できる法的考察力の獲得を目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	会社法総論	
	2	ベンチャー・ビジネスと法規制	
	3	会社形態：株式会社・持分会社	
	4	設立：総論・設立手続など	
	5	株式（1）総論・株主の権利と義務	
	6	株式（2）株式の譲渡とその制限	
	7	新株発行（1）意義・資金調達	
	8	新株発行（2）是正措置	
	9	機関（1）総論	
	10	機関（2）株主総会	
	11	機関（3）取締役・取締役会・代表取締役	
	12	機関（4）監査役・監査役会	
	13	機関（5）会計参与・会計監査人・委員会設置会社	
	14	企業組織再編：合併・敵対的企業買収など	
	15	国際会社法：会社従属法・外国会社など	
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など (1) 伊藤靖史＝大杉謙一＝田中亘＝松井秀征『会社法〔第3版〕(LEGAL QUEST)』（有斐閣、2015年） (2) 最新版の六法 (3) 必要に応じて、適宜資料を配布する。		
	学びの手立て 復習や反復学習を通して、基本概念と立法趣旨を理解する。また、講義を受ける姿勢として、常に就職を意識しましょう。大学は、社会人になるための大事なプロセスです。		
	評価 期末試験および講義における受講態度により評価する。期末試験の成績が70で、受講態度（出席を含む）が30の割合である。テストは期末試験1回を予定し、選択式6題および論文式2題の問題を予定している。 なお、期末試験では、教科書・レジュメ（講義の配付資料）・六法・その他の参考書など、何でも持込可能。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 手形・小切手法、経済法、法務研究Ⅰ（法学検定試験の対策講座）、法政特論Ⅱ（ビジネス実務法務検定試験の対策講座）
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外書講読	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業者史	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「ひと」としての企業者に注目し、そこから学ぶ。授業ではさまざまな企業者を取りあげる。	メッセージ 企業者の活動（経営戦略、経営管理、人材育成など）は、どのような時代的・社会的環境のもとで行われたのか。それにより彼らはいかにして社会を変えていったのか。さらに、困難におちいった彼らを支え続けてきた経営理念、あるいは夢や信念とは、何だったのか。主に以上の問いかけから学んでいく。
	到達目標 時代がひとをつくることと、ひとが時代をつくることを、中長期的な視野でとらえられること。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>主に以下の企業者について議論していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴木敏文（セブン－イレブン・ジャパン） ・松下幸之助（松下電器産業、現・パナソニック） ・小倉昌男（ヤマト運輸） ・カルロス・ゴーン（日産自動車） ・稲盛和夫（京セラ・KDDI） ・スティーブ・ジョブズ（アップル） ・南場智子（DeNA） ・安藤百福（日清食品） ・本田宗一郎（本田技研工業） ・孫正義（ソフトバンク） ・山田昭男（未来工業）
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>この講義は受講生の意見や質問から展開していく。そのため常に考えることが必要とされる。</p>
	<p>評価</p> <p>期末試験（80%）、中間レポート（20%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>経営コースの各科目。</p>
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	2年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	簿記の技能は、会計コースで様々な専門科目を履修するに当たって不可欠です。したがって、この演習では、第一に日商簿記検定試験2級取得を目指します。また、会計学の全容を明らかにし、それぞれの領域を紹介することによって会計学への興味を喚起する、つまり会計学への誘いが第二の目的です。	現時点では、「簿記=会計」と理解をしている皆さんが多いと思いますが、簿記だけが会計ではありません。もっと様々な分野の会計があります。この演習では、会計に興味を持った皆さんに、これらを紹介するとともに、今後、会計学を深く学んでいくための基礎を提供します。
到達目標	① リース取引や外貨建取引などの高度な諸取引、株式会社に固有の諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 株式会社の損益計算書と貸借対照表を作成できる。 ③ 連結会計の必要性を理解し、連結財務諸表を作成できる。 ④ 会計学の各領域を理解し、説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	会計学の全体像	講義内容の復習
	3	会計学の全体像	同上
	4	会計の歴史	同上
	5	会計の歴史	同上
	6	日商簿記検定試験 6月試験に向けての学習	同上
	7	日商簿記検定試験 6月試験に向けての学習	同上
8	日商簿記検定試験 6月試験に向けての学習	同上	
9	財務諸表の作り方	同上	
10	財務諸表の作り方	同上	
11	財務諸表の読み方	同上	
12	財務諸表の読み方	同上	
13	財務諸表の読み方	同上	
14	損益分岐点分析	同上	
15	損益分岐点分析	同上	
16	まとめ	同上	
実践	テキスト・参考文献・資料など	・テキスト：使用しません。プリントを配布します。 ・参考文献：講義中に紹介します。	
	学びの手立て	履修上の注意事項／心構え： ・会計コースを選択した学生しか登録できません。 ・2年次になると大学生活にも慣れて、気が緩みがちです。遅刻・欠席のないよう心がけてください。 学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。 会計の知識が付くにつれて、これらの記事・ニュースが理解できるようになります。	
	評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・レポート……80点	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記 I II（2年次）、会計学 I II（2年次）など、会計コースの諸科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①文献の読み方、資料・データの分析方法、レジュメ作成方法、プレゼンテーション技法、レポートの書き方の習得。 ②グループワーク、フィールドワークの実践。	本演習では、基礎文献の購読を通じて、都市・市場を歴史的な観点から学ぶと同時に、レジュメの作成方法やプレゼンテーション技法、レポートの書き方等をしっかりと訓練していきます。同時に、フィールドワークの実施を予定しています。やる気を持ったゼミ員が相互に刺激し合いながら、楽しく充実したゼミを作り上げていくことを期待します。
到達目標	①商業と都市・市場の発展に関わる問題への興味関心を喚起する。 ②レポート・論文執筆および口頭報告のための基礎的能力の習得。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、自己紹介	
	2	講義①：レジュメの作成方法、ワープロソフトの基本操作	PCを用いて、簡易レポートの作成
	3	講義②：プレゼンテーション技術の習得、プレゼンテーションソフトの基本操作	PCを用いて、簡易スライドの作成
	4	講義③：ディスカッションの方法	
	5	テキスト輪読①	使用テキストの熟読と疑問点の列挙
	6	テキスト輪読②	同上
	7	テキスト輪読③	同上
8	テキスト輪読④	同上	
9	フィールドワーク：商店街の調査① 調査地域の設定、課題設定	グループによる共同調査作業	
10	フィールドワーク：商店街の調査② 調査地域の設定、課題設定	同上	
11	講義④：データ収集の方法	図書館での文献検索	
12	フィールドワーク：商店街の調査③ 調査地域の情報収集	グループによる共同調査作業	
13	フィールドワーク：商店街の調査④ 調査項目の精査	同上	
14	まとめ①：商店街調査の経過報告	調査内容の改善点列挙	
15	まとめ②：商店街調査の経過報告	同上	
16			
	テキスト・参考文献・資料など	参考文献： 斯波照雄『西洋の都市と日本の都市 どこが違うのかー比較都市史入門ー』学文社、2015年 その他使用テキストについては、演習内で適宜指示します。	
	学びの手立て	【履修の心構え】 ①無断欠席や遅刻は厳禁とします。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで担当教員に連絡をしてください。 ③ほぼ毎回、担当者による報告があります。事前の報告準備（レジュメ作成・パワーポイント等のスライド作成）が必要です。 ④報告に対する質疑応答の時間を設けます。積極的な発言・議論への参加を期待します。 ⑤ゼミ員相互の交流や情報交換は密に行うようにしてください。	
	評価	出席点・受講態度（80%）：質問や発言を適宜加点する。遅刻、無断欠席は厳禁です。 口頭発表（20%）：報告内容、レジュメ・報告スライド等のわかりやすさを評価します。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネスでも必要とされるデータ分析やプレゼンテーション等の基礎的能力を身につける第一歩となるのが基礎演習である。 基礎演習を契機に、問題解決能力の獲得とともに、自分で考え行動できる能力を高めていきます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、国内・国外の企業研究を中心に、経営学に関する予備知識を身につけます。その過程で、大学で学ぶための、さらには実社会の現場での実践に役立つ、さまざまな方法を習得します。	メッセージ 経営学は、ヒト（人材育成）・モノ（商品やサービス）・カネ（資金の流れ）・情報などの経営資源を、総合的にどう組み合わせれば、組織としてより効果的な働きをもたらすのかを考える学問です。
	到達目標 ①資料収集とパワーポイント作成を通じて情報の取捨選択と要約の仕方を理解します。②報告を通じて「自分が伝えたいこと」を簡潔かつ的確に伝えるためのスキルを高めます。③討論を通じて他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 班分けなど	
	2	グループワーク (1)： ビジネスアイデアの探求	
	3	グループワーク (2)： ビジネスプランの作成	
	4	グループワーク (3)： 業界研究	
	5	企業経営の全体像	
	6	経営学の全体像	
	7	企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり： パナソニック	
	8	企業とアウトプット（製品・サービス）市場との関わり： 富士フイルム	
	9	競争戦略のマネジメント (1)： ソフトバンク	
	10	競争戦略のマネジメント (2)： ドトールとスターバックス	
	11	多角化戦略のマネジメント： キヤノン	
	12	国際化のマネジメント： ホンダ	
	13	マクロ組織のマネジメント： 3M	
	14	ミクロ組織のマネジメント： 未来工業	
15	前期のまとめ		
16			
	テキスト・参考文献・資料など 加護野忠男・吉村典久 編著（2012）『1からの経営学 [第2版]』碩学舎（発売元：中央経済社）。		
	学びの手立て 討論では積極的な発言を求めます。各班のパワーポイント報告では、ビジュアルに関する効果的手法や、聴き手に関心をもたせる話し方など、プレゼンテーションのスキルについても適宜指導していきます。		
	評価 出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価します。なお、自分の班が報告班または討論班のときに正当な理由なく欠席した場合は、大きくペナルティーがつきます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅱ、および経営コースの各科目。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	2年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	簿記の技能は、会計コースで様々な専門科目を履修するに当たって不可欠です。したがって、この演習では、第一に日商簿記検定試験2級取得を目指します。また、会計学の全容を明らかにし、それぞれの領域を紹介することによって会計学への興味を喚起する、つまり会計学への誘いが第二の目的です。	現時点では、「簿記=会計」と理解をしている皆さんが多いと思いますが、簿記だけが会計ではありません。もっと様々な分野の会計があります。この演習では、会計に興味を持った皆さんに、これらを紹介するとともに、今後、会計学を深く学んでいくための基礎を提供します。
到達目標	① リース取引や外貨建取引などの高度な諸取引、株式会社に固有の諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 株式会社の損益計算書と貸借対照表を作成できる。 ③ 連結会計の必要性を理解し、連結財務諸表を作成できる。 ④ 会計学の各領域を理解し、説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	貨幣の時間価値	講義内容の復習
	3	貨幣の時間価値	同上
	4	設備投資意思決定	同上
	5	設備投資意思決定	同上
	6	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習	同上
	7	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習	同上
8	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習	同上	
9	会計の国際化	同上	
10	会計の国際化	同上	
11	会計の国際化	同上	
12	キャッシュ・フロー計算書の作成	同上	
13	キャッシュ・フロー計算書の作成	同上	
14	会計監査	同上	
15	会計監査	同上	
16	まとめ	同上	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：使用しません。プリントを配布します。 参考文献：講義中に紹介します。	
	学びの手立て	履修上の注意事項／心構え： ・会計コースを選択し、「基礎演習Ⅰ」を履修済みの学生しか登録できません。 ・2年次になると大学生活にも慣れて、気が緩みがちです。遅刻・欠席のないよう心がけてください。 学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。 会計の知識が付くにつれて、これらの記事・ニュースが理解できるようになります。	
	評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・レポート……80点	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記ⅠⅡ（2年次）、会計学ⅠⅡ（2年次）など、会計コースの諸科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①文献の読み方、資料・データの分析方法、レジュメ作成方法、プレゼンテーション技法、レポートの書き方の習得。その訓練。</p> <p>②グループワーク、フィールドワークの実践。</p>	<p>基礎演習Ⅰから継続して商店街の調査というフィールドワークを行っていきます。商店街の発展・停滞について歴史的観点から分析して考察を行うことで、商店街が現在抱える問題点を明らかにすることが狙いです。</p> <p>キーワード：中心商店街、再開発、まちづくり、地方創生</p>
到達目標	<p>①商業と都市・市場の発展に関わる問題への興味関心を喚起する。</p> <p>②レポート・論文執筆および口頭報告のための基礎的能力を習得する。</p> <p>③グループワークを通じて、定期的な報告の実施およびレポート作成に取り組む。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	フィールドワーク：商店街の調査① 調査方法の検討	グループによる共同調査作業
	3	フィールドワーク：商店街の調査② 調査方法の検討	同上
	4	講義①：中心商店街の活性化について	文献の調査
	5	フィールドワーク：商店街の調査③ 調査先関係各所への事前連絡	グループによる共同調査作業
	6	フィールドワーク：商店街の調査④ 調査先関係各所への事前連絡	同上
	7	講義②：モータリゼーションと中心商店街	文献の調査
	8	フィールドワークの実施①	
	9	フィールドワークの実施②	
	10	フィールドワーク：商店街の調査⑤ 収集データの分析	グループによる共同調査作業
	11	フィールドワーク：商店街の調査⑥ レポート作成作業	同上
	12	フィールドワーク：商店街の調査⑦ 口頭報告の準備作業	同上
	13	講義③：沖縄県における中心商店街の特徴	
	14	まとめ①：商店街調査の最終報告ならびにレポート提出	報告内容についての質疑応答
15	まとめ②：商店街調査の最終報告ならびにレポート提出	同上	
16			

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献： 斯波照雄『西洋の都市と日本の都市 どこが違うのかー比較都市史入門ー』学文社、2015年 その他使用テキストについては、演習内で適宜指示します。</p>
----	--

学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <p>①無断欠席や遅刻は厳禁とします。</p> <p>②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで担当教員に連絡をしてください。</p> <p>③ほぼ毎回、担当者による報告があります。事前の報告準備（レジュメ作成・パワーポイント等のスライド作成）が必要です。</p> <p>④報告に対する質疑応答の時間を設けます。積極的な発言・議論への参加を期待します。</p> <p>⑤ゼミ員相互の交流や情報交換は密に行うようにしてください。</p>
--------	--

評価	<p>出席点・受講態度（70%）：質問や発言を適宜加点する。遅刻、無断欠席は厳禁です。</p> <p>レポート作成（20%）：レポートの内容、構成等を評価します。</p> <p>口頭発表（10%）：報告内容、レジュメ・報告スライド等のわかりやすさを評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ビジネスでも必要とされるデータ分析やプレゼンテーション等の基礎的能力を身につける第一歩となるのが基礎演習である。</p> <p>基礎演習を契機に、問題解決能力の獲得とともに、自分で考え行動できる能力を高めていきます。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、国内・国外の企業研究を中心に、経営学に関する予備知識を身につけます。その過程で、大学で学ぶための、さらには実社会の現場での実践に役立つ、さまざまな方法を習得します。	メッセージ 経営学は、ヒト（人材育成）・モノ（商品やサービス）・カネ（資金の流れ）・情報などの経営資源を、総合的にどう組み合わせれば、組織としてより効果的な働きをもたらすのかを考える学問です。
	到達目標 ①資料収集とパワーポイント作成を通じて情報の取捨選択と要約の仕方を理解します。②報告を通じて「自分が伝えたいこと」を簡潔かつ的確に伝えるためのスキルを高めます。③討論を通じて他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 班分けなど	
	2	企業を起こす： 大学発ベンチャー	
	3	環境・戦略・組織： フォード、GM	
	4	企業の知識体系： シャープ	
	5	いかに競争するか： マクドナルド、モスバーガー	
	6	事業のリストラクチャリングと組織改革： GE	
	7	M&Aと外部資源の利用： ソニー	
	8	いかに国際化するか： ノキア	
	9	日本的生産システム： トヨタ	
	10	組織の革新と再生： 松下電器産業（現・パナソニック）	
	11	日本的経営と人事管理制度： ブラザー工業	
	12	消費者の変化に対応する事業システム： セブン-イレブン・ジャパン	
	13	ニーズの絞り込みによる市場創造： ライオン	
	14	ビジネスの倫理： 三菱ふそう	
	15	後期のまとめ	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 東北大学経営学グループ（2008）『ケースに学ぶ経営学 [新版]』有斐閣ブックス。		
	学びの手立て 積極的な発言を求めます。各班のパワーポイント報告では、ビジュアルに関する効果的手法や、聴き手に関心をもたせる話し方など、プレゼンテーションのスキルについても適宜指導していきます。		
	評価 出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価します。なお、自分の班が報告班または討論班のときに正当な理由なく欠席した場合は、大きくペナルティーがつきます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習Ⅰ、および経営コースの各科目。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル・マーケティング演習	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-董 宜嫻	2年	ptt801@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	授業プリントを自分で読んで内容を理解できる。県系企業の海外進出に興味を持ち、各事例の内容を大まかに理解できる。沖縄企業のブランド戦略を理解できる。	毎回、簡単なプリントを配布します。なお、テストに対応できる練習問題を配って、授業中に解答します。初学者も大丈夫です。

到達目標	初歩的な国際ビジネスの実際を理解できる。現実の国際的なマーケティング活動について自分で調べ、レポートを作成できる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス予定やレポート・テーマの説明	課題の報告手法を検討する
	2	講義・討論（沖縄特産品のルーツ）	プリント読み&報告の準備
	3	講義・討論（グローバル時代の到来と沖縄物産革命の課題）	プリント読み&報告の準備
	4	講義・討論（ソフトパワーと沖縄の物産革命）	プリント読み&報告の準備
	5	講義・報告（ソフトパワーと沖縄の文化マーケティング戦略）	プリント読み&報告の準備
	6	講義・報告（グローバル価格競争と沖縄の伝統工芸業界）	プリント読み&報告の準備
	7	講義・報告（島おこしと地域ブランドのマーケティング戦略）	プリント読み&報告の準備
	8	講義・報告（差別化と食肉産業の地域ブランド）	プリント読み&報告の準備
	9	講義・報告（差別化と沖縄ブランドの確立ー食品産業のケース）	プリント読み&報告の準備
	10	講義・報告（差別化と沖縄自然派コスメのコンセプト）	プリント読み&報告の準備
	11	講義・報告（沖縄ウェルネス・アイランドー健康美容産業のケース）	プリント読み&報告の準備
	12	講義・報告（沖縄ブランドの確立ー黒糖・塩産業のケース）	プリント読み&報告の準備
	13	講義・報告（沖縄のスタイルのブランド化ー泡盛産業のケース）	レポートの作成
	14	講義・報告（沖縄のスタイルのブランド化ーかりゆしウェア産業のケース）	レポートの作成
15	レポートの最終提出（県産品の国際マーケティング）	レポートの作成	
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献①宮城弘岩(2010)『沖縄物産の展開』ポーターインク
-------	---

学びの手立て	①テキスト指定しないので、必ず授業プリントを持参する。②レポート提出前に、関連する授業プリントを再確認しておくこと。③報告は個別に行う（グループ報告は行わない）。④『グローバル・マーケティング総論』の受講を前提とせずに補足説明を加える。
--------	--

評価	レポート・報告・期末テストと出席状況で総合的に評価する。レポート報告50点・期末テスト30点・平常点20点の割合で評価する。無断欠席が5回以上になると、期末テストの参加を認めない。平常点は出席・質問状況を確認する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、「アジア経済」、「アジアの企業と文化」 次のステージ：授業で学んだ実践と知識は現実のビジネス世界に応用できる。マーケティング、経営学、沖縄の地域産業について、全般に知識を高められる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル・マーケティング総論	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-董 宜嫻	2年	ptt801@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>入門的なマーケティングのテキストを自分で読んで内容を理解できる。現実の国際的なマーケティング活動に興味を持ち、全体像を一通り理解できる。</p>	<p>教科書と時事的な教材を併用し、簡単なプリントを配布します。各国で実際に行われているマーケティングの手法を写真等を用いて学習します。練習問題を授業中に解答してもらい、その後解説します。初学者も十分、理解できるように配慮します。</p>
到達目標	入門的なマーケティングの用語を自分で説明できる。現実の国際的なマーケティング活動について、一通り理解できる。	

学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	グローバル・マーケティング戦略の枠組み	テキスト&プリント
	3	グローバルSTPの決定（当該国でのターゲット市場の決定）	テキスト&プリント
	4	グローバル消費者とSTP分析（グローバルセグメントのポジショニング戦略）	テキスト&プリント
	5	外部環境分析（BOP 新興国中間層の市場）	テキスト、参考文献①、プリント
	6	地域マーケティング、ニッチマーケティングとグローバルマーケティング	テキスト、参考文献①、プリント
	7	マーケティング理論の説明（グローバル配置と統合・調整）	テキスト
	8	理論の説明（グローバル・マーケティングの組織）	テキスト
学びの実践	9	理論の説明（グローバル市場参入一折衷理論&グローバル経営のモデル）	テキスト、参考文献①
	10	グローバル・マーケティング戦略1（グローバル市場参入・新興国企業の下剋上型の戦略）	テキスト、参考文献①
	11	グローバル・マーケティング戦略2（アジア企業のグローバル戦略&台湾EMS/F C契約）	テキスト、参考文献①
	12	グローバル・マーケティング戦略3（グローバルブランド&ブランド戦略）	テキスト、プリント
	13	グローバル・マーケティング・プランの設定1（グローバル製品の選定・グローバル価格競争）	テキスト、参考文献①、プリント
	14	グローバル・マーケティング・プランの設定2（4Pの流通&販売促進）	プリント
	15	ビューティー・ビジネスのグローバル化（花王と資生堂のケース）	参考文献①&プリント
	16	テスト	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト①丸谷雄一郎（2006）『グローバル・マーケティング』創成社。参考文献①藤沢武史（2013）『グローバル・マーケティング・イノベーション』同文館</p>		
学びの手立て	<p>①テキストを購入しない人は必ず授業プリントを毎回持参する。②練習問題はほぼ毎回使用する。③自力でテキストを理解するのは難しいので、毎回出席することが肝要である。④後期の演習とセットで登録することが望ましい。</p>		
評価	<p>期末テストと出席・質問状況で総合的に評価する。期末テスト70点・平常点30点の割合で評価する。無断欠席が5回以上になると、期末テストの参加を認めない。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目としては、「アジア経済」、「アジアの企業と文化」がある。次のステージ：授業で学んだ知識と理論は現実のビジネス世界に応用できる。マーケティング、経営学について、全般に知識を高められる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営管理論Ⅰ	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	2年		

学びの準備	ねらい 年間テーマを「経営計画と経営統制」とする。本科目は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。経営管理は①生産管理、②労務管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織の、各部に分かち把握せられる。前期は、このなかでも、①生産管理と②労務管理の部分に、おおくの時間をさいて論じていく。（なお各学期の初回講義(4,9月)には必ず出席し、登録手続を行なってください	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業の展開計画 なお、本講義においては、ビデオやチャートなどの教材を多用するなどして学生諸君が興味をもって研究にとりくめるような運用をめざしていきたい。</p> <p>講義の展開計画 回数 内容 1回 講義のすすめ方、評価のしかた 2回 経営概念 3回 企業概念 4回 経営職能 5回 テーラー＝システム 6回 フォード＝システム 7回 オートメーション 8回 労働科学 9回 人間関係論 10回 行動科学 11回 テーラー式組織 12回 伝統的組織論 13回 自生組織と成分組織 14回 まとめ講義 15回 講評 16回 (予備日)</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 未定 (参考文献) 小松『経営学』サイエンス社／占部都美『新訂経営管理論』白桃書房／藻利重隆『経営管理総論』千倉書房。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営管理論Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	年間テーマを「経営計画と経営統制」とする。本科目は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。経営管理は①生産管理、②労務管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織の、各部に分かち把握せられる。前期は、このなかでも、①生産管理と②労務管理の部分に、おおくの時間をさいて論じていく。（なお各学期の初回講義(4,9月)には必ず出席し、登録手続を行なってください）	
到達目標		

学びの実践	学びのヒント																																		
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>なお、本講義においては、ビデオやチャートなどの教材を多用するなどして、学生諸君が興味をもって研究にとりくめるような運用をめざしていきたい。</p> <p>講義の展開計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>16</td><td>経営戦略概論</td></tr> <tr><td>17</td><td>戦略的組織</td></tr> <tr><td>18</td><td>企業成長</td></tr> <tr><td>19</td><td>生存領域の規定（1）</td></tr> <tr><td>20</td><td>生存領域の規定（2）</td></tr> <tr><td>21</td><td>生存領域の規定（3）</td></tr> <tr><td>22</td><td>資源展開の戦略（1）</td></tr> <tr><td>23</td><td>資源展開の戦略（2）</td></tr> <tr><td>24</td><td>競争の戦略（1）</td></tr> <tr><td>25</td><td>競争の戦略（2）</td></tr> <tr><td>26</td><td>競争の戦略（3）</td></tr> <tr><td>27</td><td>組織間関係の戦略（1）</td></tr> <tr><td>28</td><td>組織間関係の戦略（2）</td></tr> <tr><td>29</td><td>教材学習（1）</td></tr> <tr><td>30</td><td>教材学習（2）・ショートテスト</td></tr> <tr><td>31</td><td>[予備日]</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	16	経営戦略概論	17	戦略的組織	18	企業成長	19	生存領域の規定（1）	20	生存領域の規定（2）	21	生存領域の規定（3）	22	資源展開の戦略（1）	23	資源展開の戦略（2）	24	競争の戦略（1）	25	競争の戦略（2）	26	競争の戦略（3）	27	組織間関係の戦略（1）	28	組織間関係の戦略（2）	29	教材学習（1）	30	教材学習（2）・ショートテスト	31	[予備日]
	回数	内容																																	
	16	経営戦略概論																																	
17	戦略的組織																																		
18	企業成長																																		
19	生存領域の規定（1）																																		
20	生存領域の規定（2）																																		
21	生存領域の規定（3）																																		
22	資源展開の戦略（1）																																		
23	資源展開の戦略（2）																																		
24	競争の戦略（1）																																		
25	競争の戦略（2）																																		
26	競争の戦略（3）																																		
27	組織間関係の戦略（1）																																		
28	組織間関係の戦略（2）																																		
29	教材学習（1）																																		
30	教材学習（2）・ショートテスト																																		
31	[予備日]																																		
テキスト・参考文献・資料など																																			
<p>(テキスト) 未定</p> <p>(参考文献) 小松『経営学』サイエンス社／占部都美『新訂経営管理論』白桃書房／藻利重隆『経営管理総論』千倉書房。</p>																																			
学びの手立て																																			
評価																																			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て

学びの継続	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	1年		

学びの準備	ねらい 企業は、これまで生成、発展の過程をたどり、今日では社会に多大な影響を及ぼしている。経営学は、そうした企業の歩み（経営活動）について学ぶ学問である。なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ、受講許可者(抽選結果)を発表するので必ず出席されたい。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 講義の展開計画 回数 内容 1回 経営学という学問 2回 イギリスにおける企業の発展 3回 アメリカにおける企業の発展 4回 日本における企業の発展 5回 科学的管理法 6回 フォードシステム 7回 人間関係論 8回 意思決定論 9回 動機付け理論 10回 欲求5段階説 11回 単位組織と複合組織 12回 経営組織の基本形態 13回 経営組織の階層と機能 14回 経営組織の応用形態 15回 教材学習
	テキスト・参考文献・資料など (テキスト) 適宜紹介する。 (参考文献) 佐久間『経営学概論』創成社。
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	1年		

学びの準備	ねらい 企業は、これまで生成、発展の過程をたどり、今日では社会に多大な影響を及ぼしている。経営学は、そうした企業の営み（経営活動）について学ぶ学問である。なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ、受講許可者(抽選結果)を発表するので必ず出席されたい。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 講義の展開は、つぎのとおり予定している。 回数 内容 16 環境の変化と経営戦略 17 多角化戦略 18 競争戦略 19 グローバル戦略 20 アメリカにおける経営者の形成 21 日本における経営者の形成 22 所有と経営の分離 23 経営者の職能 24 コーポレート・ガバナンス理論 25 アメリカのコーポレート・ガバナンス 26 日本のコーポレート・ガバナンス 27 アメリカの経営理念 28 日本の経営理念 29 日本の経営課題 30 日本の経営課題(2)・ショートテスト 31 [予備日]
	テキスト・参考文献・資料など (テキスト) 適宜紹介する。 (参考文献) 佐久間『経営学概論』創成社。
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営情報処理 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	Email:tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では皆さんが、卒業し企業に勤めた場合に必要になってくる品質管理(QC)の基礎的手法について身につけることおよびこの品質管理手法を発展させた統計的品質管理手法(TQC)について理解することを目的に講義と演習で進めていきます。なお、統計的品質管理は、統計的な分析により作業工程や生産システムの見直しを通して、品質の向上を図る手法のことであります。	多くの人に調査や分析の結果を納得してもらうためには、結果を客観的に説明する必要があります。この客観的分析に威力を発揮するのが、数理的な処理であり、グラフ表現を使った結果の視覚化です。これにより、だれでも同じ判断ができることとなります。この授業で経営分析の基礎的手法を身につけましょう。
到達目標	エクセルを使った分析を通じて、エクセルによる数値処理、データ変換、並べ替え、項目抽出、グラフ化、ピボットテーブル、関数計算、分析ツールを使えるようになる。QCに関する基本的手法、7つの手法について分析、作成をできるようにする。統計的な指標を読み取ることができるようになる。TQCの基礎となる統計手法について分析できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	エクセルの基礎	配布資料に基づく復習と予習
	3	エクセルによる文字列処理	配布資料に基づく復習と予習
	4	エクセルによる数値処理	配布資料に基づく復習と予習
	5	度数分布表の作成	演習問題の実施
	6	ヒストグラムの作成	演習問題の実施
	7	QC 7つ道具による分析	これまでの学習内容の復習
	8	中間テスト	
9	中心極限定理と正規分布	資料にもとづく演習の実施	
10	正規分布の利用	学習内容の復習	
11	記述統計	自分のパソコンを使った復習	
12	回帰分析と相関分析	自分のパソコンを使った復習	
13	エクセルによる有意差検定	自分のパソコンを使った復習	
14	初歩的な分散分析の利用	これまでの学習内容の復習	
15	テスト		
16			
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など	配布資料で学習します。適宜、授業中に参考文献は紹介します。	
学びの手立て	これまでの担当経験から、教室の前の席に座る人と後ろの席に座る人では学習成果に違いがありますことがわかります。ひとり残らず前の席から座るようにしましょう。		
評価	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	調査研究授業や卒業論文を通じて、学習内容を自分で利用することにより、身に付けることを望みます。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営情報処理Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	Email:tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では皆さんが、卒業し企業に勤めた場合に必要になってくる品質管理(QC)の基礎的手法について身につけることおよびこの品質管理手法を発展させた統計的品質管理手法(TQC)について理解することを目的に講義と演習で進めていきます。なお、統計的品質管理は、統計的な分析により作業工程や生産システムの見直しを通して、品質の向上を図る手法のことであります。	多くの人に調査や分析の結果を納得してもらうためには、結果を客観的に説明する必要があります。この客観的分析に威力を発揮するのが、数理的な処理であり、グラフ表現を使った結果の視覚化です。これにより、だれでも同じ判断ができることとなります。この授業で経営分析の基礎的手法を身につけましょう。
到達目標	エクセルを使った分析を通じて、エクセルによる数値処理、データ変換、並べ替え、項目抽出、グラフ化、ピボットテーブル、関数計算、分析ツールを使えるようになる。QCに関する基本的手法、7つの手法について分析、作成をできるようにする。統計的な指標を読み取ることができるようになる。TQCの基礎となる統計手法について分析できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	エクセルの基礎	配布資料に基づく復習と予習
	3	エクセルによる文字列処理	配布資料に基づく復習と予習
	4	エクセルによる数値処理	配布資料に基づく復習と予習
	5	度数分布表の作成	演習問題の実施
	6	ヒストグラムの作成	演習問題の実施
	7	QC7つ道具による分析	これまでの学習内容の復習
	8	中間テスト	
9	中心極限定理と正規分布	資料にもとづく演習の実施	
10	正規分布の利用	学習内容の復習	
11	記述統計	自分のパソコンを使った復習	
12	回帰分析と相関分析	自分のパソコンを使った復習	
13	エクセルによる有意差検定	自分のパソコンを使った復習	
14	初歩的な分散分析の利用	これまでの学習内容の復習	
15	テスト		
16			
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 配布資料で学習します。適宜、授業中に参考文献は紹介します。		
学びの手立て	これまでの担当経験から、教室の前の席に座る人と後ろの席に座る人では学習成果に違いがありますことがわかります。ひとり残らず前の席から座るようにしましょう。		
評価	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 調査研究授業や卒業論文を通じて、学習内容を自分で利用することにより、身に付けることを望みます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営数学	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	2年		

学びの準備	ねらい Excelを用いて、線形計画法、日程計画、在庫管理および待ち行列について学ぶ。	メッセージ 現代の企業経営においては、経営上の意思決定を下すために、大量な情報の処理が必要とされている。このような情報の処理をおこなうには、統計的および数学的な分析の考え方と方法を学ばなければならない。そのためのひとつの手法が経営数学である。
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	線形計画法	
	3	線形計画法	
	4	線形計画法	
	5	線形計画法	
	6	日程計画	
	7	日程計画	
	8	日程計画	
	9	日程計画	
	10	在庫管理	
	11	在庫管理	
	12	在庫管理	
	13	待ち行列	
	14	待ち行列	
	15	待ち行列	
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜指定する。		
	学びの手立て		
	評価 試験結果で判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営戦略論	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	與那原 建	3年	yonahara@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 競争優位につながる経営戦略はいかなる内容をもつかを明らかにする	メッセージ 経営戦略というテーマに関心を持ち、真剣に講義に取り組める学生を歓迎します
	到達目標 ①経営戦略にかかわるテーマに対して、自分自身の意見や考え方を論ずることができる ②経営戦略の解明に必要な情報を収集・活用することができる ③経営戦略の考え方や思考方法を通じて経営現象をとらえることができる	

学びの準備	ねらい 競争優位につながる経営戦略はいかなる内容をもつかを明らかにする	メッセージ 経営戦略というテーマに関心を持ち、真剣に講義に取り組める学生を歓迎します
	到達目標 ①経営戦略にかかわるテーマに対して、自分自身の意見や考え方を論ずることができる ②経営戦略の解明に必要な情報を収集・活用することができる ③経営戦略の考え方や思考方法を通じて経営現象をとらえることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション - 本講義の概要説明	
	2	経営戦略とは何か	事後学習と疑問等の確認
	3	経営戦略の決定と不確実性	事後学習と疑問等の確認
	4	経営戦略と経営資源	事後学習と疑問等の確認
	5	経営戦略のレベル - 全社レベルの戦略 (企業戦略)	事後学習と疑問等の確認
	6	経営戦略のレベル - 事業レベルの戦略 (競争戦略)	事後学習と疑問等の確認
	7	まとめ①	
	8	ドメインの定義 - 望ましいドメインの条件	事後学習と疑問等の確認
	9	経営資源の展開 - 資源の獲得・蓄積	事後学習と疑問等の確認
	10	経営資源の配分 - PPM	事後学習と疑問等の確認
	11	業界構造分析 - ファイブ・フォース・モデル	事後学習と疑問等の確認
	12	業界構造の事例分析	事後学習と疑問等の確認
	13	競争戦略の基本型とトレードオフ - 戦略グループと移動障壁	事後学習と疑問等の確認
	14	ビジネスシステムの構築と持続的競争優位	事後学習と疑問等の確認
	15	ビジネスシステムの事例分析	事後学習と疑問等の確認
16	まとめ②		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用せず、適宜プリントを配付する。参考文献・資料については、講義の中で紹介していく。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 事後学習 (復習) をしっかり行い、学んだ内容を整理するとともに、疑問等があれば積極的に質問すること。
-------	---

学びの実践	評価 クラスへの貢献度 (到達目標①)、小レポート (到達目標②、③)、学期末試験 (到達目標①、②、③) で評価する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営分析	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、会社が公表する会計データの集め方と、その利用の仕方を解説します。具体的には、実際にインターネット等を通じて入手した実際の会社情報（会計データ）を、様々な分析手法を用いて計算し、それを解釈することによって、会計データの使い方を修得します。	イメージだけで会社を判断すると、「就職先、失敗だった」「取引先に裏切られた」「株式投資で大損した」など、痛い目に遭うことが多々あります。そうならないためには、会社の本当の姿を知らなければなりません。そのために必要なツールが経営分析です。

到達目標	① 会社が公表する会社情報（会計データ）を入手できる。 ② 上記①で入手した会計データを様々な分析手法を用いて計算できる。 ③ 上記②で計算した結果を解釈し、会社の成長性、収益性、効率性、安全性等を評価できる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	経営分析の意義	講義内容の復習
	3	会社情報（会計データ）の集め方	同上
	4	貸借対照表の見方	同上
	5	損益計算書の見方	同上
	6	キャッシュ・フロー計算書の見方	同上
	7	会社の全体像をつかむ	同上
	8	中間テスト	—
	9	会社の成長性をつかむ	同上
	10	会社の収益力をはかる	同上
	11	安全な会社の見分け方	同上
	12	会社の資金運用力を見る	同上
	13	損益分岐点を計算する	同上
	14	会社を総合的に評価する	同上
15	分析をする際の留意点	同上	
16	期末テスト	—	

学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。プリントを配布します。 ・参考文献：講義中に紹介します。
--------	--

履修上の注意事項／心構え：	・「商業簿記Ⅰ」「同Ⅱ」を履修済みの学生（またはそれと同等の能力を持つ学生）しか登録できません。 ・初回講義に欠席した場合、登録を取り消すこともあります。 ・例年、遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないよう心がけてください。 学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。 経営分析の知識が付くにつれて、これらの記事・ニュースが理解できるようになります。
---------------	---

評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します）
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：経営分析演習（3年次）、財務会計ⅠⅡ（3年次）など、会計コースの諸科目
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営分析演習	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、前期の「経営分析」で学んだ会計データの集め方・利用の仕方を活かして、実際に経営分析を行います。具体的には、受講生各自が分析対象企業を選択し、インターネット等を通じて会社情報（会計データ）を入手し、様々な分析手法を用いて計算し、それを解釈し、レポートにまとめます。	2015年度はサンエー、イオン、セブン&HD、ファミマ、ローソン、ANA、JAL、江崎グリコ、明治HDなど、受講生各自がそれぞれ興味を持った企業を分析しました。分析結果を就活に活用する学生もいるようです。

到達目標
① 会社が公表する会社情報（会計データ）を入手できる。 ② 上記①で入手した会計データを様々な分析手法を用いて計算できる。 ③ 上記②で計算した結果を解釈し、会社の成長性、収益性、効率性、安全性等を評価できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	分析企業の選択	講義内容の復習
	3	会社情報（会計データ）の収集	同上
	4	会社の全体像をつかむ：①平均貸借対照表の作成	同上
	5	” ②平均損益計算書の作成	同上
	6	” ③平均キャッシュ・フロー計算書の作成	同上
	7	会社の成長性をつかむ：伸び率の計算	同上
	8	会社の収益力をはかる：①資本利益率の計算	同上
	9	” ②売上高利益率の計算	同上
	10	” ③資本回転率の計算	同上
	11	” ④損益分岐点の計算	同上
	12	安全な会社の見分け方：①短期的な安全性の分析	同上
	13	” ②長期的な安全性の分析	同上
	14	会社の資金運用力を見る	同上
15	会社を総合的に評価する	同上	
16	レポート提出	—	

テキスト・参考文献・資料など
・テキスト：使用しません。プリントを配布します。 ・参考文献：講義中に紹介します。

学びの手立て
履修上の注意事項／心構え： ・「経営分析」を履修済みの学生しか登録できません。 ・初回講義に欠席した場合、登録を取り消すこともあります。 ・例年、遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないよう心がけてください。 学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。経営分析の知識が付くにつれて、これらの記事・ニュースが理解できるようになります。

評価
・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・レポート……80点（上記「到達目標」を評価します）

学びの継続
次のステージ・関連科目 関連科目：財務会計ⅠⅡ（3年次）、資金会計（3年次）など、会計コースの諸科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論Ⅰ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年		

学びの準備	ねらい 経済学はミクロ経済学とマクロ経済学の二つに大きく分けられるが、「経済原論Ⅰ」ではミクロ経済学を学ぶ。具体的には、経済を構成する個々の消費者や企業はどのような行動をとるのか、市場において財・サービスの価格や数量はどのように決定されるのかを学ぶ。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法などを説明する	
	2	需要曲線と供給曲線	
	3	市場均衡と均衡の安定性	
	4	需要曲線・供給曲線のシフト	
	5	価格弾力性	
	6	余剰分析①	
	7	余剰分析②	
	8	消費者行動の理論①	
9	消費者行動の理論②		
10	消費者行動の理論③		
11	生産者行動の理論①		
12	生産者行動の理論②		
13	生産者行動の理論③		
14	パレート最適		
15	市場の失敗と独占		
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。		
	学びの手立て		
	評価 試験結果で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済原論Ⅱ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年		

学びの準備	ねらい マクロ経済学とは、一国の経済を個人の総体である家計部門、企業の総体である企業部門および政府部門の3つの主体による活動と捉え、社会全体を包括的に分析する学問である。マクロ経済学を学ぶ目的は、国民所得はどのように決定されるのか、デフレや失業といった経済現象がなぜ生じるのか、といったことを理解することにある。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法などを説明する	
	2	国民所得の諸概念	
	3	均衡所得の決定① 有効需要の原理、消費関数、投資関数	
	4	均衡所得の決定② 消費・投資需要と均衡国民所得	
	5	均衡所得の決定③ 需要の変化と乗数効果	
	6	均衡所得の決定④ 需要の変化と乗数効果	
	7	IS-LM分析① IS曲線①	
	8	IS-LM分析② LM曲線②	
	9	IS-LM分析② LM曲線①	
	10	IS-LM分析② LM曲線②	
	11	財政政策①	
	12	財政政策②	
	13	金融政策①	
	14	金融政策②	
15	講義の総括		
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。		
	学びの手立て		
	評価 試験の結果で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	原価計算 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業では、日商簿記検定試験1級の原価計算レベルの問題を通じて、「原価計算の考え方」を学ぶことを目的とします。	メッセージ 原価計算 I・II を通して、日商簿記検定試験1級の原価計算の一部範囲を学習します。授業で学んだ原価計算の基本的な考え方を、皆さんの生活の中でも生かしていただくと嬉しいです。
	到達目標 ・工業簿記 I・II で学習した知識をさらに深めていく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	原価計算の意義・目的	
	3	原価の概念	
	4	材料費	
	5	材料費	
	6	労務費	
	7	労務費	
	8	経費	
	9	個別原価計算	
	10	個別原価計算	
	11	部門別原価計算	
	12	部門別原価計算	
	13	部門別原価計算	
	14	個別原価計算による仕損	
	15	復習	
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など ・TAC出版開発グループ『スッキリわかる日商簿記1級工業簿記・原価計算 I 費目別個別原価計算編』TAC出版 ・電卓 (12桁以上) を持参すること		
	学びの手立て ・工業簿記 I・II を履修していること。 ・本授業は日商簿記検定試験1級原価計算レベルの内容を学習していきますが、原価計算 I・II を通して一部しか触れることができません。「合格」するためには自主学習が必要となります。		
	評価 定期試験70点、平常点 (ミニテスト、課題提出等) 30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	原価計算Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業では、日商簿記検定試験1級の原価計算レベルの問題を通じて、「原価計算の考え方」を学ぶことを目的とします。	メッセージ 原価計算Ⅰ・Ⅱを通して、日商簿記検定試験1級の原価計算の一部範囲を学習します。授業で学んだ原価計算の基本的な考え方を、皆さんの生活の中でも生かしていただくと嬉しいです。
	到達目標 ・原価計算Ⅰで学習した知識をさらに深めていく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	原価計算Ⅰの復習	
	3	総合原価計算	
	4	総合原価計算	
	5	標準総合原価計算	
	6	標準総合原価計算	
	7	直接原価標準総合原価計算計算	
	8	直接原価計算	
	9	直接原価計算	
	10	直接原価計算	
	11	CVP分析	
	12	CVP分析	
	13	際の分析	
	14	予算編成と意思決定	
	15	復習	
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など 後日、指定します。		
	学びの手立て ・原価計算Ⅰを履修していること。 ・本授業は日商簿記検定試験1級原価計算レベルの内容を学習していきますが、原価計算Ⅰ・Ⅱを通して一部しか触れることができません。「合格」するためには自主学習が必要となります。		
	評価 定期試験70点、平常点（ミニテスト、課題提出等）30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業では、日商簿記検定試験2級工業簿記の範囲を学習し、検定試験の問題を概ね解答できるようになることを目的としています。	メッセージ 工業簿記 I・II を通じて、日商簿記検定試験2級工業簿記の範囲を学習します。授業では、テキストで解説を行い、トレーニングで問題を解いてもらいます。本授業は、工業簿記 I と II を前期中に学習する内容となっています。短期集中の学習を希望する方（前期で一通り学習を終えたい方、6月、11月の検定試験受験を予定している方等）向けの授業です。
	到達目標 日商簿記検定試験2級工業簿記レベルの知識を習得し、工業簿記・原価計算の基礎的な内容を把握することができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	工業簿記の基礎	
	2	工業簿記の勘定連絡	
	3	材料費①	
	4	材料費②	
	5	労務費①	
	6	労務費②	
	7	経費	
	8	個別原価計算	
	9	個別原価計算	
	10	個別原価計算	
	11	部門別個別原価計算	
	12	部門別個別原価計算	
	13	部門別個別原価計算	
	14	部門別個別原価計算	
	15	単純総合原価計算	
	16	単純総合原価計算	
	17	総合原価計算の仕損・減損	
	18	等級別総合原価計算	
	19	組別総合原価計算	
	20	工程別総合原価計算	
	21	財務諸表	
	22	標準総合原価計算	
	23	標準総合原価計算	
	24	標準総合原価計算	
	25	直接原価計算	
	26	直接原価計算	
	27	直接原価計算	
	28	CVP分析	
29	本社工場会計		
30	復習		
31	試験		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級工業簿記 *最新版』TAC出版 ・TAC簿記検定講座『合格トレーニング日商簿記2級工業簿記 *最新版』TAC出版 (注)平成28年度6月検定試験に向けての最新版であること ・電卓(12桁以上)を持参すること
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簿記の「仕訳」を理解していること。 ・本授業は、日商簿記検定試験2級工業簿記レベルの問題を解く時間も設けますが、『合格』するためにはかなりの自主学習が必要です。
	<p>評価</p> <p>定期試験70点、平常点(授業中の課題の取り組み、ミニテスト、宿題等)30点</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記Ⅰ	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業では、日商簿記検定試験2級工業簿記の範囲を学習し、検定試験の問題を概ね解答できるようになることを目的としています。	メッセージ 工業簿記Ⅰ・Ⅱを通じて、日商簿記検定試験2級工業簿記の範囲を学習します。授業では、テキストで解説を行い、トレーニングで問題を解いてもらいます。本授業は、長期での学習を希望する方は、前期に工業簿記Ⅰ、後期に工業簿記Ⅱを履修することをお勧めします。
	到達目標 日商簿記検定試験2級工業簿記レベルの知識を習得し、工業簿記・原価計算の基礎的な内容を把握することができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	工業簿記の基礎	
	2	工業簿記の勘定連絡	
	3	材料費①	
	4	材料費②	
	5	労務費①	
	6	労務費②	
	7	経費	
	8	個別原価計算	
9	個別原価計算		
10	個別原価計算		
11	部門別個別原価計算		
12	部門別個別原価計算		
13	部門別個別原価計算		
14	部門別個別原価計算		
15	復習		
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など ・TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記検定試験2級工業簿記 *最新版』TAC出版 ・TAC簿記検定講座『合格トレーニング日商簿記検定試験2級工業簿記 *最新版』TAC出版 (注)平成28年度6月検定試験に向けての最新版であること ・電卓(12桁以上)を持参すること		
	学びの手立て ・簿記の「仕訳」を理解していること ・本授業は、日商簿記検定試験2級工業簿記レベルの問題を解く時間も設けますが、『合格』するためにはかなりの自主学習が必要です。		
	評価 定期試験70点、平常点(授業中の課題への取り組み、ミニテスト、宿題等)30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記Ⅱ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業では、日商簿記検定試験2級工業簿記の範囲を学習し、検定試験の問題を概ね解答できるようになることを目的としています。	メッセージ 工業簿記Ⅰ・Ⅱを通じて、日商簿記検定試験2級工業簿記の範囲を学習します。授業では、テキストで解説を行い、トレーニングで問題を解いてもらいます。本授業は、工業簿記ⅠとⅡを前期中に学習する内容となっています。短期集中の学習を希望する方（前期で一通り学習を終えたい方、6月、11月の検定試験受験を予定している方等）向けの授業です。
	到達目標 日商簿記検定試験2級工業簿記レベルの知識を習得し、工業簿記・原価計算の基礎的な内容を把握することができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	工業簿記の基礎	
	2	工業簿記の勘定連絡	
	3	材料費①	
	4	材料費②	
	5	労務費①	
	6	労務費②	
	7	経費	
	8	個別原価計算	
	9	個別原価計算	
	10	個別原価計算	
	11	部門別個別原価計算	
	12	部門別個別原価計算	
	13	部門別個別原価計算	
	14	部門別個別原価計算	
	15	単純総合原価計算	
	16	単純総合原価計算	
	17	総合原価計算の仕損・減損	
	18	等級別総合原価計算	
	19	組別総合原価計算	
	20	工程別総合原価計算	
	21	財務諸表	
	22	標準総合原価計算	
	23	標準総合原価計算	
	24	標準総合原価計算	
	25	直接原価計算	
	26	直接原価計算	
	27	直接原価計算	
	28	CVP分析	
	29	本社工場会計	
30	復習		
31	試験		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級工業簿記 *最新版』TAC出版 ・TAC簿記検定講座『合格トレーニング日商簿記2級工業簿記 *最新版』TAC出版 (注)平成28年度6月検定試験に向けての最新版であること ・電卓(12桁以上)を持参すること
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簿記の「仕訳」を理解していること。 ・本授業は、日商簿記検定試験2級工業簿記レベルの問題を解く時間も設けますが、『合格』するためにはかなりの自主学習が必要です。
	<p>評価</p> <p>定期試験70点、平常点(授業中の課題の取り組み、ミニテスト、宿題等)30点</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業では、日商簿記検定試験2級工業簿記の範囲を学習し、検定試験の問題を概ね解答できるようになることを目的としています。	メッセージ 工業簿記Ⅰ・Ⅱを通じて、日商簿記検定試験2級工業簿記の範囲を学習します。授業では、テキストで解説を行い、トレーニングで問題を解いてもらいます。本授業は、長期での学習を希望する方は、前期に工業簿記Ⅰ、後期に工業簿記Ⅱを履修することをお勧めします。
	到達目標 日商簿記検定試験2級工業簿記レベルの知識を習得し、工業簿記・原価計算の基礎的な内容を把握することができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	単純総合原価計算	
	2	単純総合原価計算	
	3	総合原価計算の仕損・減損	
	4	等級別総合原価計算	
	5	組別総合原価計算	
	6	工程別総合原価計算	
	7	財務諸表	
	8	標準総合原価計算	
	9	標準総合原価計算	
	10	標準総合原価計算	
	11	直接原価計算	
	12	直接原価計算	
	13	CVP分析	
	14	本社工場会計	
	15	復習	
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など <ul style="list-style-type: none"> ・TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記検定試験2級工業簿記 *最新版』TAC出版 ・TAC簿記検定講座『合格トレーニング日商簿記検定試験2級工業簿記 *最新版』TAC出版 (注)平成28年度6月検定試験に向けての最新版であること <ul style="list-style-type: none"> ・電卓(12桁以上)を持参すること 		
	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> ・簿記の「仕訳」を理解していること ・本授業は、日商簿記検定試験2級工業簿記レベルの問題を解く時間も設けますが、『合格』するためにはかなりの自主学習が必要です。 		
	評価 定期試験70点、平常点(授業中の課題への取り組み、ミニテスト、宿題等)30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	広告論	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業がいかにか素晴らしい製品を提供したとしても、それを消費者が知らなければ販売に結びつかない。また、製品の特徴を正しく理解させなければ市場競争を優位にすることはできない。それほど、企業にとって市場とのコミュニケーションは重要となる。本講義は、プロモーション戦略の立案等について理解する。	メッセージ ・企業経営や起業、または企画業務（経営計画、マーケティング、販促など）に興味ある学生はもちろんだが、それ以外の学生の受講も可。 ・前期開講のセールス・プロモーションと関連するので、セールス・プロモーションの受講をすすめる。
	到達目標 ・企業のプロモーション活動や消費者行動研究の知識を身につけ、プロモーション戦略について専門用語を用いて説明できる。 ・企業のキャンペーン等プロモーションに興味を深まり、日本経済新聞や日経MJ紙に目を通すことが習慣化する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	企業のプロモーション戦略	
	3	広告とは何か	参考文献①の第1章
	4	広告の機能と広告媒体（マスメディア、SPツール、ネット）	参考文献②の第13章
	5	セールス・プロモーション（SP）とは何か	参考文献③の第1章
	6	3つのSPと人的販売	同上
	7	広告関連の法規と規制	参考文献①の第12章
	8	広告会社の役割と機能	参考文献②の第12章
9	プロモーション戦略の体系	参考文献②の第8章	
10	媒体計画とクリエイティブ計画	同上	
11	マスメディア研究	参考文献①の第7章	
12	広告効果研究	同上	
13	消費者行動研究	同上	
14	消費者心理を活用した広告・販促活動①（事例紹介）		
15	消費者心理を活用した広告・販促活動②（事例紹介）		
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。時間外の自主学習に役立つ参考文献として以下を推薦する。①「現代広告論」岸志津江（他著）有斐閣アルマ②「新しい広告」嶋村和恵（他著）株式会社電通③「価格・プロモーション戦略」上田高穂（他著）有斐閣アルマ④「広告ビジネスに関わる人のメディアガイド」博報堂メディアパートナーズ		
	学びの手立て 毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席となる。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するの、忘れずに必ず持参すること。		
	評価 期末試験50%、レポート提出30%、授業態度20% 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 対市場活動となるマーケティング戦略におけるプロモーション活動（AD・SP）の知識を身につけ、企業のプロモーション戦略や広告ビジネスについて理解を深める。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	小売流通論 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、学生の皆さんが日々利用している小売業の基本的役割から時代環境の変化とともに進化していく小売業について理解する。	メッセージ 日頃買い物で利用する店舗（無店舗）の雰囲気やレイアウトであったり、品揃えやメニュー構成、陳列方法や接客等に関心をもってもらい、本講義と関連づけて欲しい。
	到達目標 ・流通・小売業の機能や役割等について専門用語を用いて説明ができる。 ・流通・小売業界に興味を深まり、日本経済新聞や日経MJ紙に目を通すことが習慣化する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読むこと
	2	小売業とは何か	参考文献①の第6章
	3	小売業が扱う商品とサービス	同上
	4	日本の小売業の構造と変化①	同上
	5	日本の小売業の構造と変化②	同上
	6	流通機構における小売業の役割①	参考文献①の第3章
	7	流通経路における小売業のポジショニング	同上
	8	主要商品別流通経路の基本知識①（総論）	参考文献②の小売業の類型第2章
9	主要商品別流通経路の基本知識②（生鮮食品・加工食品）	同上	
10	主要商品別流通経路の基本知識③（医薬品）	同上	
11	主要商品別流通経路の基本知識⑤（化粧品）	同上	
12	主要商品別流通経路の基本知識④（衣料品）	同上	
13	流通経路における卸売業のポジショニング	参考文献①の第5章	
14	メーカーの流通経路政策	参考文献②の小売業の類型第2章	
15	垂直的マーケティングシステム	同上	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。時間外の自主学習に役立つ参考文献として以下を推薦する。①「基礎から学ぶ流通の理論と政策」番場博之（編著）八千代出版、②「販売士検定試験3級ハンドブック」日本商工会議所、全国商工会連合会（編）（株）キャリアック		
	学びの手立て 毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席となる。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するの、忘れずに必ず持参すること。		
	評価 期末試験50%、レポート提出30%、授業態度20% 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 小売業の基本的役割や機能について知識を身につけ、時代環境の変化とともに進化する小売業の在り方を企業（メーカー）、消費者、地域社会など多面的に捉え分析する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	小売流通論Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、学生の皆さんが日々利用している小売業の基本的役割から時代環境の変化とともに進化していく小売業について理解できる。講義の後半では、これまで学んだことを基礎に店舗形態別小売業についてグループワークを行い、その内容を発表する。	メッセージ 日頃買い物で利用する店舗（無店舗）の雰囲気やレイアウトであったり、品揃えやメニュー構成、陳列方法や接客等に関心をもってもらい、本講義と関連づけて欲しい。
	到達目標 ・グループワークを通して、情報収集・分析力、報告書（パワポ）作成力、プレゼン力、協調力等のスキルアップを図る。 ・流通・小売業界に興味を深まり、日本経済新聞や日経MJ紙に目を通すことが日課となる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読むこと
	2	組織小売業とは	参考文献①第14章
	3	組織小売業の種類と特徴①（VC、COOP）	同上
	4	組織小売業の種類と特徴②（RC、FC）	同上
	5	チェーン・オペレーションとは	参考文献②の小売業の類型第5章
	6	CVSの地域密着戦略	
	7	販売形態の種類と特徴（店舗販売と無店舗販売）	参考文献①の第10章
	8	店舗形態別小売業の基本的役割①	参考文献①の第8章
	9	店舗形態別小売業の基本的役割②	参考文献①の第9章
	10	商業集積の基本的役割と機能	参考文献①の第11章
	11	まちづくり三法とその他の法律	参考文献①の第24・25章
	12	グループ発表①	
	13	グループ発表②	
	14	グループ発表③	
	15	グループ発表④	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。時間外の自主学習に役立つ参考文献として以下を推薦する。①「基礎から学ぶ流通の理論と政策」番場博之（編著）八千代出版、②「販売士検定試験3級ハンドブック」日本商工会議所、全国商工会連合会（編）（株）キャリアック		
	学びの手立て		
	毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席となる。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するの、忘れずに必ず持参すること。		
	評価		
	グループ発表80%、授業態度20% 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 小売業の基本的役割や機能について知識を身につけ、時代環境の変化とともに進化する小売業の在り方を企業（メーカー）、消費者、地域社会など多面的に捉え考察する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際関係論	前期	金3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-安座間 喜松	3年	授業終了後、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この講義は、国際関係学の初歩的および基本的なことを勉強する。従って、この講義を理解するためには国際関係の専門的な知識を必ずしも必要としない。この講義はいわば国際関係論の「入門編」であり、特にこれまで政治学やその他国際関係を専門的に勉強したことのない人を対象としている。	メッセージ この科目は国際関係論の入門学科です。したがって、国際関係論を初めて学ぶ人に対してもわかりやすく教えます。他学科の学生も歓迎します。
	到達目標 1. この科目は、学生が国際社会の仕組みを国際政治学、国際経済学、社会学等の視点から理解の一助なることを目標とする。 2. この科目は、国際関係論の入門科目と位置づけており、国際関係学あるいは政治学を専攻する学生のみならず、それらを専攻しない学生を対象としたクラスとする。 3. この科目では、広くWebclass、スライド、動画映像等を利用する講義を行い、受講生が国際関係論への理解を深めることを目標とする。	

学びの準備	到達目標 1. この科目は、学生が国際社会の仕組みを国際政治学、国際経済学、社会学等の視点から理解の一助なることを目標とする。 2. この科目は、国際関係論の入門科目と位置づけており、国際関係学あるいは政治学を専攻する学生のみならず、それらを専攻しない学生を対象としたクラスとする。 3. この科目では、広くWebclass、スライド、動画映像等を利用する講義を行い、受講生が国際関係論への理解を深めることを目標とする。
-------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1. 講義および講師紹介	
	2	2. 序論 国際関係とは	
	3	分析のレベル	
	4	無政府状態	
	5	3. 国際関係の諸理論	
	6	4. 各論 国際社会の活動主体	
	7	国家	
	8	国際組織	
	9	IGO N I G O	
	10	国連 多国籍企業	
	11	5. EU	
	12	6. 国家下位組織	
	13	7. 南北問題	
	14	8. 軍拡*軍縮	
15	9. 米ソミサイル開発競争 (ビデオ)		
16	10. インド・パキスタンの核開発 (ビデオ)		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書の指定はありません。授業に必要な項目はすべてWebclassに掲載します。講義はほぼ毎回パワーポイントスライドを使用して行われる。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 成績は上記の学期末試験に出席率を加味し、次のように決定される100-90点優 90-80点良 80-60点可 60点以下不可 59点以下不可
-------	--

学びの実践	評価 試験は、学期末試験だけを行う。最終的な成績はこの学期末試験と出欠状況を加味して与えられる。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 このクラスは将来の就職試験の準備のためにも非常に役立つであろう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経営論 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年		

学びの準備	ねらい 年間テーマを「中国経営」とする。本講義は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。外国研究にあつては、国内研究と同様に、体系的に知識把握することが比較的有効であると思われる。たとえば経営管理を理解したいのであれば、①生産管理、②労働管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織といったような諸部分にそつて把握していくのである。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>上の「ねらい」で記したことは、どこの国 地域の経済・経営・商業・ビジネスを理解するうえでも妥当することといえよう。本講義では、中国本土（中華人民共和国）の工場管理を例にとり、外国経営研究にとりくんでいく。東側国家や、発展途上国に特有の事象についても言及したい。 （なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義（4,9月）では面談のうえ、受講許可者（抽選結果）を発表するので必ず出席されたい。）</p> <p>講義の展開計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>講義のすすめ方、評価のしかた</td></tr> <tr><td>2</td><td>経営・企業概念</td></tr> <tr><td>3</td><td>外国経営研究</td></tr> <tr><td>4</td><td>中国経営研究</td></tr> <tr><td>5</td><td>経済回復期</td></tr> <tr><td>6</td><td>第1次五カ年計画の時期</td></tr> <tr><td>7</td><td>大躍進の時期</td></tr> <tr><td>8</td><td>経済調整政策の時期</td></tr> <tr><td>9</td><td>プロレタリア文化大革命の時期</td></tr> <tr><td>10</td><td>第4次五カ年計画の時期</td></tr> <tr><td>11</td><td>華国鋒政権の時期</td></tr> <tr><td>12</td><td>経済改革政策への着手期</td></tr> <tr><td>13</td><td>経済改革政策の停滞期</td></tr> <tr><td>14</td><td>まとめ</td></tr> <tr><td>15</td><td>講評、ショートテスト</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	1	講義のすすめ方、評価のしかた	2	経営・企業概念	3	外国経営研究	4	中国経営研究	5	経済回復期	6	第1次五カ年計画の時期	7	大躍進の時期	8	経済調整政策の時期	9	プロレタリア文化大革命の時期	10	第4次五カ年計画の時期	11	華国鋒政権の時期	12	経済改革政策への着手期	13	経済改革政策の停滞期	14	まとめ	15	講評、ショートテスト
	回数	内容																															
	1	講義のすすめ方、評価のしかた																															
2	経営・企業概念																																
3	外国経営研究																																
4	中国経営研究																																
5	経済回復期																																
6	第1次五カ年計画の時期																																
7	大躍進の時期																																
8	経済調整政策の時期																																
9	プロレタリア文化大革命の時期																																
10	第4次五カ年計画の時期																																
11	華国鋒政権の時期																																
12	経済改革政策への着手期																																
13	経済改革政策の停滞期																																
14	まとめ																																
15	講評、ショートテスト																																
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>（テキスト） 未定 （参考文献） 小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣、伊丹敬之ほか『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社、芝川林也（編）『経営学演習』同文館。</p>																																	
<p>学びの手立て</p> <p>評価</p>																																	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経営論Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを「中国経営」とする。本講義は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。外国研究にあつては、国内研究と同様に、体系的に知識把握することが比較的有効であると思われる。たとえば経営管理を理解したいのであれば、①生産管理、②労働管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織といったような諸部分にそつて把握していくのである。</p> <p>到達目標</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>上の「ねらい」で記したことは、どこの国 地域の経済・経営・ビジネス・商業を理解するうえでも妥当なことといえよう。本講義では、中国本土（中華人民共和国）の工場管理を例にとり、外国経営研究にとりくんでいく。東側国家や、発展途上国に特有の事象についても言及したい。 （なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義（4,9月）では面談のうえ、受講許可者（抽選結果）を発表するので必ず出席されたい。）</p> <p>講義の展開計画</p> <table border="0"> <tr><td>回数</td><td>内容</td></tr> <tr><td>16</td><td>経営管理原則</td></tr> <tr><td>17</td><td>内部経営管理組織</td></tr> <tr><td>18</td><td>上級経営管理組織</td></tr> <tr><td>19</td><td>経営管理制度（1）</td></tr> <tr><td>20</td><td>経営管理制度（2）</td></tr> <tr><td>21</td><td>国営工場の生産管理</td></tr> <tr><td>22</td><td>国営工場の労働管理</td></tr> <tr><td>23</td><td>国営工場の販売管理</td></tr> <tr><td>24</td><td>国営工場の財務管理</td></tr> <tr><td>25</td><td>企業形態</td></tr> <tr><td>26</td><td>工場におけるイデオロギー的活動</td></tr> <tr><td>27</td><td>工場における政治活動</td></tr> <tr><td>28</td><td>教材学習（1）</td></tr> <tr><td>29</td><td>教材学習（2）</td></tr> <tr><td>30</td><td>教材学習（3）・ショートテスト</td></tr> <tr><td>31</td><td>[予備日]</td></tr> </table>	回数	内容	16	経営管理原則	17	内部経営管理組織	18	上級経営管理組織	19	経営管理制度（1）	20	経営管理制度（2）	21	国営工場の生産管理	22	国営工場の労働管理	23	国営工場の販売管理	24	国営工場の財務管理	25	企業形態	26	工場におけるイデオロギー的活動	27	工場における政治活動	28	教材学習（1）	29	教材学習（2）	30	教材学習（3）・ショートテスト	31	[予備日]
	回数	内容																																	
	16	経営管理原則																																	
17	内部経営管理組織																																		
18	上級経営管理組織																																		
19	経営管理制度（1）																																		
20	経営管理制度（2）																																		
21	国営工場の生産管理																																		
22	国営工場の労働管理																																		
23	国営工場の販売管理																																		
24	国営工場の財務管理																																		
25	企業形態																																		
26	工場におけるイデオロギー的活動																																		
27	工場における政治活動																																		
28	教材学習（1）																																		
29	教材学習（2）																																		
30	教材学習（3）・ショートテスト																																		
31	[予備日]																																		
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>（テキスト） 未定 （参考文献） 小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣、伊丹敬之ほか『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社、芝川林也（編）『経営学演習』同文館。</p>																																			
<p>学びの手立て</p> <p>評価</p>																																			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済学	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	3年		

学びの準備	ねらい 世界的に進展している経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得すること。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	国際貿易と日本の経済成長①	
	3	国際貿易と日本の経済成長②	
	4	貿易の基礎理論① 貿易の基本的メカニズム	
	5	貿易の基礎理論② 比較優位と絶対優位・為替レート調整	
	6	貿易の基礎理論③ ヘクシャー＝オリーンの命題、プロダクト・サイクル理論、雁行形態論	
	7	貿易政策と経済厚生① 消費者余剰と生産者余剰、輸入関税、輸入割当	
	8	貿易政策と経済厚生② 輸出自主規制、輸出税、輸出補助金	
	9	為替レートの決定①	
	10	為替レートの決定②	
	11	IS-LM分析① IS曲線とLM曲線	
	12	IS-LM分析② 固定相場制における財政・金融政策	
	13	IS-LM分析③ 変動相場制における財政・金融政策	
	14	ポリシーミックス	
	15	まとめ	
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 その都度紹介する。		
	学びの手立て		
	評価 試験結果で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

ビジネスでの実践的な理解と実践力のため企業活動を記録する簿記システムをコンピュータ処理、報告する理論、方法を学習する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コンピュータ会計	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	2年		

学びの準備	ねらい 商業簿記を通して、学習、理解した企業活動の基礎的な簿記処理をコンピュータを通じた処理を実践し現代の企業活動を系統的に処理する能力を高める	メッセージ 毎時の課題に積極的に取り組んでください。
	到達目標 小売商業ないしは中規模企業における日常的な会計処理を理解し、コンピュータ上で行えるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	企業活動と会計処理	
	3	会計ソフトの操作と会計処理	
	4	現預金、売上の会計処理	
	5	仕入、経費の会計処理	
	6	人件費の会計処理	
	7	日常的処理と試算表の作成	
	8	企業に関わる税の会計処理	
9	日常活動の入力処理と試算表の作成①		
10	日常活動の入力処理と試算表の作成②		
11	決算手続きと会計処理		
12	月次活動の入力処理と財務諸表の作成①		
13	月次活動の入力処理と財務諸表の作成②		
14	会計データの新規作成		
15	実践的データ処理と財務諸表の作成		
16			
	テキスト・参考文献・資料など コンピュータ会計基本テキスト 実教出版 コンピュータ会計基本問題集 実教出版		
	学びの手立て 1年次に学習する商業簿記をよく復習するとともに、毎時の課題を積極的に行い、簿記システムの理解を深めてください。		
	評価 講義毎の課題の提出 100		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 商業簿記Ⅰ 商業簿記Ⅱ 会計学 財務会計 現代ビジネスに必須である帳簿の会計処理の実践力を高め、財務報告等が作成できるようになる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コンピュータ会計	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	2年	E-mail : ptt451@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業会計に欠かせない会計ソフトの演習を通して、現代の会計実務の基本を学習する。	メッセージ 企業人としての一般的な知識、特に事務系の職種に、必要な学習です。
	到達目標 1年次で学習した簿記会計の知識を会計ソフトを使って、実務面でも活かせるようにします。各種のコンピュータ会計検定資格も取得可能となります。	

学びの準備	到達目標 1年次で学習した簿記会計の知識を会計ソフトを使って、実務面でも活かせるようにします。各種のコンピュータ会計検定資格も取得可能となります。

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス・企業活動と会計処理 1
	2	企業活動と会計処理 2
	3	会計ソフトの操作と基礎知識 1. 電子会計データの流れ
	4	会計ソフトの操作と基礎知識 2. 導入から科目設定・変更
	5	会計ソフトの操作と基礎知識 3. 補助科目の設定他
	6	会計データの入力 1. 現金・預金
	7	会計データの入力 2. 仕入・売上
	8	会計データの入力 3. 経費・その他の債権債務
	9	会計データの入力 4. 人件費・税
	10	会計データの入力 5. 証憑に基づくデータ入力
	11	知識問題と入力問題 1
	12	知識問題と入力問題 2
	13	知識問題と入力問題 3
	14	月次決算処理と会計データの入力練習 1
	15	月次決算処理と会計データの入力練習 2
16	確認試験	
		時間外学習の内容
		体験版インストール
		操作確認
		操作確認
		問題集の入力等確認
		問題集の入力等確認
		問題集の入力等確認
		問題集の入力等確認
		練習問題 (課題提出)
		練習問題 (課題提出)
		練習問題 (課題提出)
		練習問題 (課題提出)
		練習問題 (課題提出)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：(時間内使用) 『コンピュータ会計基本テキスト』実教出版 (時間外使用) 『コンピュータ会計基本問題』実教出版 参考文献：『電子会計 実務検定試験 公式ガイドブック』初級・中級 日本商工会議所編集
-------	---

学びの実践	学びの手立て 基本的な簿記の知識を前提にしています。 各項目での講義の後、知識の問題と会計ソフト入力問題を行います。 講義は、テキストに沿って進めますので、欠席する場合、講義範囲を確認し、理解するようにしてください。 またパソコン操作の習得のため、練習量も確保してください。
-------	---

学びの実践	評価 確認試験 (40%)、課題の提出 (30%)、出席状況等 (30%) で総合評価。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「関連科目」会計学、原価計算、財務会計、管理会計、経営分析、資金会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	サービス・マーケティング	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-親泊 元彦	3年	hcrokinawa@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい サービスとは何か。様々な成功事例を紹介し、補足・解説を加えながらその本質に迫ります。更に、サービスを越えた付加価値としてのホスピタリティについても学びます。	メッセージ グループ学習も取り入れます。毎回、グループを抽選で決めます。「一期一会」の精神で「メンバーに自分の意見をしっかり伝える」「相手の意見をしっかり聞く」ことを意識的に実践し、相互理解を深めます。
	到達目標 1. サービスの定義を自分の言葉で表現することが出来るようになること。 2. 様々な成功事例から、その本質を探り、それらをどのように応用するかを考えること。 3. 企業が求める人材の条件を把握し、「あるべき自分創り」に生かすこと。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス（講義概要、受講の仕方、ゴール設定）
	2	サービスとは何か
	3	付加価値としてのサービス
	4	サービスと顧客満足
	5	事例紹介及びその補足・解説1
	6	事例紹介及びその補足・解説2
	7	事例紹介及びその補足・解説3
	8	サービスの今日的課題・テーマ
9	企業経営におけるサービスの位置づけ	
10	サービスと人材育成	
11	差別的優位性としてのサービスとは	
12	サービスを越えた付加価値としてのホスピタリティとは何か	
13	ホスピタリティと顧客満足	
14	サービスの将来展望	
15	講義のまとめ	
16	学期末試験	
	時間外学習の内容	
	個人目標の設定	
	サービスの本質を考える	
	サービスの本来の価値とは何か	
	顧客満足の条件とは何か	
	身近に同様・類似の事例を探索する	
	同上	
	同上	
	現状分析と解決策の模索	
	サービスの本来のありかたを考える	
	あるべき理想の人財像とは	
	差別的優位性とは	
	ホスピタリティの本質とは	
	ロイヤルカスタマーとは	
	時代のトレンドを把握する	
	これまでの振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定はありません。必要に応じて講義の際にプリント・レジュメ等で配布します。	
	学びの手立て 毎回講義の始めに、1週間の振り返り（フィードバック）を行います。よって、毎週計画的に過ごすことでフィードバックがスムーズになります。また、1週間のサイクルで繰り返すことで生活のリズムが掴めるようになり、より良い習慣が身に付きます。	
	評価 出席状況、受講態度、課題・レポート等の提出及びその内容、学期末試験等を総合的に判断して評価をします。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 個別の質問や相談等に対しては、可能な限り対応します。
-------	---

※ポリシーとの関連性

ビジネスの中心の担う企業の経営活動が、どのような理論・技法に基づいて記録され、報告されるかについて具体的にみていく。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財務会計 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 由正	3年	uezu@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 現行の公表会計制度は、企業の一定時点の財政状態や一期間の経営成績並びに資金フローの状態を財務諸表の利用によって外部の利害関係者に報告することを目的としている。このような財務諸表によって企業のどのような活動が写像されているかを理解するためには、企業の資本活動が、会計システムという媒介によって、どのようにとらえられているかを理解することが本講のねらいである	メッセージ 企業の会計記録がなぜ、どのように外部利害関係者に報告されるかをしっかり学んでください。
	到達目標 財務諸表報告の前提となる基礎理論を理解する。損益計算書を体系的、理論的に理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	会計主体論	
	3	会計公準論	
	4	企業会計原則と会社法	
	5	企業会計の一般原則 I	
	6	企業会計の一般原則 II	
	7	損益計算書概論	
	8	収益・費用の認識と測定 I	
	9	収益・費用の認識と測定 II	
	10	収益・費用の認識と測定 III	
	11	費用と収益の対応	
	12	営業損益計算	
	13	期間業績計算	
	14	包括利益計算	
	15	損益計算書総論	
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など 『財務会計 第13版』 広瀬 義州 中央経済社		
	学びの手立て 企業の経営活動が報告される財務諸表の基礎理論と損益計算書作成理論について学習していきます		
	評価 試験90点および講義での課題等10点、計100点満点で評価します。なお、テキストがないとこの授業は理解できないのでテキストの持参がないと欠席扱いになります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 財務会計の基礎理論、損益計算書作成理論をもとに貸借対照表作成理論、キャッシュ・フロー計算理論へと展開していきます。
-------	--

※ポリシーとの関連性

ビジネスの中心を担う企業の経営活動が、どのような理論に基づいて記録され、報告されるかについて具体的な学習を進める

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財務会計Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 由正	3年	uezu@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 現行の公表会計制度は、企業の一定時点の財政状態や一期間の経営成績並びに資金フローの状態を財務諸表の利用によって外部の利害関係者に報告することを目的としている。このような財務諸表によって企業のどのような活動が写像されているかを理解するためには、企業の資本活動が、会計システムという媒介によって、どのようにとらえられているかを理解することが本講のねらいである。	メッセージ 企業の会計記録がなぜ、どのように外部利害関係者に報告されるかをしっかり学んでください。
	到達目標 財務諸表報告の前提となる基礎理論に基づいた、貸借対照表を体系的、理論的に理解できる。 個別財務諸表を基礎とした、企業結合に関わる会計処理および財務報告について理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	貸借対照表概論	
	3	貸借対照表の分類基準	
	4	流動資産の会計処理Ⅰ	
	5	流動資産の会計処理Ⅱ	
	6	固定資産の会計処理Ⅰ	
	7	固定資産の会計処理Ⅱ	
	8	繰延資産の会計処理	
	9	負債の会計処理	
	10	純資産の部の会計処理	
	11	純資産の部の会計処理	
	12	連結財務諸表Ⅰ(概論)	
	13	連結財務諸表Ⅱ(資本連結)	
	14	連結財務諸表Ⅲ(P/L、B/Sの作成)	
	15	連結財務諸表Ⅳ(連結財務諸表の利用)	
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など 『財務会計 第13版』 広瀬 義州 中央経済社		
	学びの手立て 企業の経営活動が報告される財務諸表の基礎理論を理解し、有価証券報告書にどのように報告されるかを見ていきます。テキスト、講義による理論学習とともに、どのように報告されているかを関連づけて理解できるよう、両者を常に比較しながら学習を進めてください。		
	評価 授業に対する姿勢、試験、レポート等を総合的に評価する。なお、テキストがないとこの授業は理解できないのでテキストの持参がないと欠席扱いになります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 貸借対照表論および連結会計を理解することにより、ビジネスでの企業の経営活動を認識、報告を統合的に行うこと、また、報告された財務諸表を体系的に分析していく。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	資金会計	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 由正	3年	uezu@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業の実態を把握するための財務諸表のひとつとしてキャッシュ・フロー計算書が導入されている。これは、企業活動を総括的な資本活動だけではなく、「資金的」な視点から把握することの重要性の表れである。これにより、企業の「資金」が、どのような企業活動によって生み出され、また費消されているかを理解することが可能となる。企業内の資金の動きを理解し、より多角的に企業活動を把握する。	メッセージ 財務会計と違った視点からの企業活動の把握を是非身につけてください。
	到達目標 Ⅰ. キャッシュ・フロー計算書を作成、分析できる。 Ⅱ. キャッシュ(外貨を含む)による企業活動の認識、記録ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	資金会計概論	
	3	キャッシュ・フロー計算Ⅰ(概論)	
	4	キャッシュ・フロー計算Ⅱ(キャッシュ・フロー計算書の作成①)	
	5	キャッシュ・フロー計算Ⅲ(キャッシュ・フロー計算書の作成②)	
	6	キャッシュ・フロー計算Ⅳ(キャッシュ・フロー計算書の構造)	
	7	損益情報とキャッシュ・フロー計算書情報の比較	
	8	キャッシュ・フロー情報の利用(ディスカунティッド・キャッシュ・フロー)	
	9	キャッシュ・フロー情報の利用(ネット・プレゼント・バリュー)	
	10	キャッシュ・フロー情報の利用(キャッシュ・フロー計算書による企業分析)	
	11	外貨建資金取引の会計処理Ⅰ	
	12	外貨建資金取引の会計処理Ⅱ	
	13	金融資金取引の会計処理(リース取引)	
	14	金融資金取引の会計処理(デリバティブ取引)	
15	キャッシュ・フローと企業会計		
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 受講時に指示する		
	学びの手立て 1. 2年次に学習する発生主義に基づいた企業活動認識とキャッシュ・フローの違いを各講義毎に復習してステップアップしていきます。		
	評価 試験80 課題20		

学びの継続	次のステージ・関連科目 財務諸表の複眼的理解による企業活動の多面的な認識を実践できます。 関連科目 財務会計 原価計算 経営分析
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	市場調査演習	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-饒平名 知也	2年	tomoya@ecostation.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	市場調査は、企業のマーケティング意志決定を支援するために行なう一連の活動である。本講では、マーケティングの基礎を学びながら、調査調査の意義やマーケティングとの関連性、調査調査の種類と手法及び活用方法を理解できるようにする。	企業活動においてマーケティング的思考と行動は不可欠なものです。その中でも市場調査は、より具体的にマーケットを知る手がかりになります。漠然としたマーケティングを身近なものにしましょう。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの基礎を理解し、就活及び就職後に社会人として行動できること。 ・前期で学んだ市場調査の種類、手法、分析方法、活用方法を応用し、実際に調査を実体験、分析、プレゼンテーションを行う。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	事前にシラバス、テキストを確認
	2	マーケティングの基礎と市場調査	講義時間内に課題を指示する
	3	調査手法の概要（1）	同上
	4	調査手法の概要（2）	同上
	5	調査テーマの選定とグループ分け	同上
	6	調査手法の選定	同上
	7	中間プレゼンテーション（1）	プレゼンテーション準備
	8	中間プレゼンテーション（2）	プレゼンテーション準備
	9	調査分析	調査分析の事前学習
	10	分析手法	分析手法の事前学習
	11	フィールドワーク（1）	フィールドワーク準備
	12	フィールドワーク（2）	フィールドワーク準備
	13	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーション準備
	14	プレゼンテーション（2）	プレゼンテーション準備
15	プレゼンテーション（3）	プレゼンテーション準備	
16	テスト（テキスト持ち込み可能）	テスト対策	

テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・「マーケティング戦略」第4版 有斐閣アルマ 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦〔著〕 価格 2,000円（税別） ※指定したテキストは購入すること
----------------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の内容を理解できた学生は履修してください ・出欠確認は毎回行う。やむを得ず欠席する場合は事前にメールにて連絡すること。 ・指定したテキストを事前に通読することを薦める。 ・時間外学習として、毎日新聞に通すこと。日々刻々と変化するマーケットを知る手がかりとする。 ・講義中に離席、退出は認めない。また、講義中の私語、携帯、飲食等の行為は厳しく指導する。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席（50％） 遅刻・無届け欠席は減点対象とする。 ・テスト（20％） テキスト持ち込み可能。 テキストを購入しないと不利になります。 ・受講態度（20％） 質疑応答は受講態度の加点と評価する。 ・レポート（10％）
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング論を企業行動と結びつけ、さらに広い視点でビジネスを考える力を身につける。 ・日本経済新聞を毎日読む習慣を身につける。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	市場調査総論	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-饒平名 知也	2年	tomoya@ecostation.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	市場調査は、企業のマーケティング意志決定を支援するために行なう一連の活動である。本講では、マーケティングの基礎を学びながら、調査調査の意義やマーケティングとの関連性、調査調査の種類と手法及び活用方法を理解できるようにする。	企業活動においてマーケティング的思考と行動は不可欠なものです。その中でも市場調査は、より具体的にマーケットを知る手がかりになります。漠然としたマーケティングを身近なものにしましょう。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの基礎を理解し、就活及び就職後に社会人として行動できること。 ・市場調査の種類、手法、分析方法、活用方法を学び、調査の役割を理解する。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	事前にシラバス、テキストを確認
	2	マーケティングの基礎	毎講義時間内に課題を指示する
	3	マーケティング・マネジメント	同上
	4	マーケティング・ミックス戦略	同上
	5	マーケティング調査の概要	マーケティングについてレポート提出
	6	マーケティング調査の成功と失敗	毎講義時間内に課題を指示する
	7	定量調査の方法（1）	定量調査の例を事前学習
	8	定量調査の方法（2）	同上
	9	定性調査の方法（1）	定性調査の例を事前学習
	10	定性調査の方法（2）	同上
	11	マーケティング調査の課題	調査の事例
	12	調査票の設計	実際の設計
	13	統計的分析の基礎（1）	統計基礎を事前学習
	14	統計的分析の基礎（2）	同上
15	プレゼンテーション	パワーポイントの利用	
16	テスト（テキスト持ち込み可能）	テスト対策	

テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・「マーケティング戦略」第4版 有斐閣アルマ 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦〔著〕 価格 2,000円（税別） ※指定したテキストは購入すること
----------------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の内容を理解できた学生は履修してください ・出欠確認は毎回行う。やむを得ず欠席する場合は事前にメールにて連絡すること。 ・指定したテキストを事前に通読することを薦める。 ・時間外学習として、毎日新聞に通すこと。日々刻々と変化するマーケットを知る手がかりとする。 ・講義中に離席、退出は認めない。また、講義中の私語、携帯、飲食等の行為は厳しく指導する。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席（50%） 遅刻・無届け欠席は減点対象とする。 ・テスト（20%） テキスト持ち込み可能。 テキストを購入しないと不利になります。 ・受講態度（20%） 質疑応答は受講態度の加点と評価する。 ・レポート（10%）
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング論を企業行動と結びつけ、さらに広い視点でビジネスを考える力を身につける。 ・日本経済新聞を毎日読む習慣を身につける。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業史	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年		

学びの準備	ねらい ①商業活動と都市・市場の歴史の変遷を考察する。 ②主として近代以降の欧州における商業発展について理解する。 ③西洋都市と日本都市の比較から、現在のまちづくりを考える。	メッセージ 商業活動のありかたは、農業・工業と同じように時代とともに変化しています。そして、商業活動の主な舞台となる都市・市場もまた変遷を続けています。 本講義では、都市・市場の発展過程における問題の原因を分析し、そのうえで現在のまちづくりを考えます。
	到達目標 ①歴史的な事実から現代商業や都市・市場の問題点を明らかにする。 ②都市の再開発・まちづくり・まちおこしについて、発展と停滞の原因を考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス／商業史を学ぶ意味	
	2	商業史・経済史・経営史	レポート課題①
	3	中世都市・市場の成立	
	4	世界経済の中心の変遷	
	5	イギリス重商主義と産業革命	
	6	商業構造の変化と都市化の進行	
	7	フランスにおける流通革新	
	8	百貨店とチェーンストア	
	9	ドイツにおける鉄道建設と市場発展の変遷	
	10	まとめ①：欧州近代都市成立への道程	レポート課題②
	11	日本の城下町	
	12	近代日本都市の成立	
	13	流通システム化と小売業の発展	
	14	日本型流通とまちづくり	レポート課題③
	15	まとめ②：欧州都市と日本都市の比較	期末テスト対策
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献： 斯波照雄『西洋の都市と日本の都市 どころが違うのかー比較都市史入門ー』学文社、2015年		
	学びの手立て 【履修の心構え】 ①履修学生の出席を前提として講義を進行していきます。そのため、遅刻や無断欠席は成績評価に大きく影響します。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで担当教員に連絡をしてください。 ③本講義は、欧州の商業史を中心に展開します。参考書等を使い、当該時期の政治経済について予習・復習をしてください。 ④適宜、プリント等を配布して講義を進行する予定です。そのため、講義時のノート作成が重要になります。		
	評価 期末テスト (50%) 出席点・受講態度 (20%) : 質問や発言を適宜加点する。遅刻、無断欠席は評価に大きく影響します。 レポート (30%) : 適宜、レポート課題を実施します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 歴史的事実を客観的に分析・考察することで、現在の商業活動や都市・市場をより正確に理解できることが目標。 関連科目としては、「流通政策論」など。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記 I	前期	月 2・木 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	1 年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	会社の活動を記録し、計算・整理する技術を簿記といます。簿記を行うことによって、会社は自己の財産を管理することができ、経営成績（いくらもうかったか）と財政状態（財産や借金がいくらあるか）を知ることができます。この講義では、取引の仕訳から元帳への転記、試算表・精算表・財務諸表の作成にいたる簿記一巡の手続を解説します。	簿記は「ビジネスの言語」といわれており、ビジネスの世界で活躍するためには必須のスキルです。将来の活躍を目指し、このクラスでしっかりと基礎を固めてください。また、この講義は日商簿記検定試験 3 級の範囲に対応しています。早い段階でチャレンジするといいでしょう。
到達目標	① 簿記の基礎概念を理解し、説明できる。 ② 現金取引、商品売買取引、手形取引などの諸取引を仕訳（記録）できる。 ③ 上記②の諸取引を現金出納帳、仕入帳・売上帳、商品有高帳などの補助簿に記帳できる。 ④ 個人企業の損益計算書と貸借対照表を作成できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	簿記の基礎：企業の簿記	講義内容の復習
	3	簿記の基礎：資産・負債・純資産と貸借対照表	同上
	4	簿記の基礎：収益・費用と損益計算書	同上
	5	簿記の基礎：取引と勘定	同上
	6	簿記の基礎：仕訳と転記	同上
	7	簿記の基礎：仕訳帳と元帳	同上
	8	簿記の基礎：試算表	同上
	9	簿記の基礎：精算表	同上
	10	簿記の基礎：決算（その 1）	同上
	11	簿記の基礎：決算（その 1）	同上
	12	簿記の基礎：財務諸表の作成	同上
	13	諸取引の処理：現金と預金	同上
	14	諸取引の処理：現金と預金	同上
	15	諸取引の処理：商品売買	同上
	16	諸取引の処理：商品売買	同上
	17	諸取引の処理：売掛金と買掛金	同上
	18	諸取引の処理：手形	同上
	19	諸取引の処理：手形	同上
	20	諸取引の処理：その他の債権・債務	同上
	21	諸取引の処理：有価証券	同上
	22	諸取引の処理：有価証券	同上
	23	諸取引の処理：固定資産	同上
	24	諸取引の処理：固定資産	同上
	25	諸取引の処理：資本金と引出金	同上
	26	伝票	同上
	27	決算（その 2）	同上
	28	決算（その 2）	同上
	29	決算（その 2）	同上
30	決算（その 2）	同上	
31	期末テスト	—	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：清村英之『簿記が基礎からわかる本－中級レベルまで』同文館出版，平成23年9月，2,300円＋税。 ・問題集：渡部裕亘他『新検定簿記ワークブック 3級／商業簿記』中央経済社，平成28年2月，700円＋税。
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修上の注意事項／心構え：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業システム学科の学生しか履修できません（2年次以上は編入生・転籍者のみ）。 ・例年，遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないように心がけてください。 <p>学びを深めるために：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。 簿記の知識が付くにつれて，これらの記事・ニュースが理解できるようになります。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します。5～6回行う予定です）
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連科目：簿記演習Ⅰ（1年次），商業簿記Ⅱ（2年次）など，会計コースの諸科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記 I	前期	月 2・木 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	1 年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ビジネスの基礎として、企業の日常的活動を認識、測定、記録、報告を行う会計システムについての基礎的な理解を涵養する。	メッセージ ビジネスを把握するためには必要な知識、技術です。毎回の積み重ねが大事ですので、予習、特に復習により理解を深めてください。
	到達目標 ビジネスの基本単位である小規模小売業の簿記体系を理解する。年間を通じたビジネスの基本的な活動を把握する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	簿記の基礎	
	2	資産・負債・資本と貸借対照表	
	3	収益・費用と損益計算書	
	4	取引と勘定科目	
	5	取引要素の結合関係	
	6	仕訳①	
	7	仕訳②	
	8	勘定口座と元帳	
	9	試算表	
	10	精算表	
	11	決算	
	12	現金・当座預金	
	13	小口現金	
	14	商品売買の記帳①	
	15	商品売買の記帳②	
	16	商品売買の記帳③	
	17	売掛金・買掛金の記帳	
	18	その他債権債務①	
	19	その他債権債務②	
	20	手形取引①	
	21	手形取引②	
	22	手形取引③	
	23	有価証券	
	24	固定資産と減価償却	
	25	資本金と引出金	
	26	決算整理①	
	27	決算整理②	
	28	決算整理③	
	29	決算整理④	
30	試験 I		
31	試験 II		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 開講時に指示します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 初めてのビジネス用語等が出てきますので、よく理解し、その上で帳簿記入、仕訳を繰り返し 根気よく学習してください。</p>
	<p>評価 試験 90 達成度テスト 10</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 基本的なビジネス知識を前提としてさらに有用な企業理解を進めていきます。 商業簿記Ⅱ 会計学 工業簿記 英文簿記</p>

※ポリシーとの関連性 ビジネス社会で活躍する人材の育成のための専門基礎科目ですので、しっかり学習計画を立てて受講して下さい。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記 I	後期	火3・火4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 建夫	1年	授業についての問い合わせは、授業後、授業中に行ってください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	簿記の知識は、個人及び法人企業、公益法人、官公庁等に広く活用され、国内外にも共通するものです。この講義は、簿記の基本原則、計算と記帳手続などを修得することを目的としています。	テキストや問題集を必ず持参し、その時間内で基本部分は理解するように、質疑して、予習復習も行って下さい。

到達目標	会計事務所や会社の経理、総務、営業事務、商品管理などの業務に役立つための基礎知識の修得を目標とする。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（授業の進め方、評価など）、簿記の意義と役割	授業等への質問など
	2	資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表	授業の予習、復習
	3	収益・費用と損益計算書	授業の予習、復習
	4	簿記一巡の流れと取引及び勘定記入	授業の予習、復習
	5	仕訳と転記	授業の予習、復習
	6	仕訳帳と総勘定元帳	授業の予習、復習
	7	試算表の作成	授業の予習、復習
	8	6桁精算表の作成	授業の予習、復習
	9	決算と財務諸表の作成	授業の予習、復習
	10	現金・当座預金、小口現金の取引 その1	授業の予習、復習
	11	現金・当座預金、小口現金の取引 その2	授業の予習、復習
	12	商品売買の取引 その1	授業の予習、復習
	13	商品売買の取引 その2	授業の予習、復習
	14	売掛金・買掛金、中間テスト	授業の予習、復習
	15	その他の債権・債務の取引 その1	授業の予習、復習
	16	その他の債権・債務の取引 その2	授業の予習、復習
	17	有価証券の取引	授業の予習、復習
	18	手形の取引 その1	授業の予習、復習
	19	手形の取引 その2	授業の予習、復習
	20	貸倒損失と貸倒引当金	授業の予習、復習
	21	固定資産の取引と減価償却 その1	授業の予習、復習
	22	固定資産の取引と減価償却 その2	授業の予習、復習
	23	費用・収益の繰延べと見越し その1	授業の予習、復習
	24	費用・収益の繰延べと見越し その2	授業の予習、復習
	25	資本金・引出金、租税公課	授業の予習、復習
	26	試算表の作成	授業の予習、復習
	27	8桁精算表の作成 その1	授業の予習、復習
	28	8桁精算表の作成 その2	授業の予習、復習
	29	決算と会計帳簿の締切り	授業の予習、復習
30	総まとめ	授業の予習、復習	
31	期末テスト		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』税務経理協会 参考書：上江洲・大城編著『簿記の技法とシステム』同文館出版 清村英之『簿記が基礎からわかる本』同文館出版 武田隆二『簿記一般教程』中央経済社</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>このクラスは、企業システム学科の再受講クラスであり、これまで学んだ内容を再復習するため重点的に説明し、練習問題を中心に授業は進めていく。基本問題は、授業中に理解できるようにしてもらいたい。そのため、予習、復習も日頃から習慣化して欲しい。</p>
	<p>評価</p> <p>成績評価の方法は、出席状況、中間試験、期末試験などの内容を総合的に判断する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>工業簿記、簿記演習Ⅰ・Ⅱ、会計学Ⅰ・Ⅱを受講することが望ましい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記 I	前期	月 2・木 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-外間 礼子	1年		

学びの準備	ねらい 簿記を初めて学習する人達が、簿記を正しく、かつ、楽しみながら理解できるように、簿記のシステムを基本原理・原則に基づいて分かりやすく解説しながら講義を進めて行く。商業簿記 I は、複式簿記の基本原理を扱っており、簿記会計の基礎となる教科である。ゆえに、「なぜそうなるのか。」「どうして、こうするのか。」常に考えながら、複式簿記の原理・原則を学ぶ講義としたい。	メッセージ 企業は簿記会計の知識を有した人材を強く求めており、多数の学生の受講を望む。
-------	---	--

到達目標 複式簿記の基本原理・計算原理を理解し個人企業における簡易な事務処理ができる。
--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	複式簿記の意義と目的	
	2	資産・負債・純資産	練習問題
	3	貸借対照表	同上
	4	収益・費用と損益計算書	同上
	5	取引と勘定	
	6	仕訳・転記	練習問題
	7	仕訳帳	同上
	8	元帳	同上
	9	試算表	同上
	10	精算表	同上
	11	決算	同上
	12	総合問題	
	13	中間まとめ	
	14	現金・現金過不足の処理	練習問題
	15	現金の処理	同上
	16	商品売買の処理（仕入帳）	同上
	17	売上帳	同上
	18	商品有高帳	同上
	19	売掛金・買掛金元帳	同上
	20	手形	同上
	21	手形記入帳	同上
	22	その他の債権・債務	同上
	23	有価証券	同上
	24	固定資産	同上
	25	資本金と引出金	同上
	26	税金	同上
	27	決算整理	同上
	28	精算表	同上
	29	財務諸表の作成	同上
30	収益・費用の見越し・繰延べ	同上	
31	期末テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 『簿記の技法とシステム』同文館出版 問題集は開講時に指定する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 欠席・遅刻しないこと。 あせらず、コツコツ学ぶこと。 復習に重点をおくこと。</p>
	<p>評価 中間テスト (30%) 期末テスト (65%) 授業の参加度 (5%)</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 商業簿記Ⅱ</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅱ	後期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	1年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この講義では、前期の「商業簿記Ⅰ」で学んだ簿記の基礎・基本を踏まえ、株式会社会計、本支店会計、連結会計など、一歩進んだ簿記の手続を解説します。	メッセージ (株)リクルート・キャリアの調査によれば、企業が応募者に求める資格のトップ1は日商簿記検定試験2級だそうです (http://www.r-agent.com/guide/ranking/shikaku/)。この講義は2級の範囲に対応しているため、講義内容をしっかり理解し、2年次で工業簿記を学べば、2級にチャレンジできます。早い段階での取得を目指しましょう。
	到達目標 ① リース取引や外貨建取引などの高度な諸取引、株式会社に固有の諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 株式会社の損益計算書と貸借対照表を作成できる。 ③ 連結会計の必要性を理解し、連結財務諸表を作成できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	諸取引の処理：現金と預金	講義内容の復習
	3	諸取引の処理：商品売買	同上
	4	諸取引の処理：売掛金と買掛金	同上
	5	諸取引の処理：手形	同上
	6	諸取引の処理：その他の債権・債務	同上
	7	諸取引の処理：有価証券	同上
	8	諸取引の処理：有形固定資産	同上
	9	諸取引の処理：無形固定資産と投資その他の資産	同上
	10	諸取引の処理：リース取引	同上
	11	諸取引の処理：外貨建取引	同上
	12	株式会社の会計：会社設立	同上
	13	株式会社の会計：剰余金の配当と処分	同上
	14	株式会社の会計：合併・買収	同上
	15	株式会社の会計：税金	同上
	16	決算	同上
	17	決算	同上
	18	決算	同上
	19	財務諸表の作成	同上
	20	財務諸表の作成	同上
	21	財務諸表の作成	同上
	22	財務諸表の作成	同上
	23	本支店会計：本支店間・支店相互間取引	同上
	24	本支店会計：本支店合併財務諸表の取引	同上
	25	連結会計：資本連結	同上
	26	連結会計：資本連結	同上
	27	連結会計：連結会社間の取引	同上
	28	連結会計：連結会社間の取引	同上
	29	連結会計：連結財務諸表の作成	同上
30	連結会計：連結財務諸表の作成	同上	
31	期末テスト	—	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：清村英之『簿記が基礎からわかる本ー中級レベルまで』同文館出版，平成23年9月，2,300円＋税。 ・問題集：渡部裕亘他『新検定簿記ワークブック 2級／商業簿記』中央経済社，平成28年3月，700円＋税。
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修上の注意事項／心構え：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「就業簿記Ⅰ」を履修済みの学生しか登録できません。 ・企業システム学科の学生しか登録できません（1年次を優先します）。 ・例年，遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないように心がけてください。 <p>学びを深めるために：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。 簿記の知識が付くにつれて，これらの記事・ニュースが理解できるようになります。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します。5～6回行う予定です）
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連科目：簿記演習Ⅱ（2年次），工業簿記ⅠⅡ（2年次）など，会計コースの諸科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅱ	後期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-外間 礼子	1年		

学びの準備	ねらい 小中規模株式会社に関わる会計記録を体系立て企業活動を適切に把握する基礎を学習する	メッセージ 企業で利活用する帳簿記録です。しっかりその要因、仕組みを理解してください。
	到達目標 小・中規模株式会社に関わる帳簿体系を理解し、基礎的な財務諸表を作成できる。	

学びの準備	到達目標 小・中規模株式会社に関わる帳簿体系を理解し、基礎的な財務諸表を作成できる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	簿記一巡の手続き	
	2	株式の発行Ⅰ	
	3	株式の発行Ⅱ	
	4	現金および預金Ⅰ	
	5	現金および預金Ⅱ	
	6	債権債務Ⅰ	
	7	債権債務Ⅱ	
	8	有価証券Ⅰ	
	9	有形固定資産Ⅰ	
	10	有形固定資産Ⅱ	
	11	有形固定資産Ⅲ	
	12	有形固定資産Ⅳ	
	13	無形固定資産Ⅰ	
	14	引当金Ⅰ	
	15	引当金Ⅱ	
	16	税金	
	17	剰余金の処理Ⅰ	
	18	剰余金の処理Ⅱ	
	19	剰余金の処理Ⅲ	
	20	決算手続Ⅰ	
	21	決算手続Ⅱ	
	22	決算手続Ⅲ	
	23	本支店会計Ⅰ	
	24	本支店会計Ⅱ	
	25	合併と事業譲渡Ⅰ	
	26	合併と事業譲渡Ⅱ	
	27	収益・費用の認識基準	
	28	決算と財務諸表Ⅰ	
	29	決算と財務諸表Ⅱ	
30	伝票式会計		
31	試験		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 簿記の技法とシステム</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 講義にて学習した内容をよく復習するとともに 報告様式についても繰り返し練習してください</p>
	<p>評価 講義中の課題試験 40点 期末試験 60点</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 帳簿記録の前提となる理論を学習する会計学、財務会計、資金会計 製造業などへの展開となる 工業簿記、原価計算 作成された財務諸表に基づいた評価手法等を学習する 経営分析、監査論 実務的応用力を身につける 簿記演習、コンピュータ会計、英文簿記会計 など</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	消費者行動演習	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小原 満春	2年	ptt858@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、消費者行動の身近な問題や疑問を課題としてあげ、「消費者はなぜそれを選ぶのか?」「消費者はなぜそのよう行動するのか?」など消費者行動の理論を用いて調査し考察します。そしてその調査・考察した内容を発表し、講義の参加者全員と討論します。消費者行動の身近な疑問を調べ、発表し、討論することで消費者行動をより深く理解することを目的とします。	メッセージ ・前期の消費者行動概論から続けて受講することが好ましい。 ・前期受講していない学生も受講できます。 ・論理的な発表方法について学びます。 ・発表をしてお互い討論することで理解を深める内容です。
	到達目標 ・消費者行動の課題について調査し、調査内容について論理的に発表できる。 ・発表者と聴衆者として討論を実践し、討論の方法について習得する。 ・消費者行動の基礎的な理論を理解したうえで、現代社会での消費者行動の疑問や課題を考察することでより深く消費者行動を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	テーマ設定と発表の方法	テーマを設定します。
	3	論理的な発表と発表の組み立て方	発表方法について理解します。
	4	テーマ設定・調査計画について	テーマと調査計画の策定する。
	5	調査計画・検証について	調査の具体的手法を考える。
	6	検証と考察について	調査後のまとめを考える。
	7	発表と討論・・・1	発表者と内容について討論します。
	8	発表と討論・・・2	〃
	9	発表と討論・・・3	〃
	10	発表と討論・・・4	〃
	11	発表と討論・・・5	〃
	12	発表と討論・・・6	〃
	13	発表と討論・・・7	〃
	14	発表と討論・・・8	〃
	15	発表と討論・・・9	〃
16	まとめ	発表内容のレポート作成	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など (1) 白谷秀一他編著(2002)『はじめての社会調査-テーマ選びから報告まで-』自治体研究社 (2) 杉本徹雄編(1997)『消費者理解のための心理学』福村出版、清水聡(1999)『新しい消費者行動』千倉書房 (3) 平久保仲人(2005)『消費者行動論』ダイヤモンド社 田中洋(2008)『消費者行動論体系』中央経済社
-------	---

学びの実践	学びの手立て (1) 講義は出席を重視します。積極的に討論する姿勢が必要になります。(2) 講義中の携帯電話、私語、飲食など他の学生に迷惑になる行為は厳に慎むこと。場合によっては退出させます。(3) 遅刻はしないこと。出席確認時にいない場合は欠席とします。(4) 出席確認は発表者へのフィードバックシートで確認します。(5) 出席時数が3分の2に満たない者の単位は認められません。(6) 欠席、遅刻によって支障がでた場合、それは自分の責任です。(正式な届出がある場合を除く)救済処置は一切とりません。(7) 90分間通して人の発表を聞くだけという受講スタイルは望ましくありません。発表を聞き、恥ずかしがらずに積極的に発言し討論することが、学びを深め、自分の肥やしとなります。そのような受講スタイルを望みます。
-------	---

学びの実践	評価 (1) 発表・レポート・・・50% (2) 討論への積極的な参加・出席・・・50% 上記(1)～(2)を総合的に判断し評価します。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・消費者行動について課題を設定し、自分なりの解答を客観的に導き出すことにより、論理的な方法でプレゼンできる。 ・論理的な発表方法を学び実践することで、将来社会に出てプレゼンする際に活用できる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	消費者行動概論	前期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小原 満春	2年	ppt858@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 消費者が商品やサービスを購入する時に、なにを基準に商品を選んでいるのでしょうか。それは消費者が所属している集団や、家庭環境などの外的要因と、知識や経験、好きや嫌いなどの内面的な要因が影響し合った結果、商品を選び購入していると考えられています。本講義では消費者行動研究を通して、消費者を理解し、効果的なマーケティングについて考察する力を養うことを目的とします。	メッセージ ・初学者でも理解できる講義です。 ・理論を踏まえ、事例も提示し理解しやすく講義します。 ・マーケティングを理解するためには、本講義で説明する消費者の心理と行動も理解することが重要です。 ・マーケティングを専門にする学生は必須ですが、専門外の学生でも、消費者の心理と行動に興味のある学生は受講してください。
	到達目標 ・マーケティングと消費者行動の関係について理解している。 ・消費者行動の内的要因についての知識があり理解している。 ・消費者行動の外的要因についての知識があり理解している。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	消費者行動とは	第1・2章の予習と復習(テキスト)
	3	消費者の問題認識と購買意思決定	第3章 //
	4	消費者の情報探索と選択肢の評価	第4章 //
	5	購買決定後の過程	第5章 //
	6	消費者の知覚	第6章 //
	7	消費者の学習	第8章 //
	8	消費者の欲求と動機	第9章 //
	9	消費者の態度形成と変容	第10章 //
	10	消費者の関与	第11章 //
	11	消費者の個人特性	第12章 //
	12	消費者行動における状況要因	第13章 //
	13	対人・集団の要因と消費者行動	第15章 //
	14	文化的要因と消費者行動	第16章 //
	15	まとめ	第1章～第16章 //
16	学期末試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 杉本徹雄(1997)『消費者理解のための心理学』福村出版 【参考文献】 平久保伸人(2005)『消費者行動論』ダイヤモンド社 田中洋(2008)『消費者行動論体系』中央経済社 杉本徹雄(2012)『新・消費者理解のための心理学』福村出版
----	---

学びの手立て	(1) 講義は出席を重視します。積極的に学ぶ姿勢が必要になります。(2) 講義中の携帯電話、私語、飲食など他の学生に迷惑になる行為は厳に慎むこと。場合によっては退出させます。(3) 遅刻はしないこと。出席確認時にいない場合は欠席とします。(4) 出席確認は呼名、出席カード、フィードバックシートのいずれかで確認します。(5) 出席時数が3分の2に満たない者は試験を受けることができません。(6) 欠席、遅刻によって支障がでた場合、それは自分の責任です。(正式な届出がある場合を除く)救済処置は一切とりません。(7) 90分間通してテキストの内容をそのまま説明するという講義スタイルではありません。より密度の濃い講義にするためにも、講義内容の事前の予習そして振り返りの復習をしてください。
--------	---

評価	(1) 期末考査・・・60% (2) 課題提出・・・30% (3) 出席・受講態度・・・10% (1)～(3)を総合的に踏まえた上で評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・後期の「消費者行動演習」を受講することにより、本講義で理論を理解し、後期の演習で現代社会と消費者行動の関連を考察することにより、消費者行動の理論と実社会を包括的に理解できる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報概論	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	1年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代における情報化社会において、多種多様な情報が存在する。そして、これらの情報は効率よく利用されなければ、情報本来の意味を持たない。ここで、計算機（コンピュータ）の存在は必要不可欠なものとなる。さらに、多くの情報は計算機によって、生産、加工、蓄積されている。本講義では、計算機の歴史、仕組み、論理、発展を通して、情報の利用法との関わりについて学ぶ。	
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	計算機の歴史	
	3	計算機の構造	
	4	符号化	
	5	論理演算	
	6	論理演算の回路	
	7	トランジスタの基本的な仕組み	
	8	CPUの仕組みと構造	
	9	コンピュータの種類と用途 その1	
	10	コンピュータの種類と用途 その2	
	11	プログラムの仕組み その1	
	12	プログラムの仕組み その2	
	13	ソフトウェアとハードウェア その1	
14	ソフトウェアとハードウェア その2		
15	コンピュータの最先端と未来		
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など			
「コンピュータの動く仕組み」、日東書院、音葉哲・大槻有一郎。情報科学入門（日本理工出版会、佐々木良一、他 著）、その他			
学びの手立て			
評価			
出席点20点、期末試験80点の100点満点において、80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、60点未満「不可」で評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 プログラミングB
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年		

学びの準備	ねらい 情報リテラシーとは、コンピュータを使った「読み・書き」などができる能力といわれている。情報化社会においては、単にコンピュータが使えるのではなく、目的に応じて柔軟に対応できることが必要となる。本講義では、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトウェアの技能を身につけた者を対象として、ウェブサイト作成（HTML）を学ぶ。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	HTMLの基礎	
	3	文字のデザイン・カラーコード	
	4	リンク	
	5	スタイルシート	
	6	画像の加工方法	
	7	テーブル	
	8	フォーム	
	9	フレーム	
	10	ギャラリーページ	
	11	タグ以外のテクニック①	
	12	タグ以外のテクニック②	
	13	課題の実習①	
14	課題の実習②		
15	課題のプレゼンテーション		
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する。 開講時に指定する。			
学びの手立て			
評価 課題・出席状況を総合的に判断し評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年		

学びの準備	ねらい 情報化社会においては、単にコンピュータが使えるのではなく、目的に応じて柔軟に対応できることが必要となる。本講義では、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトウェアの技能を身につけた者を対象として、ウェブサイト作成（HTML）を学ぶ。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	HTMLの基礎	
	3	文字のデザイン・カラーコード	
	4	リンク	
	5	スタイルシート	
	6	画像の加工方法	
	7	テーブル	
	8	フォーム	
	9	フレーム	
	10	ギャラリーページ	
	11	タグ以外のテクニック①	
	12	タグ以外のテクニック②	
	13	タグ以外のテクニック③	
14	課題の実習①		
15	課題の実習②		
16	プレゼンテーション		
テキスト・参考文献・資料など			
学びの手立て			
評価			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人的資源管理論 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 授業では、今日の人的資源管理（人事管理・労務管理）において見られる、さまざまなヒューマングループをとりあげ、そこでの問題を明らかにしていく。さらに、人的資源管理の諸制度とその動向を学ぶことで、従業員たちがよりよく働けるようになるための考え方の枠組を探求していく。	メッセージ 企業において「ひと」は、重要な資源のひとつである。ひとはなぜ働くのか。どうすれば目標を見だし努力するようになるのか。これらの問題について、働く環境が近年どのように変化しつつあるのかを踏まえた上で、検討していく。
	到達目標 ①働く場で生じる諸問題を理解する。②問題を解決しようとする際に生じるジレンマを知る。③業種・職種・その他状況に即した問題解決を提案できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 人的資源管理（人事管理・労務管理）とは 2. 職務と組織の設計 (1) 職務設計 (2) 組織設計 3. ヒューマングループと人的資源管理 (1) 女性労働者 (2) 非正規労働者 (3) 高齢労働者 (4) 技術者 4. 人的資源管理制度とその変化 (1) 雇用管理 (2) 労使関係 (3) ワーク・ライフ・バランス
	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。
	学びの手立て 現実を多様な角度からとらえることが大切である。なぜ働くのかについて、意識を高めて欲しい。
評価	期末試験（80%）、中間レポート（20%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 人的資源管理論Ⅱ、および経営コースの各科目。
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人的資源管理論Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 組織のなかの人間行動への理解を深める。人的資源管理（人事管理・労務管理）の諸制度とその動向を検討したうえで、職場における「ひと」の働きに関する諸理論を学ぶ。	メッセージ 人間関係はなぜ重要なのか、どうすれば働く気になるのか、効果的なリーダーシップとはどのようなものか、人々を統合する企業理念とはいかなるものか、個人と組織との一体化にはどのような長所と短所があるのか、そして組織への愛着と誇りはいかにして生まれるのか、などのような問いについて考えていく。
	到達目標 ①働く場で生じる諸問題を理解する。②問題を解決しようとする際に生じるジレンマを知る。③業種・職種・その他状況に即した問題解決を提案できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 人的資源管理制度とその変化 (1) 賃金 (2) 昇進管理 (3) キャリアと人材育成 2. 職場におけるひとの働き (1) 働く動機づけ（モチベーション） (2) リーダーシップ (3) 組織文化・企業理念 (4) 組織学習 (5) チームワーク
	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。
	学びの手立て 現実を多様な角度からとらえることが大切である。「ひと」を扱う研究の性質上、心理学・社会学の理論も多用される。
	評価 期末試験（80%）、中間レポート（20%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 人的資源管理論Ⅰ、および経営コースの各科目。
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 選択したテキストから、財務諸表の重要性を認識し、それを利用することについての基礎学習を行った後、具体例について研究報告を行うことにより、応用力を養う。	メッセージ 会計の実践力を高めていくことを目標としています。講義での課題解決を通じて応用力を高めてください。
	到達目標 企業に生起する会計問題を理解、分析し、解決案を提示できる。	

学びの準備	到達目標 企業に生起する会計問題を理解、分析し、解決案を提示できる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 選択したテキストから、ゼミ生にレジメを作成し発表してもらい、それを討論する形で進める。 企業会計全体についての理解を深めるために財務会計の文献を中心に学習する。 同時に、資金繰りについて、パソコンを使った講義を行い、基礎的考察から、事例研究までを行い、応用事例について、報告を行わせる
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に指示する
	学びの手立て 課題に対して、講義にもとづいた基本的な分析視点を活用するだけでなく、さらに多様な方法などを積極的に活用できるよう検索を通じてネットワークや文献を大いに利用してください。
	評価 授業への参加姿勢、レポート等を総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 会計の基礎理論の実践的応用、解決、報告に関わる力をさらに高める。 専門演習Ⅱ 財務会計、経営分析 資金会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	3年		

学びの準備	ねらい 専門演習 I・II を通じて、「学生が考える座間味村の島おこし案」を作成します。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 次の5つのテーマを調べるグループを作り、それぞれのテーマについて報告・討論を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・座間味村の現状と課題 ・沖縄観光の現状と課題 ・島おこしの事例 ・村おこしの事例 ・アンケート作成
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価 課題の報告内容、演習への貢献度などで総合的に評価する。

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て

学びの継続	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身につけることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどのような役割を果たしているのか、会計の知識を得ることで何ができるのかを学びます。ただし、会計データの使い方を学ぶためには、その作り方を知らなければならぬので、この一年間は会計データの作り方に重点をおきます。	3年生になると、そろそろ就活が気になります。清村ゼミ・オリジナルの自己分析シートへの記入や、4年生・OBOG（卒業生）との交流などを通じて、就職への意識を高めていきます。
到達目標	① 財務諸表の社会的役割や会計理論・制度を理解し、説明できる。 ② PCを利用した情報収集・分析能力を身に付ける。 ③ 経営分析を行うために必要なスキルを身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	① 3～4人のグループを作り、グループで分析する業界と個人で分析する企業を選択します。2015年度のゼミ生が選んだ業界・企業は、以下のとおりです。 ・Aグループ：製菓（森永製菓、江崎グリコ、不二家、カルビー） ・Bグループ：化粧品（資生堂、マンダム、コーセー、ドクターシーラボ） ・Cグループ：アパレル（ユナイテッドアローズ、マックハウス、ワールド、しまむら） ・Dグループ：ビール（サッポロ、サントリー、キリン、アサヒ） ・Eグループ：テレビ（フジ、TBS、日テレ、テレ朝） ② インターネット等を利用して企業情報（特に会計情報）を収集し、様々な手法を用いてこれを分析し、その結果を発表します（この一年間は貸借対照表と損益計算書の趨勢分析を行います）。 ③ 資産会計、負債会計、純資産会計、収益会計、費用会計などのテーマを各グループに割り振り、その発表と討論を通じ、会計学の理解を深めます（「授業のねらい」にも書いたように、この一年間は会計データの作り方の学習に重点を置きます）。 ④ 発表のための準備、発表を聞いて討論するための準備に多くの時間外学習が求められます。
	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。 ・参考文献：講義中に紹介します。
	学びの手立て 次のような学生を希望します。 ・遅刻や欠席をしない人。 ・ゼミの時間に積極的に発言できる人。 ・ゼミの行事を優先し、ゼミ会、ゼミ合宿、学祭などに参加できる人。2015年度のゼミ生が行ったゼミ会は、以下のとおりです。 4月：ゼミ歓迎会、5月：体育祭、6月：3・4年生合同運動会（その後、厚生会館で宿泊）、 7月：前期打上げ、8月：3・4年生合同BBQ、10月：OBOG会、11月：学祭、12月：クリスマス、 1月：ポーリング、2月：セミナーハウスでの合宿
評価 ・平常点……50点（質疑応答への積極性や、ゼミに対する意欲・貢献度を評価します） ・課題……50点	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：経営分析・同演習（3年次）、財務会計ⅠⅡ（3年次）など、会計コースの諸科目
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>フィールドワーク（現場）に出てマーケティングのビジネス環境、広告活動、地域消費者、地域物流などに触れ、観察や聞き取り調査などを行うことによって、ビジネス仕組み、マーケティングの仕組みを学ぶことが重要な技法の一つとされている。フィールドワークを通じて、マーケティングの楽しさを体験してもらうことが本科目の目的である。</p>	<p>●ビジネス実例を体験するマーケティング専門科目であり、フィールドワーク（現場）を通じてビジネス実態を知ること。 ●演習、実習の形式を併用して授業を行う。 ●マーケティングコースの基礎演習I・IIの単位取得者が望ましい。 ●原則として講義中、または休暇期間中に学外調査実習（現地調査）を行う。</p>
到達目標	<p>1) ビジネス課題を発見し、調査目的・調査方法・調査活動・分析方法などを企画できる基礎能力を育成する。 2) ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 3) 調査報告書・レポートおよび卒業論文の作成能力を習得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・ゼミ運営の紹介	
	2	マーケティングによるフィールドワークの重要性	指定テキストを読む
	3	フィールドワークのビジネス課題と現地調査の準備 ①	パワーポイントでスライドを作成
	4	フィールドワークのビジネス課題と現地調査の準備 ②	同上
	5	現地調査に関する文献・関連資料の収集 ①	関係資料の収集とまとめ
	6	現地調査に関する文献・関連資料の収集 ②	同上
	7	現地調査に関する文献・関連資料の収集 ③	同上
	8	ビジネス課題に関する問題提起や仮説設定と調査項目の設定 ①	発表の準備・調査先の検討
	9	ビジネス課題に関する問題提起や仮説設定と調査項目の設定 ②	同上
	10	ビジネス課題に関する問題提起や仮説設定と調査項目の設定 ③	同上
	11	フィールドワークの実施準備 ①	データ整理・分析方法の検討
	12	フィールドワークの実施準備 ②	同上
	13	収集データの分析 ①	スライドを作成・発表の練習
14	収集データの分析 ②	同上	
15	現地調査のプレゼンテーション ①	報告と討論①	
16	現地調査のプレゼンテーション ②	報告と討論②	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>◇フィリップ・コトラー、ヘルマワ・カルタジャヤ・ホイ・デンファン（2007）『ASEANマーケティング』McGrawHill ◇恩蔵直人監修（1999）『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション ◇田中洋（2008）『消費者行動論体系』中央経済社、◇その他使用テキストについては講義中に紹介します</p>		
	学びの手立て		
	<p>【履修の心構え】 1) 第1回目の授業は必ず出席すること。 2) 出席回数が3分の2に満たない場合、「不可」とします。 3) ゼミ生はフィールドワークに必ず参加すること。 4) 授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（報告に対する質疑応答、パティシペーションなど）が必要である。 5) 【専門演習 I】は必修科目である。</p>		
	評価		
	<p>◇フィールドワークへの取り組み方（30%） ◇レポートの内容（30%） ◇プレゼンテーションの内容と討論（40%） 総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目： 市場調査演習、グローバルマーケティング総論、グローバルマーケティング演習 次のステージ： マーケティングコースの専門演習II、卒業論文演習I、卒業論文演習II</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①文献の読み方、資料・データの分析方法、レジュメ作成方法、プレゼンテーション技法、レポートの書き方の習得。</p> <p>②グループワーク、フィールドワークの実践。</p> <p>③学生自身がテーマを設定し、研究に対しての問題意識を明確にする。</p>	<p>本演習では、基礎文献の購読を通じて、都市・市場を歴史的な観点から学ぶと同時に、レジュメの作成方法やプレゼンテーション技法、レポートの書き方等をしっかりと訓練していきます。同時に、フィールドワークの実施を予定しています。やる気を持ったゼミ員が相互に刺激し合いながら、楽しく充実したゼミを作り上げていくことを期待します。</p>
到達目標	<p>①商業と都市・市場の発展に関わる問題への興味関心を喚起する。</p> <p>②レポート・論文執筆および口頭報告のための基礎・応用能力の習得。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、自己紹介	
	2	講義①：レジュメの作成方法、ワープロソフトの基本操作	PCを用いて、簡易レポートの作成
	3	講義②：プレゼンテーション技術の習得、プレゼンテーションソフトの基本操作	PCを用いて、簡易スライドの作成
	4	講義③：ディスカッションの方法、データ収集および分析の方法	
	5	テキスト輪読①	使用テキストの熟読と疑問点の列挙
	6	テキスト輪読②	同上
	7	テキスト輪読③	同上
8	テキスト輪読④	同上	
9	テキスト輪読⑤	同上	
10	フィールドワーク：地方都市の調査① 調査地域の設定、課題設定	グループによる共同調査作業	
11	フィールドワーク：地方都市の調査② 調査地域の設定、課題設定	同上	
12	フィールドワーク：地方都市の調査③ 調査地域の情報収集	同上	
13	フィールドワーク：地方都市の調査④ 調査項目の精査	同上	
14	まとめ①：地方都市調査の経過報告	調査内容の改善点列挙	
15	まとめ②：地方都市調査の経過報告	同上	
16			
	テキスト・参考文献・資料など	<p>参考文献： 斯波照雄『西洋の都市と日本の都市 どこが違うのかー比較都市史入門ー』学文社、2015年 その他使用テキストについては、演習内で適宜指示します。</p>	
	学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <p>①無断欠席や遅刻は厳禁とします。</p> <p>②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで担当教員に連絡をしてください。</p> <p>③ほぼ毎回、担当者による報告があります。事前の報告準備（レジュメ作成・パワーポイント等のスライド作成）が必要です。</p> <p>④報告に対する質疑応答の時間を設けます。積極的な議論への参加を期待します。</p> <p>⑤ゼミ員相互の交流や情報交換は密に行うようにしてください。</p>	
	評価	<p>出席点・受講態度（80%）：質問や発言を適宜加点する。遅刻、無断欠席は厳禁です。</p> <p>口頭発表（20%）：報告内容、レジュメ・報告スライド等のわかりやすさを評価します。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>より専門性を有するテーマについて、自らで調査・分析・考察を行うことができるスキルを養います。「卒業論文演習」に向けて、履修学生の興味関心のあるテーマ・問題意識を引き出します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	3年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人的資源管理を中心とした、経営学に関するテキストの輪読、報告、および討論を行うことで、卒業論文執筆に向けて専門的な知識・理論を習得する。	好きになれるテーマや事例を見つけることが最重要。納得のいくまで悩んでほしい。何を書いたらいいか分からないときは、とにかくいろいろ読んでみる。

到達目標	前期ゼミ終了までに個々の卒業論文の仮構成・仮タイトルを決定する。
------	----------------------------------

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>（4月）前期研究テーマの選択。それをもとに、報告のための課題文献の割り振り。 （4月～7月）Power PointまたはKeynoteを使った報告と討論。報告後、卒業論文作成にむけてのレポートと参考文献リストを作成・提出。 （夏休み）卒業論文のための中間報告資料を作成（4000字程度）。中間報告は後期に行う。</p> <p>参考として、15年度受講生が扱ったテーマは以下のとおり。 モチベーション、リーダーシップ、チームワーク、人材育成、経営戦略、顧客満足、ブランド、サービス業、アパレル業、製造業、観光イベント、カフェ経営、保育・学童保育経営、など。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>受講生の意向を聞きながら決定する。15年度は、若林満監修（2008）『経営組織心理学』ナカニシヤ出版、大橋昭一・竹林浩志編（2003）『現代のチーム制』同文館出版、などを使用。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。 ・討論では積極的な発言を求める。
評価	出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は3年次前期科目2.0単位、3年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。</p>	
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>なお演習のイベント（ゼミ合宿・学園祭・コンパ）への学生諸君の積極的な参与を期待する。</p> <p>演習の展開計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>演習のすすめ方、評価のしかた</td></tr> <tr><td>2</td><td>研究対象</td></tr> <tr><td>3</td><td>研究対象</td></tr> <tr><td>4</td><td>アメリカ経営学</td></tr> <tr><td>5</td><td>（ゼミ合宿・必修）</td></tr> <tr><td>6</td><td>ドイツ経営学</td></tr> <tr><td>7</td><td>ドイツ経営学</td></tr> <tr><td>8</td><td>企業論</td></tr> <tr><td>9</td><td>企業論</td></tr> <tr><td>10</td><td>経営管理</td></tr> <tr><td>11</td><td>経営管理</td></tr> <tr><td>12</td><td>意思決定</td></tr> <tr><td>13</td><td>意思決定</td></tr> <tr><td>14</td><td>経営戦略</td></tr> <tr><td>15</td><td>（レポート提出・必修）</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	1	演習のすすめ方、評価のしかた	2	研究対象	3	研究対象	4	アメリカ経営学	5	（ゼミ合宿・必修）	6	ドイツ経営学	7	ドイツ経営学	8	企業論	9	企業論	10	経営管理	11	経営管理	12	意思決定	13	意思決定	14	経営戦略	15	（レポート提出・必修）
	回数	内容																															
	1	演習のすすめ方、評価のしかた																															
	2	研究対象																															
3	研究対象																																
4	アメリカ経営学																																
5	（ゼミ合宿・必修）																																
6	ドイツ経営学																																
7	ドイツ経営学																																
8	企業論																																
9	企業論																																
10	経営管理																																
11	経営管理																																
12	意思決定																																
13	意思決定																																
14	経営戦略																																
15	（レポート提出・必修）																																
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>（テキスト）未定 （参考文献）古在由重（編）『哲学小辞典』岩波書店、小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣、日録刊行会（編）『経営図書総目録2015』。</p>																																	
<p>学びの手立て</p>																																	
<p>評価</p>																																	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 選択したテキストから、財務諸表の重要性を認識し、それを利用することについての基礎学習を行った後、具体例について研究報告を行うことにより、応用力を養う。	メッセージ 会計の実践力を高めていくことを目標としています。ゼミナールでの課題解決を通じて応用力を高めてください。
	到達目標 企業に生起する会計問題を理解、分析し、解決案を提示できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 選択したテキストから、ゼミ生にレジメを作成し発表してもらい、それを討論する形で進める。企業会計全体についての理解を深めるために財務会計の文献だけでなく、基本的な管理会計の分野についても学習する。同時に、経営分析について、パソコンを使った講義を行い、基礎的考察から、事例研究までを行い、応用事例について、報告を行わせる。
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に指示する

学びの実践	学びの手立て 課題に対して講義に基づいた基本的な分析視点を活用するだけでなく、さらに多様な方法などを積極的に活用できるように検索を通じて、ネットワークや文献を大いに利用してください。
	評価 課題、討論への取り組み、報告など 30 報告書の提出 70

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	3年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 人的資源管理を中心とした、経営学に関する個々の卒業論文について、中間報告を行う。報告と討論をもとに内容を修正し、具体的な方向性を決めていく。	メッセージ 研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。
	到達目標 個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 卒業論文の中間報告と討論を毎回行い、そのつど今後の課題（イシュー、文献、事例など）を提示する。 参考として、15年度受講生が扱ったテーマは以下のとおり。 モチベーション、リーダーシップ、チームワーク、人材育成、経営戦略、顧客満足、ブランド、サービス業、アパレル業、製造業、観光イベント、カフェ経営、保育・学童保育経営、など。
	テキスト・参考文献・資料など 個々の卒業論文の仮構成に沿って、適宜紹介する。
	学びの手立て ・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。 ・討論では積極的な発言を求める。
	評価 出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習Ⅰ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	専門演習Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	3年		

学 び の 準 備	ねらい 専門演習Ⅰに同じ。	メッセージ
	到達目標	

学 び の 実 践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>専門演習Ⅰの報告・討論およびアンケート結果に基づき、「座間味村の島おこし案」を作成する。</p>
-----------------------	---

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など
-----------------------	----------------

学 び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>評価</p> <p>課題の報告内容、演習への貢献度などで総合的に評価する。</p>
-----------------------	--

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
-----------------------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身につけることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどのような役割を果たしているのか、会計の知識を得ることで何ができるのかを学びます。ただし、会計データの使い方を学ぶためには、その作り方を知らなければならぬので、この一年間は会計データの作り方に重点をおきます。	3年生になると、そろそろ就活が気になります。清村ゼミ・オリジナルの自己分析シートへの記入や、4年生・OBOG（卒業生）との交流などを通じて、就職への意識を高めていきます。

学びの準備	到達目標
	① 財務諸表の社会的役割や会計理論・制度を理解し、説明できる。 ② PCを利用した情報収集・分析能力を身に付ける。 ③ 経営分析を行うために必要なスキルを身に付ける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	① 3～4人のグループを作り、グループで分析する業界と個人で分析する企業を選択します。2015年度のゼミ生が選んだ業界・企業は、以下のとおりです。 ・Aグループ：製菓（森永製菓、江崎グリコ、不二家、カルビー） ・Bグループ：化粧品（資生堂、マンダム、コーセー、ドクターシーラボ） ・Cグループ：アパレル（ユナイテッドアローズ、マックハウス、ワールド、しまむら） ・Dグループ：ビール（サッポロ、サントリー、キリン、アサヒ） ・Eグループ：テレビ（フジ、TBS、日テレ、テレ朝） ② インターネット等を利用して企業情報（特に会計情報）を収集し、様々な手法を用いてこれを分析し、その結果を発表します（この一年間は貸借対照表と損益計算書の趨勢分析を行います）。 ③ 資産会計、負債会計、純資産会計、収益会計、費用会計などのテーマを各グループに割り振り、その発表と討論を通じ、会計学の理解を深めます（「授業のねらい」にも書いたように、この一年間は会計データの作り方の学習に重点を置きます）。 ④ 発表のための準備、発表を聞いて討論するための準備に多くの時間外学習が求められます。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。 ・参考文献：講義中に紹介します。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修上の注意事項／心構え： ・「専門演習Ⅰ」を履修済みの学生か登録できません。 ・前期同様、遅刻・欠席は厳禁です。
-------	---

学びの実践	評価 ・平常点……50点（質疑応答への積極性や、ゼミに対する意欲・貢献度を評価します） ・課題……50点
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：経営分析・同演習（3年次）、財務会計ⅠⅡ（3年次）など、会計コースの諸科目
-------	---

※ポリシーとの関連性 学外フィールド（現場）を通じて、ビジネス課題と改善策を理解する。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。	●ビジネス実例を体験するマーケティング専門科目であり、フィールド（現場）を通じてビジネス実態を知ること。 ●演習、実習の形式を併用して授業を行う。 ●原則として講義中、または休暇期間中に2泊3日程度の学外調査実習（現地調査）を行う。

到達目標	1) ビジネス課題を発見し、調査目的・調査方法・調査活動・分析方法などを企画できる基礎能力を育成する。 2) ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 3) 調査報告書・レポートおよび卒業論文の作成能力を習得する。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究とは何か / ゼミ運営の方針説明	
	2	研究計画書・レジュメの作成方法・発表方法・参考文献・引用方法の確認	ビジネスに関する資料収集
	3	卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の選定 ①	情報整理、分析方法などの検討
	4	卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の選定 ②	同上
	5	卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の選定 ③	同上
	6	ビジネス課題と現地調査の準備 ①	現地調査の関係資料をまとめ
	7	ビジネス課題と現地調査の準備 ②	同上
	8	研究テーマに関する文献・関連資料の収集 ①	スライド作成・資料整理
	9	研究テーマに関する文献・関連資料の収集 ②	現地調査先と調整①
	10	研究テーマに関する文献・関連資料の収集 ③	現地調査先と調整②
	11	フィールドワークの実施 ①	データ分析方法の検討・報告準備
	12	フィールドワークの実施 ②	同上
	13	収集データの分析	同上
	14	卒論・卒業プロジェクト・課題研究の中間発表及び討論 ①	同上
15	卒論・卒業プロジェクト・課題研究の中間発表及び討論 ②	中間レポートの準備	
16	卒論・卒業プロジェクト・課題研究の中間レポートの提出	同上	

テキスト・参考文献・資料など	◇Michael R. Solomon [著]；大竹光寿 [ほか] 訳 (2015) 『ソロモン消費者行動論』丸善出版 ◇ケビン・レーン・ケラー (著)、恩蔵 直人 (監訳) (2010) 『戦略的ブランド・マネジメント』東急エージェンシー ◇山根 節 (2015) 『MBAエグゼクティブズ』中央経済社、◇その他使用テキストについては講義中に紹介します
----------------	---

学びの手立て	履修生は卒業論文、卒業プロジェクト、課題研究のいずれかを一つ選択し、取り組みます。【1】卒業論文：興味があるテーマについて文献調査し、テーマを絞り込んでから対象とする問題点などについて客観的に分析し、卒業論文を執筆する。【2】卒業プロジェクト：「実用可能性の高い新商品開発」についてアイデアを出し、マーケティング・プランを作成する。新商品の開発段階・背景・生産工程、競合他社のリサーチ、新商品に対する消費者の購買行動について調査・分析を行う作業を通して、メーカーに必要な知識や技能を習得します。【3】課題研究：特定の研究課題を取り上げ、分析する。直面している問題・課題を明確にし、原因を究明し、改善策などを立案する。【履修の心構え】1) 出席回数が3分の2に満たない場合、「不可」とします。2) 授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（報告に対する質疑応答、パティシペーションなど）が必要である。
--------	--

評価	◇フィールドワークへの取り組み方（30%）◇レポートの内容（30%）◇プレゼンテーションの内容と討論（40%）などで総合的に評価する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目： 市場調査演習、グローバルマーケティング総論、グローバルマーケティング演習 次のステージ： マーケティングコースの卒業論文演習I、卒業論文演習II
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①文献の読み方、資料・データの分析方法、レジュメ作成方法、プレゼンテーション技法、レポートの書き方の習得。</p> <p>②グループワーク、フィールドワークの実践。</p> <p>③学生自身がテーマを設定し、研究に対しての問題意識を明確にする。</p>	<p>専門演習Ⅰから継続して地方都市の調査というフィールドワークを行っていきます。地方都市の発展・停滞について歴史的観点から分析して考察を行うことで、都市が抱える課題・問題点を明らかにすることが狙いです。</p> <p>キーワード：地方都市、再開発、まちおこし、地方創生</p>
到達目標	<p>①商業と都市・市場の発展に関わる問題への興味関心を喚起する。</p> <p>②レポート・論文執筆および口頭報告のための基礎・応用能力を習得する。</p> <p>③商業と市場・都市に関わる問題から、卒業論文の作成につながる課題の発見をする。</p> <p>④グループワークを通じて、定期的な報告の実施およびレポート作成に取り組む。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	フィールドワーク：地方都市の調査① 調査方法の検討	グループによる共同調査作業
	3	フィールドワーク：地方都市の調査② 調査方法の検討	同上
	4	講義①：沖縄県における観光振興	文献の調査
	5	講義②：沖縄県における農業・漁業	同上
	6	フィールドワーク：地方都市の調査③ 調査先関係各所への事前連絡	グループによる共同調査作業
	7	フィールドワーク：地方都市の調査④ 調査先関係各所への事前連絡	同上
	8	フィールドワークの実施①	
	9	フィールドワークの実施②	
	10	フィールドワーク：地方都市の調査⑤ 収集データの分析	グループによる共同調査作業
	11	フィールドワーク：地方都市の調査⑥ レポート作成作業	同上
	12	フィールドワーク：地方都市の調査⑦ 口頭報告の準備作業	同上
	13	講義③：沖縄県の地域振興の特徴を考える	文献の調査
14	まとめ①：地方都市調査の最終報告ならびにレポート提出	報告内容についての質疑応答	
15	まとめ②：地方都市調査の最終報告ならびにレポート提出	同上	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>参考文献： 斯波照雄『西洋の都市と日本の都市 どこが違うのかー比較都市史入門ー』学文社、2015年 その他使用テキストについては、演習内で適宜指示します。</p>		
学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <p>①無断欠席や遅刻は厳禁とします。</p> <p>②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで担当教員に連絡をしてください。</p> <p>③ほぼ毎回、担当者による報告があります。事前の報告準備（レジュメ作成・パワーポイント等のスライド作成）が必要です。</p> <p>④報告に対する質疑応答の時間を設けます。積極的な議論への参加を期待します。</p> <p>⑤ゼミ員相互の交流や情報交換は密に行うようにしてください。</p>		
評価	<p>出席点・受講態度（70%）：質問や発言を適宜加点する。遅刻、無断欠席は厳禁です。</p> <p>レポート作成（20%）：レポートの内容、構成等を評価します。</p> <p>口頭発表（10%）：報告内容、レジュメ・報告スライド等のわかりやすさを評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>より専門性を有するテーマについて、自らで調査・分析・考察を行うことができるスキルを養います。「卒業論文演習」に向けて、履修学生の興味関心のあるテーマ・問題意識を引き出します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	専門演習Ⅱ	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は3年次前期科目2.0単位、3年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） （授業の展開計画） 本演習の展開は、つぎのように予定している。 （回数 内容） 16 （キャリア課進路ガイダンス） 17 経営組織 18 労務管理 19 （卒業年次ゼミテーマ登録カード提出） 20 財務管理 21 財務管理 22 販売管理 23 販売管理 24 計画と統制 25 （キャリア課進路面接） 26 いわゆる「日本的経営」 27 後期末：ゼミ年報記事の提出締切り 28 （合説参加） 29 企業の社会的責任 30 （新ゼミ生募集計画） 31 [予備日]
	テキスト・参考文献・資料など （テキスト）未定 （参考文献）古在由重（編）『哲学小辞典』岩波書店、小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣、日録刊行会（編）『経営図書総目録2015』。
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	セールス・プロモーション	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>私たちの暮らす社会は、人口減や低成長時代とビジネスの機会は減少し、しかもモノは満ち足りている。こうした状況下で、ただやみくもに製品等を提供したところで市場が受け入れ成功することは難しい。そういった環境だからこそ市場ニーズへの適応や働きかけといったマーケティング発想の経営が必要である。本講義は、企業経営におけるプロモーション戦略について体系的に理解する。</p>	<p>・企業経営や起業、または企画業務（経営計画、マーケティング、販促など）に興味ある学生はもちろんだが、それ以外の学生の受講も可。 ・後期開講の広告論と関連するので、広告論の受講をすすめる。</p>
到達目標	<p>・マーケティングや経営学の知識を身につけ、経営計画書やマーケティング戦略・プロモーション戦略について体系的に理解できる。 ・企業が取り組む経営戦略等に興味を深まり、日本経済新聞や日経MJ紙に目を通すことが習慣化する。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	消費者と企業のサークル（経済循環）	
	3	企業におけるマーケティングの役割と位置づけ	参考文献③の第1章
	4	企業におけるマーケティングの発達	参考文献①の序章
	5	日本型マーケティングの転換（投機型から延期型へと）	参考文献③の第1章
	6	経営戦略とマーケティング①（経営戦略策定プロセス、SWOT分析）	参考文献③の第3章
	7	経営戦略とマーケティング②（成長戦略論）	参考文献①の第2章
	8	経営戦略とマーケティング③（競争戦略論）	参考文献①の第6章、12章
9	事例紹介①（CVS・外食チェーン店の経営戦略）		
10	マーケティング戦略の立案①（マーケティング環境分析：PESTと3C）	参考文献③の第3章	
11	マーケティング戦略の立案②（STP開発と4P開発）	同上	
12	PLCとプロモーション戦略	同上	
13	価格とプロモーション戦略	参考文献②の第2章、第6章	
14	ブランドとプロモーション戦略	参考文献①の第8章	
15	事例紹介②（ブランディング）		
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。時間外の自主学習に役立つ参考文献として以下を推薦する。①「マーケティング戦略」和田充夫（他著）有斐閣アルマ②「価格・プロモーション戦略」上田高穂（他著）有斐閣アルマ③「現代マーケティングの構図」東徹（編著）</p>		
学びの手立て	<p>毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席となる。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するの、忘れずに必ず持参すること。</p>		
評価	<p>期末試験50%、レポート提出30%、授業態度20% 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>マーケティング戦略、プロモーション戦略立案の一連のプロセスを学習することで、持続的経営に向けた経営計画の重要性を認識するとともに、企業経営により関心を持ってもらう。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	税法	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 建夫	3年	授業に関する問い合わせは、授業中及び授業後に積極的に行ってください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、税法の基礎的内容を修得させることを目標とする。税法の領域は、所得税法、法人税法、相続税法、消費税法など広範囲に及ぶ。この講義では、法人税法を中心にとりあげる。法人税を算出するための課税所得計算の特色は、企業会計の利益計算から誘導されるところにある。そのため、商業簿記、会計学等で学んだことを比較しながら講義を進めていく。	簿記や会計学の学習も継続して行い、簿記検定の資格取得も目指してほしい。
到達目標	会計事務所や会社の経理、総務などの業務に役立つための基礎知識の修得と税理士資格試験税法科目の基礎学習の理解として役立つ。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス (授業の進め方、評価の方法), 税制と税法の基礎概念	質問の準備
	2	個別税法の体系と税法の基本原則	授業の予習と復習
	3	所得税法の課税所得	同上
	4	法人税法の課税所得	同上
	5	益金の意義と範囲 その1	同上
	6	益金の意義と範囲 その2	同上
	7	損金の意義と範囲 その1	同上
	8	損金の意義と範囲 その2	同上
9	益金と損金のまとめ, 中間テスト	同上	
10	役員給与と損金 その1	同上	
11	役員給与と損金 その2	同上	
12	交際費と損金 その1	同上	
13	交差費と損金 その2	同上	
14	その他の販管費と損金 その1	同上	
15	その他の販管費と損金 その2	同上	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	未定 佐藤正勝『租税法』同文館出版、鈴木基史『やさしい法人税』税務経理協会、井上徹二『租税法と税制』創成社		
学びの手立て	今まで学んだ簿記、会計学等の計算原理との比較や税法の法律としての特徴、相違などをしっかりつかむことが重要です。		
評価	成績評価の方法は、出席状況、中間テスト、期末試験などの内容を総合して判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 非営利会計、会計監査、経営分析なども受講することが望ましい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 ビジネス社会で活躍する人材を育成するために専門基礎知識の修得、判断力、考える力を学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	税務会計	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 建夫	3年	授業についての問い合わせは、授業中、授業後に積極的に行ってください。	

学びの準備	ねらい 本講義では、税務会計の基礎的、全般的内容を修得させることを目標とする。特に、法人税法の課税所得計算と企業会計（財務会計）の利益計算との関わりを中心にわかりやすく講義する。	メッセージ 簿記や財務会計の学習と並行して行い、簿記検定の資格取得も目指してほしい。
	到達目標 会計事務所や会社の経理、総務などの業務に役立つための基礎知識の修得と税理士、公認会計士資格取得の基礎学習を理解することを目標とする。	

学びの準備	到達目標 会計事務所や会社の経理、総務などの業務に役立つための基礎知識の修得と税理士、公認会計士資格取得の基礎学習を理解することを目標とする。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、税務会計の意義と役割	質問の準備
	2	課税所計算の意義	授業の予習と復習
	3	収益と益金、費用と損金	同上
	4	販管費と寄附金	同上
	5	販管費と貸倒損失	同上
	6	棚卸資産と損金 その1	同上
	7	棚卸資産と損金 その2	同上
	8	有価証券と損金	同上
	9	減価償却と損金 その1	同上
	10	減価償却と損金 その2	同上
	11	減価償却と損金 その3	同上
	12	減価償却と損金 その4	同上
	13	繰延資産と損金	同上
	14	貸倒引当金と損金	同上
	15	税額計算と納税申告	同上
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 未定 大城建夫『税務会計の理論的展開』同文館出版、鈴木基史『やさしい法人税』税務経理協会、成道秀雄編著『税務会計論』中央経済社
-------	--

学びの実践	学びの手立て 今まで学んだ簿記、会计学等の計算原理との比較や税務会計原理の特徴、相違などを理解するようにして下さい。
-------	---

学びの実践	評価 成績評価の方法は、出席状況、中間テスト、期末試験などの内容を総合して判断する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 原価計算、管理会計、非営利会計、会計監査、経営分析、会社法なども受講することが望ましい。
-------	---

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	卒業論文演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	4 年	uike@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい 企業会計に係わりこれまで学習してきた内容を深めるとともに、一つのテーマについてこれをまとめる。	メッセージ 企業に関わる様々な会計問題を見た上で自分の取り組む課題を見つけ、積極的に分析検討を行っていきましょう
-----------------------	--	---

到達目標 企業に関わる会計問題の中から、卒業論文の対象として取りあげるモノを選択し分析することによって、対象の問題点を見つけ出し、解決すべき点を明らかにします。

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> 卒業論文の作成 テーマの決定 文献調査 論文構成の決定 執筆 を、講義内で指導していく 会計のトピックについて 研究・発表を行う。
-----------------------	---

テキスト・参考文献・資料など 講義内で指示します

学びの手立て 対象とするテーマを選択するために多くの文献や資料を検索、確認しましょう。 課題テーマを選択した後は、関連する文献や資料を数多く調査、検討し問題点を見つけ出します。
--

評価 卒業論文に関わる中間報告 80 講義での課題提出 20、

次のステージ・関連科目 卒業論文演習 II で 本講義で明らかにした会計上の課題についてまとめます。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は4年次前期科目2.0単位、4年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、ひきつづきテーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。</p>	
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>なお本演習のイベント（ゼミ合宿・学園祭・コンパ）への学生諸君の積極的な参与を期待する。</p> <p>演習の展開計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>演習のすすめ方、評価のしかた</td></tr> <tr><td>2</td><td>研究対象</td></tr> <tr><td>3</td><td>研究対象</td></tr> <tr><td>4</td><td>アメリカ経営学</td></tr> <tr><td>5</td><td>(ゼミ合宿)</td></tr> <tr><td>6</td><td>ドイツ経営学</td></tr> <tr><td>7</td><td>ドイツ経営学</td></tr> <tr><td>8</td><td>企業論</td></tr> <tr><td>9</td><td>企業論</td></tr> <tr><td>10</td><td>経営管理</td></tr> <tr><td>11</td><td>経営管理</td></tr> <tr><td>12</td><td>意思決定</td></tr> <tr><td>13</td><td>意思決定</td></tr> <tr><td>14</td><td>経営戦略</td></tr> <tr><td>15</td><td>(レポート提出)</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	1	演習のすすめ方、評価のしかた	2	研究対象	3	研究対象	4	アメリカ経営学	5	(ゼミ合宿)	6	ドイツ経営学	7	ドイツ経営学	8	企業論	9	企業論	10	経営管理	11	経営管理	12	意思決定	13	意思決定	14	経営戦略	15	(レポート提出)
	回数	内容																															
	1	演習のすすめ方、評価のしかた																															
2	研究対象																																
3	研究対象																																
4	アメリカ経営学																																
5	(ゼミ合宿)																																
6	ドイツ経営学																																
7	ドイツ経営学																																
8	企業論																																
9	企業論																																
10	経営管理																																
11	経営管理																																
12	意思決定																																
13	意思決定																																
14	経営戦略																																
15	(レポート提出)																																
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 未定 (参考文献) 古在由重(編)『哲学小辞典』岩波書店、小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣、日録刊行会(編)『経営図書総目録2015』。</p>																																	
<p>学びの手立て</p> <p>評価</p>																																	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	4年		

学びの準備	ねらい 卒業論文作成に向けて、書き方・情報収集・論文の構成などを学ぶ。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 自らの関心のあるテーマについて文献調査し、卒業論文を執筆する。
	テキスト・参考文献・資料など 使用しない。

学びの実践	学びの手立て
	評価 出席や報告の内容などで、総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	4年	kiwahashi@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい 卒業論文執筆のための指導を行う。	メッセージ 研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。		
	到達目標 個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。			
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 卒業論文の研究に関しては、授業時間中だけでは指導が不十分なため、授業時間以外も適宜連絡の上で、毎週課外の指導をおこなうことを前提とする。 それぞれの研究の進捗状況に応じて、適宜指示を与える。			
	テキスト・参考文献・資料など 個々の卒業論文の仮構成に沿って、適宜紹介する。			
	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。 ・討論では積極的な発言を求める。 ・卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。 			
	評価 卒業論文に関する課題の提出状況と、その完成度を中心に評価する。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習 II			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	4年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身につけることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどのような役割を果たしているのか、また、会計の知識を得ることで何が出来るのかを学びます。この一年間は、各自が選択した企業の分析を進め、卒業論文をまとめます。	4年生になると、就職活動が本格化します。エントリーシートや履歴書の添削、県内各企業に就職しているOBOG（卒業生）の紹介などを通じて、ゼミ生の就職活動をバックアップします。
到達目標	① PCを利用した情報収集・分析能力が身に付く。 ② 経営分析を行うために必要なスキルを身に付ける。 ③ コミュニケーション能力（文章を書く力とプレゼンテーション能力）を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ①インターネット等を利用して入手した会計情報を、様々な手法を用いて分析し、その結果を発表します（この一年間は各種比率を計算し、成長性分析、収益性分析、効率性分析、安全性分析を行います）。 ②それぞれの企業の社史、事業内容、経営方針などを調べ、分析対象企業に関する理解を深めます。 ③この二年間の研究成果を卒業論文としてまとめます。2015年度のゼミ生が選んだ業界・企業は、以下のとおりです。 ・Aグループ：ビール（アサヒ、サントリー、キリン） ・Bグループ：テレビ（日テレ、テレ朝、フジ、TBS） ・Cグループ：製菓（ブルボン、江崎グリコ、森永製菓） ・Dグループ：飲料（伊藤園、コカコーラ、カゴメ、ダイドードリンコ） ・Eグループ：化粧品（資生堂、コーセー、ファンケル、マダム） ④卒業論文の内容をパワー・ポイントに要約し、セミナーハウスで発表会を行います。 ⑤発表の準備、卒業論文の執筆、パワー・ポイントの作成に多くの時間外学習が求められます。
	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。 ・参考文献：講義中に紹介します。
	学びの手立て 履修上の注意事項／心構え： ・「専門演習Ⅱ」を履修済みの学生しか登録できません。 ・昨年同様、遅刻・欠席は厳禁です。
	評価 ・平常点……50点（質疑応答への積極性や、ゼミに対する意欲・貢献度を評価します） ・卒業論文……50点

学びの継続	次のステージ・関連科目 二年間のゼミ活動によって、問題・課題を自分で見つけ、論理的な思考によって解決し、正確に伝える力は身に付いたはずですが。これらの力を活かし、ビジネスの世界で活躍してください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	4年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究レポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。</p> <p>②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。</p>	<p>ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。</p>
到達目標	ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>履修生は「卒業論文、卒業プロジェクト、課題研究」のいずれかを一つ選択し、取り組みます。（注意：研究テーマが決定したら、個人か少数のグループですすめるかを決定してもらう。）</p> <p>【1】卒業論文：興味があるテーマについて文献調査し、テーマを絞り込んでから対象とする問題点などについて客観的に分析し、卒業論文を執筆する。</p> <p>【2】卒業プロジェクト：「実用可能性の高い新商品開発」についてアイデアを出し、マーケティング・プランを作成する。新商品の開発段階・背景・生産工程、競合他社のリサーチ、新商品に対する消費者の購買行動について調査・分析を行う作業を通して、マーケターに必要な知識や技能を習得します。</p> <p>【3】課題研究：特定の研究課題を取り上げ、分析する。直面している問題・課題を明確にし、原因を究明し、改善策などを立案する。</p> <p>*****</p> <p>(1) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究とは何か / ゼミ運営の方針説明</p> <p>(2) 研究計画書・レジュメの作成方法・著作権・発表方法・参考文献・引用方法の確認</p> <p>(3) 論文テーマの選定（先行研究、分析方法、仮説設定など）</p> <p>(4) 卒論テーマ・プロジェクトテーマ・課題研究テーマの確定/年間計画書の提出</p> <p>(5) 先行研究の整理（1）</p> <p>(6) 先行研究の整理（2）</p> <p>(7) 先行研究の整理（3）</p> <p>(8) 仮説設定と分析方法（1）</p> <p>(9) 仮説設定と分析方法（2）</p> <p>(10) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導①</p> <p>(11) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導②</p> <p>(12) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導③</p> <p>(13) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究内容の発表及び討論（1）</p> <p>(14) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究内容の発表及び討論（2）</p> <p>(15) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究内容の発表及び討論（3）</p> <p>(16) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の中間レポートの提出</p> <p>*****</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義の中で、適切なテキストを指示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。</p> <p>②ゼミ生は必ず7月中旬の発表会に参加しなければなりません。</p> <p>③授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（パティシペーションなど）が必要である。</p>
	<p>評価</p> <p>発表内容（50%）・出席および受講態度（50%）などで総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学院進学、中小企業診断士、マーケティング関連会社など</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	4年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。 ②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。

到達目標	ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。
------	---------------------------

学びのヒント	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>履修生は「卒業論文、卒業プロジェクト、課題研究」のいずれかを一つ選択し、取り組みます。（注意：研究テーマが決定したら、個人か少数のグループですすめるかを決定してもらう。）</p> <p>【1】卒業論文：興味があるテーマについて文献調査し、テーマを絞り込んでから対象とする問題点などについて客観的に分析し、卒業論文を執筆する。</p> <p>【2】卒業プロジェクト：「実用可能性の高い新商品開発」についてアイデアを出し、マーケティング・プランを作成する。新商品の開発段階・背景・生産工程、競合他社のリサーチ、新商品に対する消費者の購買行動について調査・分析を行う作業を通して、マーケターに必要な知識や技能を習得します。</p> <p>【3】課題研究：特定の研究課題を取り上げ、分析する。直面している問題・課題を明確にし、原因を究明し、改善策などを立案する。</p> <p>*****</p> <p>(1) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究とは何か / ゼミ運営の方針説明 (2) 研究計画書・レジュメの作成方法・著作権・発表方法・参考文献・引用方法の確認 (3) 論文テーマの選定（先行研究、分析方法、仮説設定など） (4) 卒論テーマ・プロジェクトテーマ・課題研究テーマの確定/年間計画書の提出 (5) 先行研究の整理（1） (6) 先行研究の整理（2） (7) 先行研究の整理（3） (8) 仮説設定と分析方法（1） (9) 仮説設定と分析方法（2） (10) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導① (11) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導② (12) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導③ (13) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究内容の発表及び討論（1） (14) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究内容の発表及び討論（2） (15) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究内容の発表及び討論（3） (16) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の中間レポートの提出</p> <p>*****</p>
--------	---

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義の中で、適切なテキストを指示する。</p>
----	--

学びの手立て	<p>①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。 ②ゼミ生は必ず7月中旬の発表会に参加しなければなりません。 ③授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（パティシペーションなど）が必要である。</p>
--------	---

評価	発表内容（50%）・出席および受講態度（50%）などで総合的に評価する。
----	--------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学院進学、中小企業診断士、マーケティング関連会社など</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	4年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身につけることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどういう役割を果たしているのか、また、会計の知識を得ることで何ができるのかを学びます。この一年間は、各自が選択した企業の分析を進め、卒業論文をまとめます。	4年生になると、就職活動が本格化します。エントリーシートや履歴書の添削、県内各企業に就職しているOBOG（卒業生）の紹介などを通じて、ゼミ生の就職活動をバックアップします。

到達目標
① PCを利用した情報収集・分析能力を身に付ける。 ② 経営分析を行うために必要なスキルを身に付ける。 ③ コミュニケーション能力（文章を書く力とプレゼンテーション能力）を身に付ける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ①インターネット等を利用して入手した会計情報を、様々な手法を用いて分析し、その結果を発表します（この一年間は各種比率を計算し、成長性分析、収益性分析、効率性分析、安全性分析を行います）。 ②それぞれの企業の社史、事業内容、経営方針などを調べ、分析対象企業に関する理解を深めます。 ③この二年間の研究成果を卒業論文としてまとめます。2015年度のゼミ生が選んだ業界・企業は、以下のとおりです。 ・Aグループ：ビール（アサヒ、サントリー、キリン） ・Bグループ：テレビ（日テレ、テレ朝、フジ、TBS） ・Cグループ：製菓（ブルボン、江崎グリコ、森永製菓） ・Dグループ：飲料（伊藤園、コカコーラ、カゴメ、ダイドードリンコ） ・Eグループ：化粧品（資生堂、コーセー、ファンケル、マダム） ④卒業論文の内容をパワー・ポイントに要約し、セミナーハウスで発表会を行います。 ⑤発表の準備、卒業論文の執筆、パワー・ポイントの作成に多くの時間外学習が求められます。
	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。 ・参考文献：講義中に紹介します。

学びの手立て
履修上の注意事項／心構え： ・「卒業論文演習Ⅰ」を履修した学生しか登録できません。 ・前期同様、遅刻・欠席は厳禁です。

評価
・平常点……50点（質疑応答への積極性や、ゼミに対する意欲・貢献度を評価します） ・卒業論文……50点

次のステージ・関連科目
二年間のゼミ活動によって、問題・課題を自分で見つけ、論理的な思考によって解決し、正確に伝える力は身に付いたはず。これらの力を活かし、ビジネスの世界で活躍してください。

学びの継続

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	4年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業会計に係わり、これまで学習してきた内容を深めるとともに、一つのテーマについてこれをまとめる	メッセージ 企業に関わる様々な会計問題を見た上で自分の取り組む課題を見つけ、積極手に分析・検討を行っていきましょう
	到達目標 企業に関わる会計問題の中から卒業論文の対象として取りあげた課題について、論文を作成し、パワーポイントにて報告することにより、問題発見、解決、評価のプロセスに関わる能力を高める	

学びの準備	到達目標 企業に関わる会計問題の中から卒業論文の対象として取りあげた課題について、論文を作成し、パワーポイントにて報告することにより、問題発見、解決、評価のプロセスに関わる能力を高める

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> 卒業論文の作成 文献調査 論文構成の決定 執筆 後半の講義内で、卒論の報告を行う 会計のトピックについて 最新の会計基準動向などについて 研究・報告を行う
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で指示します。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義内で指示します。
	学びの手立て 対象となるテーマについて論考を行いそれに対する考えを明確に表すため、論考の進め方、論文の書き方、報告の要点などを文献、資料を十分参考にして取り組んでください。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義内で指示します。
	学びの手立て 対象となるテーマについて論考を行いそれに対する考えを明確に表すため、論考の進め方、論文の書き方、報告の要点などを文献、資料を十分参考にして取り組んでください。

学びの実践	評価 卒業論文の報告、提出 100

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業後の社会活動において、企業活動の把握、問題点の抽出、解決法の探求、提示 という実践的な問題についての取り組み方を身につけ、実践する。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	4年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。 ②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。

到達目標	卒業論文の作成能力を習得する。
------	-----------------

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>*****</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 後期日程のガイダンス (2) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討① (3) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討② (4) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討③ (5) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導① (6) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導② (7) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導③ (8) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導④ (9) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑤ (10) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑥ (11) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑦ (12) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑧ (13) 卒論・卒プロジェクト・課題研究の原稿の校正① (14) 卒論・卒プロジェクト・課題研究の原稿の校正② (15) 卒論・卒プロジェクト・課題研究の原稿の印刷 (16) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の提出 <p>*****</p>
	テキスト・参考文献・資料など
	<p>講義の中で、適切なテキストを指示する。</p>
学びの手立て	<p>①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。</p> <p>②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（パティシペーションなど）が必要である。</p>
評価	発表内容（50%）・出席および受講態度（50%）などで総合的に評価する

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学院進学、中小企業診断士、マーケティング関連会社など</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	4年		

学びの準備	ねらい 年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は4年次前期科目2.0単位、4年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、ひきつづきテーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>（授業の展開計画） 本演習の展開は、つぎのとおり予定している。</p> <p>（回数 内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> 16 経営組織 17 経営組織 18 労務管理 19 (卒業年次ゼミテーマ登録カード提出) 20 財務管理 21 財務管理 22 販売管理 23 販売管理 24 計画と統制 25 計画と統制 26 いわゆる「日本的経営」 27 後期末：卒業論文の提出締切り 28 企業の社会的責任 29 (卒業式謝恩会の実施計画) 30 企業の社会的責任 31 [予備日]
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 未定 (参考文献) 古在由重(編)『哲学小辞典』岩波書店、小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣、日録刊行会(編)『経営図書総目録2015』。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>評価</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	4年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。 ②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。

到達目標	卒業論文の作成能力を習得する。
------	-----------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>*****</p> <p>(1) 後期日程のガイダンス</p> <p>(2) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討①</p> <p>(3) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討②</p> <p>(4) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討③</p> <p>(5) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導①</p> <p>(6) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導②</p> <p>(7) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導③</p> <p>(8) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導④</p> <p>(9) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑤</p> <p>(10) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑥</p> <p>(11) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑦</p> <p>(12) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑧</p> <p>(13) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究の原稿の校正①</p> <p>(14) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究の原稿の校正②</p> <p>(15) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究の原稿の印刷</p> <p>(16) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の提出</p> <p>*****</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義の中で、適切なテキストを指示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。</p> <p>②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（パティシペーションなど）が必要である。</p>
	<p>評価</p> <p>発表内容（50%）・出席および受講態度（50%）などで総合的に評価する</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学院進学、中小企業診断士、マーケティング関連会社など</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	金2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	4年		

学びの準備	ねらい 卒業論文演習Ⅰに同じ。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など

学びの実践	学びの手立て

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	4年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文執筆のための指導を行う。	メッセージ 研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。
	到達目標 個々の学修成果として、卒業論文を完成させる。	

学びの準備	到達目標 個々の学修成果として、卒業論文を完成させる。
-------	--------------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>卒業論文の研究に関しては、授業時間中だけでは指導が不十分なため、授業時間以外も適宜連絡の上で、毎週課外の指導をおこなうことを前提とする。 それぞれの研究の進捗状況に応じて、適宜指示を与える。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>個々の卒業論文の構成に沿って、適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。 ・討論では積極的な発言を求める。 ・卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 個々の卒業論文の構成に沿って、適宜紹介する。
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。 ・討論では積極的な発言を求める。 ・卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>卒業論文の完成度を中心に評価する。</p>
-------	------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>これまで関心をもったすべての科目が関連しうる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャル・マーケティング	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-親泊 元彦	3年	hcrokinawa@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>NP0、学校、役所等の非営利組織のマーケティングや企業の社会性や社会貢献について、成功事例を紹介しながら学びます。様々な成功事例を紹介し、補足・解説を加えながらその本質に迫ります。更に、これからの企業の将来展望についてディスカッションしながら共に学びます。</p>	<p>グループ学習も取り入れます。毎回、グループを抽選で決めます。「一期一会」の精神で「メンバーに自分の意見をしっかり伝える」「相手の意見をしっかりと聞く」ことを意識的に実践し、相互理解を深めます。</p>
到達目標	<p>1. 非営利組織におけるマーケティングの意味・意義・目的について理解を深めること。 2. 様々な成功事例から、その本質を探り、それらをどのように応用するかを考えること。 3. 企業が求める人財の条件を把握し、「あるべき自分創り」に生かすこと。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（講義概要、受講の仕方、ゴール設定）	個人目標の設定
	2	非営利組織とは何か	非営利組織の本質を考える
	3	非営利組織におけるマーケティングとは	非営利組織でのマーケティングの必要性
	4	非営利組織におけるマーケティング・ミックス	非営利組織における生産性とは
	5	事例紹介及びその補足・解説1	身近に同様・類似の事例を探索する
	6	事例紹介及びその補足・解説2	同上
	7	事例紹介及びその補足・解説3	同上
	8	社会志向のマーケティングとは	社会志向の本質とは
	9	企業の社会的責任とは	企業の社会的責任の範囲
	10	企業の社会貢献とは	社会貢献の意味・意義・目的
	11	企業の社会性と経営理念	経営理念の意味・意義・目的
	12	企業の価値観と人材育成	人的資源としての人材とは
	13	これからのマーケット・ニーズの捉え方	マーケット・インの考え方
	14	ソーシャル・マーケティングの将来展望	時代のトレンドを把握する
15	講義のまとめ	これまでの振り返り	
16	学期末試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定はありません。必要に応じて講義の際にプリント・レジュメ等で配布します。</p>
-------	---

学びの手立て	<p>毎回講義の始めに、1週間の振り返り（フィードバック）を行います。よって、毎週計画的に過ごすことでフィードバックがスムーズになります。また、1週間のサイクルで繰り返すことで生活のリズムが掴めるようになり、より良い習慣が身に付きます。</p>
--------	--

評価	<p>出席状況、受講態度、課題・レポート等の提出及びその内容、学期末試験等を総合的に判断して評価をします。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 個別の質問や相談等に対しては、可能な限り対応します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業診断Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-銘苅 康弘	3年	mekaruyasuhiro@gmail.com	

学びの準備	ねらい 中小企業の経営診断を行うにあたり必要な基礎知識の習得を行い、架空の企業事例をもとに具体的な診断を体系的に学習する。	メッセージ 大学にて学んだ経営理論を仕事の場で活かせるような、ものの味方や考え方を身につけます。たとえどのような仕事についてもビジネスパーソンとして必要な知識とそれを具体的に活用する術が学べます。
	到達目標 ・企業経営の事象を論理的に分析し、問題点、課題、解決策を導くことができる ・中小企業診断士試験の問題を理解し回答できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、履修登録	
	2	企業診断の進め方	企業診断のフレームワークの理解
	3	中小企業の経営戦略	経営理論についておさらいすること
	4	" の財務診断の概略	財務管理についておさらいすること
	5	" の販売診断の概略1	フレームワークのおさらい
	6	" の販売診断の概略2	同上
	7	" の生産診断の概略	原価管理のおさらい
	8	中間テスト	
9	中間テストの解説		
10	小売商業の診断演習1	小売商業の動向について調査	
11	" 2	同上	
12	製造業の診断演習1	国内製造業の動向について調査	
13	" 2	同上	
14	サービス業の診断演習	国内のIT業界について調査	
15	期末テスト		
16	期末テスト解説、考査		
実践	テキスト・参考文献・資料など 市販のテキスト等は使用しません。オリジナルの資料を適宜配布します。		
	学びの手立て ・出欠確認を毎回行い、評価点とします ・講義に参加しかつ議論に参加することを重視します ・社会や経済環境に興味を持ち普段からニュース等をウオッチしてください		
	評価 平常点（60%）：講義への出席と積極的な発言に対して加点します 中間テスト（20%）：マネジメントやマーケティングの基本知識のおさらいをします 期末テスト（20%）：架空企業の診断を行っていただきます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業診断士試験の資格取得を目指していただきたい。 就職後の仕事においてももの見方や物事の進め方を実践的に活かしていただきたい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	販売管理論	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	販売業務の基礎（接客・販売技術・店舗経営等）を学ぶことで、関連する流通・マーケティング科目の習得につなげる。 明確な達成目標として、リテールマーケティング（販売士）検定3級の取得を目指すことで、流通・マーケティングを学ぶことの有意義さを身近に感じてもらえるようにする。	皆さんはショッピングをする際に、商品の質や価格のほかに、店内の雰囲気、従業員の接客、商品の品揃えや陳列方法に興味を持ったことはありませんか。販売の現場では、顧客のニーズを的確に捉えようと日々様々な工夫を凝らしています。 本講義では、リテールマーケティング検定3級取得を目指しながら、流通やマーケティングをより身近に学んでいきます。
到達目標	①流通システムにおける小売業の役割を理論・実務双方の点から理解する。 ②リテールマーケティング（販売士）検定3級取得に必要な知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス／販売士検定受験に向けて	
	2	小売業の類型①	宿題：使用テキスト①「小売業の類型」
3	小売業の類型②	同上	
4	小売業の類型③	同上	
5	マーチャンダイジング①	宿題：使用テキスト①「マーチャンダイジング」	
6	マーチャンダイジング②	同上	
7	マーチャンダイジング③	同上	
8	ストアオペレーション①	宿題：使用テキスト②「ストアオペレーション」	
9	ストアオペレーション②	同上	
10	マーケティング①	宿題：使用テキスト②「マーケティング」	
11	マーケティング②	同上	
12	マーケティング③	同上	
13	販売・経営管理①	宿題：使用テキスト②「販売・経営管理」	
14	販売・経営管理②	同上	
15	これまでの復習	期末テスト対策	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など		
	使用テキスト： ①中谷安伸『よくわかる販売士検定（リテールマーケティング）3級 Part1』一ツ橋書店，2014年 ②中谷安伸『よくわかる販売士検定（リテールマーケティング）3級 Part2』一ツ橋書店，2014年		
	学びの手立て		
	【履修の心構え】 ①履修学生の出席を前提として講義を進行していきます。そのため、遅刻や無断欠席は成績評価に大きく影響します。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで担当教員に連絡をしてください。 ③テキストは必ず購入してください。 ④毎回宿題を出します。予習・復習をしっかりとすることで、講義内容の理解が一層早くなります。 ⑤「流通総論」、「マーケティング総論」を事前に履修していると、講義内容をより深く理解できます。		
	評価		
	期末テスト（60%） 出席点・受講態度（20%）：質問や発言を適宜加点する。遅刻、無断欠席は評価に大きく影響します。 宿題・レポート（20%）：適宜、課題レポートや小テストを実施します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 販売実務への興味関心を喚起し、流通やマーケティングが非常に身近なものであることを理解することが目標。 履修学生には、リテールマーケティング（販売士）検定3級へのチャレンジを促したい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

各非営利法人の意義・特徴及びその会計制度について学習し、企業会計制度で重視される「説明責任」を再確認する講義となります。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	非営利会計	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	3年	E-mail : ptt451@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	非営利会計の対象は、国・地方公共団体・公益法人・学校法人・社会福祉法人・宗教法人等であり、それぞれに会計基準が存在します。近年の非営利会計制度の改正は、アカウンタビリティ(説明責任)を重視する企業会計制度と多くの共通部分を有するようになりました。それぞれの組織の特徴や会計制度及びその変遷を学びます。	非営利法人会計の改正傾向は、企業会計の表示基準等に近似しています。簿記会計の基礎を習得した学生にとって、将来の選択肢が広がる科目と思います。
到達目標	非営利組織ごとの会計基準(測定方法、表示および開示方法)の違いにより、一般的な会計知識では、その情報を理解し利用することが困難であることを学習するとともに、近年における各会計基準の改訂の動向を認識し、その方向性を考察できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・わが国の非営利組織会計	各項目ごとのレジュメ確認
	2	非営利法人の「貸借対照表」－「資産の部」	同上
	3	非営利法人の「貸借対照表」－「負債の部」「正味財産の部」	同上
	4	非営利法人の「正味財産増減計算書」	同上
	5	非営利法人の「キャッシュ・フロー計算書」	同上
	6	非営利法人の法人税等 1 概要	同上
	7	非営利法人の法人税等 2 収益事業の意義と範囲等	同上
	8	非営利法人の法人税等 3 みなし寄付金制度、消費税等	同上
	9	社会福祉法人会計	同上
	10	NPO法人会計	同上
	11	病院会計	同上
	12	地方政府の会計－わが国地方政府の会計	同上
	13	地方政府の会計－政府会計の「基本目的」「貸借対照表」「資産の部」の評価	同上
14	地方政府の会計－政府会計の「行政コスト計算書」	同上	
15	地方政府の会計－政府会計の「純資産変動計算書」「資金収支計算書」	同上	
16	レポート作成(提出)	1～15週までのレジュメまとめ	
テキスト・参考文献・資料など			
テキスト:株式会社創成社『非営利組織会計テキスト』宮本幸平著 参考文献:有限会社森山書店『非営利組織会計基準の統一』宮本幸平著 財団法人大蔵税務協会『非営利法人の税務と会計』中田ちず子編著 日本法令『非営利組織の税務・会計・運営』下吹越一孝編著			
学びの手立て			
商業簿記Ⅰ及びⅡを履修済みであることが望ましい。			
評価			
出席及び授業姿勢、レジュメの完成度及びレポート等で総合的に評価します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 「関連科目」税法、税務会計等
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較経営論 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較経営論Ⅱ	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス実務総論	通年	木6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ビジネス実務の全体像を把握するとともに、その能力を高める。	メッセージ 前期では、実務のさまざまな場面において求められている考え方やノウハウを学ぶ。後期では、企業の採用試験などで使用されている問題の演習を行う。
	到達目標 ①ビジネス実務の全体像をつかむ。②実務において必要不可欠とされている思考力、判断力などの基礎能力を高める。	

学びの準備	到達目標 ①ビジネス実務の全体像をつかむ。②実務において必要不可欠とされている思考力、判断力などの基礎能力を高める。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <前期> 1. ビジネス実務とは何か 2. 目標を立てる 3. 個人業務でのPDSサイクル 4. 業務推進とコミュニケーション 5. グループ・ダイナミクス 6. 協働業務でのPDSサイクル 7. 組織とリーダーシップ 8. 集団的意思決定 9～10. ビジネス文書の作成 11～12. 対人実務 13～14. 雇用動向とさまざまな業種・職種の特徴 15. まとめ <後期> 1～8. 計算・方程式 9～10. 確率・集合 11～12. グラフ・図表 13～14. 判断推理 15. まとめ
	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。
	学びの手立て 通年科目のため、前期の評価点数が一定未満の場合、結果的にそこで足切りとなります。また前期で足切りされたとしても、後期で同じ曜日時限に別の科目を履修することはできませんので注意してください。

学びの実践	評価 出席日数を重視したうえで、前期に実施する課題・試験が50%、後期に実施する課題・試験が50%

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネスプレゼンテーション、インターンシップ I、など。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスプレゼンテーション	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐渡山 美智子	3年	free-net@ezweb.ne.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「伝えたいこと」を誤解なく、効果的に表現するためには、コミュニケーションの基本を知ることが必要です。傾聴、理解、共感、確認、伝達など、「相手を知ること」で、伝える内容や表現を選ぶことができます。あわせて、相手への敬意を表すためには、姿勢を整え挨拶を交わし、より伝わる話し方を身につけ、言葉に責任を持った表現ができることを目指します。</p>	<p>社会人として求められるスキルのトップにあげられるのは、コミュニケーション力です。ビジネスの基本である報告・連絡・相談も、相手の身になって考え、行動することから始まります。姿勢を正して挨拶ができ、その言葉は聞き取りやすく、しっかりと責任をもって伝えることができるようにスキルアップを図ります。プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートを通して実践します。</p>
到達目標	<p>●傾聴（話の内容と意図を理解）し、要点をメモにとることができる。●姿勢を整え、しっかりと挨拶をすることができる。●言葉が聞きとりやすく、はっきりと話すことができる。●情報の収集・整理・選択ができる。●グループワークで意見を調整し、プレゼンテーションができる。●聞き手にあわせて、効果的に話をする事ができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	自己紹介・受講目的について準備
	2	姿勢・挨拶・発声トレーニング・自己紹介・インタビュー・他己紹介	発声練習・自己PR文の作成
	3	自己PRスピーチトレーニング・音読トレーニング	新聞記事の準備
	4	継承<クリエイティブリスニング>、新聞記事の音読・内容紹介	ディスカッションテーマの提案
	5	ディスカッションテーマの提案<グループテーマの選択>	テーマについての情報収集
	6	情報の収集・整理・選択<情報の提供と目的の明確化・表現の方法>	コメントの作成・言葉の選択
	7	ディスカッション<傾聴・理解・伝達・表現>	振り返りレポート
	8	ディベートについて<多角的なもの見方・多様な価値観の理解>	ディベートテーマの提案準備
	9	ディベートテーマの提案・決定<社会的な課題からの選択>	裏付けデータ等、情報の収集・選択
	10	ディベートマップの作成<多角的視点・ストーリーの作成>	ファイルの整理・発言リハーサル
	11	ディベートマッチ<実践>＝物事の本質を観る論理的な話し方	振り返りレポート・就活の現状を整理
	12	ディスカッション<就職活動を有利に展開するために>	現状の把握・情報収集・整理・所見
	13	グループワーク<情報共有・整理・選択・要点・表現方法等>	パワーポイントの作成
	14	チームプレゼンテーション<実践1>	PDCAマネジメントサイクルで検証
15	チームプレゼンテーション<実践2>	総括レポートのまとめ	
16	総括<コミュニケーション力とプレゼンテーション>		

テキスト・参考文献・資料など
 テキストは使用しません。必要な資料は、プリントで配布致します。

学びの手立て
 履修の心構えとして ●出欠確認を厳格に行います。連絡なしの欠席・遅刻は大きな減点となります。やむを得ない状況の場合は、必ず連絡することを基本とします。欠席届は必ず翌週までに提出してください。●この講義を受講する目的を明確にして臨むことが有意義な活動へと繋がります。●プリントは最小限に準備する予定です。講義内の話をきちんと聞く姿勢から、傾聴と学び取るチカラをつけてもらいます。あわせて、その要点をメモにして記録を残し、振り返り・確認ができること評価します。社会でもとめられているスキルのひとつです。●人と人を繋ぐ意識を持ち、グループワークでよりよいコミュニケーションのために行動してください。●質問するチカラで講義の内容をより有意義なものにしてください。

評価	<input type="checkbox"/> 出席率 <input type="checkbox"/> 宿題・課題など事前準備の状況	<input type="checkbox"/> 提出物（レポートやノートなど） <input type="checkbox"/> 活動内容と実績
----	---	--

次のステージ・関連科目
 ●この講義で要点となっていることを意識的に実践していくことが、スキルアップに繋がります。3年生は、就職活動の中で、また、社会人としても常にコミュニケーションと表現。自分の言葉に責任をもつことをこころがけることが大切です。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	1年		

学びの準備	ねらい 大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。	メッセージ フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。
	到達目標 1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する	
10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる	
11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる	
12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる	
13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる	
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
	テキスト・参考文献・資料など 随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。		
	学びの手立て ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。		
	評価 授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年	5号館636研究室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる

テキスト・参考文献・資料など
<p>随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>

学びの手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。

評価
<p>授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。</p>

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	1年	第5-603番教室(研究室)	

学びの準備	ねらい 大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。	メッセージ フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。
	到達目標 1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事(経済記事)の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する	
10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる	
11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる	
12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる	
13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる	
14	ビジネス分野(経営・マーケティング・会計)の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野(経営・マーケティング・会計)の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。		
	学びの手立て ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア(新聞、TV、インターネット、書籍等)で情報を収集してください。		
	評価 授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	慶田花 英太	1年	e.kedahana@okiu.ac.jp 研究室：9号館503号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	1年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング演習A	前期	火3	0
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 表計算ソフトを用い、実践的なデータ処理やデータ作成を行うための技術を習得する。	メッセージ 表計算ソフトの利用は、ビジネスの実践において必須です。利用できる技術を身につけましょう。
	到達目標 基本的な表計算処理をマスターする。	

学びの準備	到達目標 基本的な表計算処理をマスターする。
-------	---------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	表の作成	教科書 基礎 第1～2章
	2	表の編集	教科書 基礎 第3章
	3	四則演算と関数	教科書 基礎 第4章
	4	グラフ	教科書 基礎 第5章
	5	データベース	教科書 基礎 第6章
	6	印刷&売り上げ実績表	教科書 基礎 第7章&総合
	7	印刷&売り上げ報告書	教科書 基礎 第7章&総合
	8	申し込み一覧の作成	教科書 基礎 第7章&総合
	9	入力作業をサポートする機能	教科書 応用 第1章
	10	関数を使用した入力サポート	教科書 応用 第2章
	11	データ配布について&データのビジュアル化	教科書 応用 第3～4章
	12	データ分析の準備とデータベース機能	教科書 応用 第5章
	13	ピボットテーブルとピボットグラフ	教科書 応用 第6章
	14	四半期売り上げ実績の制作	教科書 応用 総合
	15	四半期売り上げ分析	教科書 応用 総合
16	課題提出	教科書 全体	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など Microsoft Excel2010 セミナーテキスト問題集 (日経BP社)
-------	---

学びの実践	学びの手立て コンピュータールームや自宅のPCで、テキストに沿って、課題をしっかりとやること。
-------	--

学びの実践	評価 出席：規定通り。 提出物：10回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。(例：おしゃべり等)。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 プログラミングB。簿記会計。
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング演習B	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本授業では、Android携帯端末のソフト開発を通してプログラミングについて学んでいくことを狙いとしています。授業では、MIT App Inventorを使ったアプリ制作を行います。プログラミングの基本である順次（逐次）、反復（繰り返し）、分岐（条件判断）などをブロックプログラミングで学びます。デザイナー画面によるインターフェイスの設計からアプリ開発まで学びます。	Android端末を持っていると授業で制作したアプリケーションを各自の端末で利用することができます。
到達目標	課題のすべてのアプリケーションを作成する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Android開発環境について	授業共有ファイル その1
	2	APP Inventor開発環境について	授業共有ファイル その1 & その2
	3	ボタンの配置	授業共有ファイル その3
	4	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法	授業共有ファイル その4
	5	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法	授業共有ファイル その5
	6	しゃべるAndroidアプリの作成 I	授業共有ファイル その6
	7	しゃべるAndroidアプリの作成 II	授業共有ファイル その7
	8	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 I	授業共有ファイル その8
	9	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 II（ゲームの作成 I）	授業共有ファイル その9
	10	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 III（ゲーム感覚のアラーム時計の作成）	授業共有ファイル その10
	11	シューティングゲームAndroidアプリの作成 I（スプライトの利用）	授業共有ファイル その11
	12	シューティングゲームAndroidアプリの作成 II（タイマー処理の組み込み）	授業共有ファイル その12
	13	お絵かきAndroidアプリの製作	授業共有ファイル その13
14	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作	授業共有ファイル その14	
15	まとめ	授業共有ファイル その1～14	
16	課題提出	授業共有ファイル その1～14	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いずにプリント(各自、授業共有ファイルよりダウンロード)で行います。また、それに伴い、講義内容に変更のある場合があります。 Android関連書籍。関連Webページ。		
	学びの手立て		
	授業共有ファイルに毎時間の授業内容をアップロードします。それを参照しながら、実際にAndroidのアプリケーションを作成していきます。各自、家にPCがあれば、それで開発することも可能です。		
	評価		
	出席：規定通り。 提出物：10回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 マルチメディア論。卒業研究。卒業論文。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ベンチャー経営論Ⅰ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 朝子	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ベンチャー企業経営に求められる大企業とは異なった意思決定の構造やスピード感、変化の激しい社会の中で自ら主体的に判断し、よりよい方向に課題を解決する能力の養成に役立ちます。そのため、当該講義においては成長段階に合わせた具体的なマネジメント手法やケーススタディを用いた解説を行い、ベンチャー企業経営の要諦を確実に理解することに努めます。	ベンチャー企業のマネジメント手法については、斬新な手法や概念が数多く用いられています。中でもデザイン思考やボーングローバル、クラウドファンディングといった手法や概念は企業組織の中で新規プロジェクトの推進などにも用いられ、起業を志す受講者だけでなく、企業の中でプロジェクトリーダーやフォロワーとして活躍しようと考えている皆さんにも有益なものになります。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ベンチャー企業の定義及び役割、アントレプレナーシップ（起業家精神）、イノベーションについて正しく理解し説明できるようになる。 ベンチャー企業の成長ステージ別のマネジメントについて特徴を捉えたとともに具体策について理解を深め説明できるようになる。 実際のベンチャー企業の事例について理論的な枠組みを使用した分析を行い、自分なりの見解を持って説明できるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・ベンチャー企業の定義	シラバスの熟読
	2	ベンチャーブームの変遷とベンチャー企業の社会的役割	授業ノートの見直しと要点の整理
	3	アントレプレナーシップ（起業家精神）と起業家の役割	予習資料の読了
	4	ベンチャーキャピタルと支援策	中小企業庁のホームページ閲覧
	5	イノベーションの創出	デザイン思考に関する資料の読了
	6	ベンチャー企業の成長プロセスと成長段階別の戦略	授業ノートの見直しと要点の整理
	7	ベンチャー企業のマネジメント① シード期（創業前の課題と解決策）	キャッシュフロー予測に関する予習
	8	ベンチャー企業のマネジメント② スタートアップ期	死の谷に関する資料読了
9	ベンチャー企業のマネジメント③ 急成長期	IPOに関する事前調査	
10	ベンチャー企業のマネジメント④ 安定成長期	成長段階別戦略についての要点整理	
11	成長に必要な機能 チームの組成・人材確保・知的財産の確保	ユニークな人材確保手法の調査	
12	ケーススタディ①：学生企業の事例	ケース企業のホームページ閲覧	
13	ケーススタディ②：ボーングローバルな事例	ケース企業と類似した企業の調査	
14	ケーススタディ③：VCから大口の投資を受けた企業の事例	ケース企業のホームページ閲覧	
15	ケーススタディ④：県内ベンチャー企業の事例	ケース企業のホームページ閲覧	
16	期末試験：到達度の確認とベンチャー企業に関する分析		
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：教科書は使用せず、適宜プリント及び資料を配布します。 参考文献：学習を深めるための参考文献を講義の中で適宜紹介します。	
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 履修の心構え 配布されたプリントは予習・復習に使用するほか講義内で使用することもあるため、ファイリングを行い毎回持参すること。 受講生のレベルや興味に合わせて講義内容を若干変更することがあります。 学びを深めるために 日本経済新聞や日経ビジネスなどのベンチャー企業に関連する記事に目を通すことにより理解が深まります。新語や専門用語が多くなるため事前学習による予習が重要となります。 		
評価	平常点30% 出席カードへの質問事項の記入や練習問題についての解答などにより評価。 期末試験70% 到達目標に示されている事柄について、授業で習得した理論的枠組みを利用して考察されているか、独自の調査により自身の考察が深められているかなどの基準により評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目として次年度の後期に「ベンチャー経営論Ⅱ」を開講。グループワーク形式により、デザイン思考を応用したビジネスアイデアの創出からビジネスプランを作成し、プレゼンテーションを実施します。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記演習 I	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	1年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、前期の「商業簿記 I」で学んだ内容を復習し、日商簿記検定試験 3 級取得を目指します。	日商簿記検定試験は11月と 2月に行われます。11月試験の合格を目指し、頑張ってください。

到達目標
① 現金取引、商品売買取引、手形取引などの諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 上記①の諸取引を現金出納帳、仕入帳・売上帳、商品有高帳などの補助簿に記帳できる。 ③ 個人企業の損益計算書と貸借対照表を作成できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成	講義内容の復習
	3	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成	同上
	4	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成	同上
	5	11月検定試験合格に向けて：精算表の作成	同上
	6	11月検定試験合格に向けて：精算表の作成	同上
	7	11月検定試験合格に向けて：精算表の作成	同上
	8	2月検定試験合格に向けて：試算表の作成	同上
	9	2月検定試験合格に向けて：精算表の作成	同上
	10	2月検定試験合格に向けて：財務諸表の作成	同上
	11	2月検定試験合格に向けて：財務諸表の作成	同上
	12	2月検定試験合格に向けて：財務諸表の作成	同上
	13	2月検定試験合格に向けて：財務諸表の作成	同上
	14	2月検定試験合格に向けて：帳簿・伝票	同上
15	2月検定試験合格に向けて：帳簿・伝票	同上	
16	期末テスト	—	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：未定 ・参考文献：使用しません。
-------	---

学びの手立て	履修上の注意事項／心構え： ・「商業簿記 I」を履修済みの学生しか登録できません。 ・資格取得を目指す講義なので、多くの時間外学習が必要です。
--------	---

評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します）
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・関連科目：商業簿記 II（1年次）、工業簿記 I II（2年次）など、会計コースの諸科目
-------	--

※ポリシーとの関連性

「国際的ビジネス感覚を有する企業人の育成」するため、それに伴う英語力とグローバルな視点を待つことを目指す。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング英語	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 千登勢	3年	c. uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	様々なビジネスシーンやマーケティング関連のトピックを通して英語の4つのスキル(Listening, Reading, Writing, Speaking)、語彙力、そして文法をバランスよく学習する。マーケティング関連のアクティビティやグループワークを行い、実践的な英語力を身につけていく。またビジネスマナー、外国人対応、異文化についての知識と理解を深める。	皆さんもご存じのとおり、沖縄も最近グローバル化が進んできました。今までは「英語が使えると得をする」と言われてきましたが、今後は間違いなく「英語が使えないと損をする」時代になります。例えば沖縄に来る外国人観光客のニーズを調査するとしたら、皆さんはどうしますか？そう言ったことを一緒に英語を使って考えましょう。See you in class!
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	Unit 1予習
	2	Unit 1 Introductions	Unit 1復習
	3	Unit 1 Introductions	Unit 1復習、Unit 2予習
	4	Unit 2 Work and leisure	Unit 2復習
	5	Unit 2 Work and leisure	Unit 2復習、Unit 3予習
	6	Unit 3 Problems	Unit 3復習
	7	Unit 3 Problems	Unit 1-3復習
	8	中間試験	Unit 4予習、課題
	9	Unit 4 Travel	Unit 4復習
	10	Unit 4 Travel	Unit 4復習、Unit 5予習
	11	Unit 5 Food and entertaining	Unit 5復習
	12	Unit 5 Food and entertaining	Unit 5復習、Unit 6予習
	13	Unit 6 Buying and selling	Unit 6復習
	14	Unit 6 Buying and selling	Unit 4-6復習、TOEIC問題
15	Review (Unit 4-6) & TOEIC practice	Final Prsentation準備	
16	Final Presentations		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	Market Leader Elementary (Business English Flexi Course Book 1), Pearson Education Limited その他参考書などは、必要に応じて授業で紹介する。

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> 授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。 私語、居眠り、他の教科の宿題など、授業に関係のないことを行った場合欠席扱い、または退室してもらうことがあるので注意してほしい。積極的に授業に取り組み、発言や質問をすること。 クイズなどで学習経過をチェックするので予習、復習は自主的、かつ積極的に行うこと。 スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。

学びの実践	評価
	<p>①授業態度、授業への参加・積極性(20%) ②中間試験(20%) ③課題(20%) ④クイズ・Self Reflection(20%) ⑤Final Presentation(20%)を総合的に判断して評価する。</p> <p>また、授業以外に積極的に英語活動を行ったもの、TA(助手)として活動したもの、ゲーム等の勝者にはボーナスポイントを与える場合があるのでそれらも考慮する</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	ネットなどを活用し、積極的に海外の情報を得ること。スピーキングやリスニングはもちろんだが、今後は英語で読んだり書いたりする力も必要になってくると予想される。また、英検やTOEICなどの資格試験などにも是非チャレンジしてほしい。将来の進路が決まっている学生は、その職種や業界で求められている英語レベルを把握し、それに向かって学習を進め、結果が出れば就職活動に有利になるだろう。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング演習	後期	土 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小原 満春	2年	ptt858@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、マーケティングの基礎的な理論を踏まえた上で、企業の事例を通して効果的なマーケティング戦略の考察を行います。プロジェクトにおいて、学生自身で企業におけるマーケティング戦略の分析を行い、効果的なマーケティング戦略について提案する発表を行ってまいります。発表を通して、マーケティングの諸活動についてより深く具体的に理解することを目的とします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前期のマーケティング総論から続けて受講することが好ましい。 ・前期受講していない学生も受講できます。 ・論理的な発表方法について学びます。 ・発表をしてお互い討論することで理解を深める内容です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業のマーケティング戦略について調査し、調査内容を論理的に発表できる。 ・発表者と聴衆者として討論を実践し、討論の方法について習得する。 ・企業のマーケティング戦略について調査を通して考察する。 ・調査を踏まえマーケティング理論を使って企業のマーケティング戦略を説明できる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	テーマ設定と発表の方法	テーマを設定します。
	3	論理的な発表と発表の組み立て方	発表方法について理解します。
	4	テーマ設定・調査計画について	テーマと調査計画の策定する。
	5	調査計画・検証について	調査の具体的な手法を考える。
	6	検証と考察について	調査後のまとめを考える。
	7	発表と討論・・・1	発表者と内容について討論します。
	8	発表と討論・・・2	〃
	9	発表と討論・・・3	〃
	10	発表と討論・・・4	〃
	11	発表と討論・・・5	〃
	12	発表と討論・・・6	〃
	13	発表と討論・・・7	〃
	14	発表と討論・・・8	〃
15	発表と討論・・・9	〃	
16	まとめ	発表内容のレポート作成	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(1) 白谷秀一他編著 (2002) 『はじめての社会調査-テーマ選びから報告まで-』 自治体研究社 (2) 恩蔵直人監修 (2008) 『コトラー&ケラーのマーケティングマネジメント 基本編』 第3版ピアソンエデュケーション (3) 石井淳蔵他 (2004) 『ゼミナールマーケティング入門』 日本経済新聞出版社</p>
----	--

学びの手立て	<p>(1) 講義は出席を重視します。積極的に討論する姿勢が必要になります。(2) 講義中の携帯電話、私語、飲食など他の学生に迷惑になる行為は厳に慎むこと。場合によっては退出させます。(3) 遅刻はしないこと。出席確認時にいない場合は欠席とします。(4) 出席確認は発表者へのフィードバックシートで確認します。(5) 出席時数が3分の2に満たない者の単位は認められません。(6) 欠席、遅刻によって支障がでた場合、それは自分の責任です。(正式な届出がある場合を除く) 救済処置は一切とりません。(7) 90分間通して人の発表を聞くだけという受講スタイルは望ましくありません。発表を聞き、恥ずかしながら積極的に発言し討論することが、学びを深め、自分の肥やしとなります。そのような受講スタイルを望みます。</p>
--------	--

評価	<p>(1) 発表・レポート・・・50%</p> <p>(2) 討論への積極的な参加・出席・・・50%</p> <p>上記(1)～(2)を総合的に判断し評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングについて課題を設定し、自分なりの解答を客観的に導き出すことにより、論理的方法でプレゼンできる。 ・論理的な発表方法を学び実践することで、将来社会に出てプレゼンする際に活用できる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング演習	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①企業のマーケティング戦略について理解する。 ②顧客ニーズとターゲット市場の選定について理解する。 ③eコマースやWebマーケティングの基礎知識を習得する。 ④グループワークの実践。</p>	<p>マーケティング戦略の視点から、個別企業および商品のマーケティング事例を取り上げます。また、グループワークによる個別事例研究の報告と議論で演習を進行していきます。 身近な企業・商品からマーケティング理論と実際の手法をわかりやすく学ぶことを目標としています。</p>
到達目標	<p>①企業のマーケティング戦略について、自分なりに内容をかみ砕いて、わかりやすく説明することができる。 ②企業活動・マーケットへの興味関心を喚起し、時事問題などから問題点・疑問点を提起することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス, グループ分け作業	
	2	講義①: レジユメの作成方法, プレゼンテーションの技術	
	3	講義②: 討論の方法, データ収集の方法	報告準備
	4	マーケティング事例の選択, グループ内での報告訓練	同上
	5	マーケティング事例の報告①	同上
	6	マーケティング事例の報告②	同上
	7	マーケティング事例の報告③	同上
8	マーケティング事例の報告④	同上	
9	マーケティング事例の報告⑤	同上	
10	まとめ①: これまでの報告・議論を振り返って		
11	マーケティング事例の報告⑥	報告準備	
12	マーケティング事例の報告⑦	同上	
13	マーケティング事例の報告⑧	同上	
14	マーケティング事例の報告⑨	同上	
15	マーケティング事例の報告⑩	同上	
16	まとめ②: マーケティングを学ぶ意味を改めて考える		
テキスト・参考文献・資料など	<p>参考文献: 高嶋克義・桑原秀史『現代マーケティング論』有斐閣, 2008年 沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略(新版)』有斐閣, 2008年 その他使用テキストについては、演習内で適宜指示します。</p>		
学びの手立て	<p>【履修の心構え】 ①履修学生の出席を前提として講義を進行していきます。そのため、遅刻や無断欠席は成績評価に大きく影響します。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで担当教員に連絡をしてください。 ③演習形式で講義を進行する関係上、ディスカッションを頻繁に行います。議論への積極的な参加が求められます。 ④ほぼ毎回、担当者による報告があります。事前の報告準備(レジユメ作成・パワーポイント等のスライド作成)が必要です。 ⑤グループによる調査・報告作業を予定しています。メンバー間相互の交流・情報交換は密に行ってください。</p>		
評価	<p>出席点・受講態度 (50%) : 質問や発言を適宜加点する。遅刻、無断欠席は厳禁です。 レポート作成 (20%) : レポートの内容、構成等を評価します。 口頭発表 (30%) : 報告内容、レジユメ・報告スライド等のわかりやすさを評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>個別事例の研究から、マーケティング理論と実際のマーケティング手法を学び、ビジネスにおけるマーケティングの重要性を理解する。 関連科目としては、「広告論」や「セールス・プロモーション」など。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング情報処理 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 真知子	2年	machiko@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報の時代が到来し、マーケティング領域においてもデータを読み判断する能力が問われている。この授業は、膨大なデータから価値ある情報を読み取り、論理的思考に基づいて意思決定を行う能力を修得することを最終目標とし、データ分析の理論的基礎と分析技法について分析ソフトを操作しながら実践的に学ぶ。	データの扱い方から基礎的分析までのマーケティング・リサーチの実際を、ビジュアル教材を用いてわかりやすく解説する。高度な数学知識がなくともよい。意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎する。
到達目標	1調査データの種類の分析準備、 2データの要約と探索的分析、 3マーケティング課題のリサーチ化と基礎的分析などの項目が理解でき、実際に一人で分析が行えるようになること。以上のことは、統計解析ソフト「PASW（通称SPSS）」を動かしながら学習する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（概要と授業の受け方）、受講生の決定	記事を検索、教科書第1章
	2	Excelで学ぶデモグラフィックス：製品カテゴリー普及過程の観察	第1&2章を読む。練習問題
	3	PASW操作入門：データの扱い方	第15章を読む。練習問題
	4	データ分析の基礎：データの特徴をつかむには（1）	第5章1～3を読む。
	5	データ分析の基礎：データの特徴をつかむには（2）	第6章を読む。練習問題
	6	データ分析の基礎：二つの項目の関連性をみるには（1）	第7章1～2を読む。
	7	データ分析の基礎：二つの項目の関連性をみるには（2）	第7章3～5を読む。練習問題
	8	データ分析の基礎：二つの項目の関連性をみるには（3）	第5章4を読む。練習問題
	9	推定・検定の考え方（1）	番組についての感想
	10	推定・検定の考え方（2）	第3章1～2を読む。
	11	事例紹介：趣向の差異とブランドのパッケージ、ほか	第3章3～5を読む。練習問題
	12	アンケートデータの分析：関連性の検定（1）	第8章1～3を読む。
	13	アンケートデータの分析：関連性の検定（2）	第8章4～6を読む。練習問題
14	事例紹介：顧客満足度（CS）分析	番組についての感想	
15	まとめと今後の学習指針（マーケティング情報処理IIへの展望）	分析レポートに取り組む。	
16	レポート提出：分析レポートの提出とコメント	分析レポートに取り組む。	
	テキスト・参考文献・資料など		
	○恩蔵 直人ほか『1からのマーケティング分析』碩学舎（予定） ○SPSS操作法は、基本的に、電子ファイルで配布する。 ○分析の実習用に、アンケート・データを配布する。		
	学びの手立て		
	1) 第1回目の授業で関心や学習履歴などを調査し受講生を決定するので、必ず出席すること。 2) 分析ソフトを用いた統計解析という専門性を修得するには、学習の積み重ねが必要である。授業はすべて分析実習をともなうので、できるだけ欠席はしないこと。遅刻は厳禁とする。 3) Excelで集計表を作成した経験があることが望ましい。高度な数学知識がなくともよい。意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎する。		
	評価		
	授業への参加姿勢（30%）、データ分析課題の提出と内容評価（70%）とを勘案し、総合的に評価する。講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、不合格とするので注意すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	○関連科目： マーケティング情報処理II、 マーケティング総論、市場調査論、消費者行動論 ○次のステージ： マーケティング情報処理IIで、マーケティング課題の分析手法をより実践的に解説します。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング情報処理Ⅱ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-原田 真知子	2年	machiko@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報の時代が到来し、マーケティング領域においてもデータを読み判断する能力が問われている。この授業は、膨大なデータから価値ある情報を読み取り、論理的思考に基づいて意思決定を行う能力を修得することを最終目標とし、データ分析の理論的基礎と分析技法について分析ソフトを操作しながら実践的に学ぶ。	マーケティング情報処理Ⅰに続き、マーケティング・リサーチの実際を、ビジュアル教材を用いてわかりやすく解説する。意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎する。
到達目標	データの計量的分析から解釈、報告書の作成までのプロセスを集中的に学ぶ。 1 マーケティング情報処理Ⅰで学んだ統計的知識や分析テクニックを、実践的なマーケティング課題にあわせて、活用できるようになること。 2 より高度な分析手法について考え方や注意点を理解できるようになること。 3 分析計画と適切な分析手法の選択、結果のまとめができるようになること。 以上のことは、統計解析ソフト「PASW（通称SPSS）」を動かしながら学習する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（概要と授業の受け方）、受講生の決定	データサイエンス番組の視聴と感想
	2	データ分析のための基礎知識： 仮説検定の考え方と手順（1）	第2～4章を読む。
	3	データ分析のための基礎知識： 仮説検定の考え方と手順（2）	第2～4章を読む。練習問題
	4	分析事例1： 分散分析による販売促進効果の測定 —基本的考え方—	第10章前半を読む
	5	分析事例1： 分散分析による販売促進効果の測定 —比較実験と交互作用—	第10章後半を読む。練習問題
	6	分析事例2： 回帰分析による市場性の予測 —基本的考え方—	第10章後半を読む。練習問題
	7	分析事例2： 回帰分析による市場性の予測 —売上高変動の説明と予測—	第11章前半を読む
	8	分析事例2： 重回帰分析による市場性の予測 —売上高変動の説明と予測—	第11章後半を読む。練習問題
	9	分析事例3： クラスタ分析によるベネフィット・セグメンテーション —基本的考え方—	第11章後半を読む。練習問題
	10	分析事例3： クラスタ分析によるセグメンテーション —消費者グループ分け—	第12章前半を読む
	11	分析事例4： 因子分析によるブランドの知覚マップ —基本的考え方—	第12章後半を読む。練習問題
	12	分析事例4： 因子分析によるブランドの知覚マップ —知覚マップ作成—	第12章後半を読む。練習問題
	13	データ分析のまとめ方： 報告書とプレゼンテーションの重要性 について	分析レポートの準備
	14	リサーチ・プロジェクトの準備1	分析レポートの作業をすすめる。
15	リサーチ・プロジェクトの準備2	分析レポートの作業をすすめる。	
16	レポート提出： 分析レポートの提出とコメント	コメントを見て、見直し	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	○恩蔵 直人ほか『1からのマーケティング分析』碩学舎（予定） ○SPSS操作法や練習問題は、基本的に、電子ファイルで配布する。 ○分析の実習用に、アンケート・データを配布する。

学びの手立て	1) 第1回目の授業で関心や学習履歴などを調査し受講生を決定するので、必ず出席すること。 2) 分析ソフトを用いた統計解析という専門性を修得するには、学習の積み重ねが必要である。授業はすべて分析実習をともなうので、できるだけ欠席はしないこと。遅刻は厳禁とする。 3) Excelで集計表を作成した経験があることが望ましい。高度な数学知識がなくともよい。意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎する。
--------	---

評価	授業への参加姿勢（30%）、データ分析課題の提出と内容評価（70%）とを勘案し、総合的に評価する。講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、不合格とするので注意すること。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ○関連科目： マーケティング情報処理Ⅰ、マーケティング総論、市場調査論、消費者行動論 ○卒論や卒業研究などで、この授業で学んだ考え方や手法は、卒論や卒業研究に活かせるでしょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング総論	前期	土 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小原 満春	2年	ppt858@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ビジネス活動の基本は、「売りたい商品をより多く売って、利益をたくさん上げる」と言えます。「良い物を作ればそれなりに売れる」時代ではない現在、「売れる仕組み」をつくるのが非常に重要です。本講義では、マーケティング研究の基礎的理論を中心に、ケーススタディを交えた講義を行い、マーケティングの基礎的知識および考え方を習得することを目的とします。</p>	<p>・マーケティングの基本的な内容から、より専門的な内容に踏み込んで説明します。 ・初学者でもわかりやすいように説明しますので、マーケティングとは何かを学びたい学生でも受講できます。 ・事例を提示しわかりやすく説明します。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の立場に立ったマーケティング的な思考を習得する。 マーケティングの基本的理論の知識を習得する。 企業のマーケティング戦略の事例を説明できる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	マーケティングとは何か	第1章の予習と復習（参考文献①）
	3	マーケティング戦略	第2章 "
	4	マーケティングプロセス	第3章 "
	5	マーケティング・リサーチ	第3章 "
	6	顧客関係	第4章 "
	7	セグメンテーション	第7章 "
	8	ターゲティング・ポジショニング	第7章 "
	9	ブランド	第8章 "
	10	ライフサイクル	第10章 "
	11	価格	第12章 "
	12	チャネル	第13章 "
	13	マーケティング・コミュニケーション	第15章 "
	14	広告	第16章 "
15	まとめ	第1章～第16章総まとめをする。	
16	学期末試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(1) 恩蔵直人監修 (2008) 『コトラー&ケラーのマーケティングマネジメント 基本編』第3版ピアソンエデュケーション (2) 恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門第4版』ピアソンエデュケーション (3) 石井淳蔵他 (2004) 『ゼミナールマーケティング入門』日本経済新聞出版社</p>
----	---

学びの手立て	<p>(1) 講義は出席を重視します。積極的に学ぶ姿勢が必要になります。(2) 講義中の携帯電話、私語、飲食など他の学生に迷惑になる行為は厳に慎むこと。場合によっては退出させます。(3) 遅刻はしないこと。出席確認時にいない場合は欠席とします。(4) 出席確認は呼名、出席カード、フィードバックシートのいずれかで確認します。(5) 出席時数が3分の2に満たない者は試験を受けることができません。(6) 欠席、遅刻によって支障がでた場合、それは自分の責任です。(正式な届出がある場合を除く) 救済処置は一切とりません。(7) 90分間通してテキストの内容をそのまま説明するという講義スタイルではありません。より密度の濃い講義にするためにも、講義内容の事前の予習そして振り返りの復習をしてください。</p>
--------	---

評価	<p>期末考査60% 課題提出30% 出席10% を基本的な配分として、総合的に評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義は後期のマーケティング演習と連続したプログラムを組んでいます。理論を学び演習で実習プロジェクトを行うので後期の「マーケティング演習」とセットで登録してください。理論と実習でより深くマーケティングを理解することができます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング総論	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①マーケティング理論の基礎をしっかりと理解する。 ②理論と実際の企業活動の差異を認識し、問題点・疑問点を考える</p>	<p>「マーケティング」という言葉はよく耳にするけれど、その意味についてよく理解できていないという方は多いと思います。 本講義では、マーケティングの定義をしっかりと把握すると同時に、消費者行動、流通網の展開、マーケティングを取り巻く環境の変化など、多角的な視点からマーケティングを考えます。</p>
到達目標	<p>①マーケティング理論を、自分なりにかみ砕いて理解できること。 ②マーケティング理論を軸とした実際の企業活動への興味関心の惹起。 ③「マーケティング演習」につながる個別企業や製品のマーケティング事例についての学習。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	マーケティングとは何か?	
	3	製品差別化とポジショニング	
	4	セグメンテーションとターゲティング	
	5	マーケティングと消費者行動	
	6	マーケティングと新製品開発	
	7	まとめ①	レポート課題①
8	マーケティング・ミックス①：販売促進		
9	マーケティング・ミックス②：チャネルの構築		
10	マーケティング・ミックス③：価格戦略		
11	まとめ②	レポート課題②	
12	マーケティング・コミュニケーション		
13	グローバル・マーケティング①：ITの発達とマーケティング		
14	グローバル・マーケティング②：国際化とマーケティング	レポート課題③	
15	まとめ③	期末テスト対策	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>参考文献： 高嶋克義・桑原秀史『現代マーケティング論』有斐閣，2008年 沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略（新版）』有斐閣，2008年</p>		
学びの手立て	<p>【履修の心構え】 ①履修学生の出席を前提として講義を進行していきます。そのため、遅刻や無断欠席は成績評価に大きく影響します。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで担当教員に連絡をしてください。 ③参考文献のほかに、適宜プリント等を配布して講義を進行する予定です。そのため、講義時のノート作成が重要になります。</p>		
評価	<p>期末テスト (50%) 出席点・受講態度 (20%)：質問や発言を適宜加点する。遅刻、無断欠席は評価に大きく影響します。 レポート (30%)：適宜、レポート課題を実施します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>マーケティング理論の習得を通じて、消費者・製品・販売促進・流通網の整備など多角的な視点で課題を発見する能力を身につける。 関連科目としては、「サービス・マーケティング」、「eコマース・マーケティング」、「ソーシャル・マーケティング」など。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅰ	前期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山川 典二	1年	noriji151@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい 「ニーズに対応して利益を上げる」。マーケティングの真髄を表した言葉としてよく使われる。本講義では上級学年時での演習などにも対応できるよう1年生に対しマーケティングの真髄を面白く追及しながら徹底してマーケティング基礎理論を学習できるよう配慮する。	メッセージ 社会生活におけるマーケティングの視点をしっかり身に付けるよう指導する。
	到達目標 マーケティング・ビジネス実務検定試験C級合格を目指す。	

学びの準備	到達目標 マーケティング・ビジネス実務検定試験C級合格を目指す。
-------	-------------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	マーケティングの概要	指定テキストをよく読み込むこと
	3	マーケティング・コンセプト	同上
	4	戦略的マーケティング	同上
	5	マーケティング・マネジメント	同上
	6	市場細分化	同上
	7	標的市場の設定	同上
	8	マーケティング・リサーチ	同上
	9	消費者行動	同上
	10	製品戦略	同上
	11	価格戦略	同上
	12	流通チャネル戦略	同上
	13	広告及びプロモーション戦略	同上
	14	新しいマーケティング	
	15	講義のまとめ	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 指定するテキスト国際実務マーケティング協会「マーケティング・ビジネス実務検定」税務経理協会 時間外の自主学習に役立つ参考文献として以下を推薦する。 フィリップ・コトラー&ゲイリー・アームストロング「コトラーのマーケティング入門」第4版 丸善出版 古川一郎・守口剛・阿部誠（2011年） 「新版 マーケティング・サイエンス入門」 有斐閣アルマ
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールにて連絡すること。 ・講義中は聞き漏らしのないように集中してメモを取ること。
-------	--

学びの実践	評価 期末試験（50%）、出席点・受講態度（50%）、講義回数の3分の1以上の欠席は不合格となるので要注意。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング・ビジネス実務検定試験C級合格レベルを目指すよう研究。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅰ	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-野原 寿加子	1年	hotconsulting50@hotmail.com	

学びの準備	ねらい マーケティングの本質とは何か？を考えながらマーケティングの流れや手法について学んでいく。将来、どのような職業に就くにしても、マーケティングは必ず求められるため、この授業を通してマーケティングの基礎的な知識を修得する。	メッセージ マーケティングは、日々環境の変化に応じて新しい仕組みや考え方が登場する実践的な学問です。私たちが普段何気なく買っている製品やサービスを例に取り上げながら、分かりやすく解説していきます。
	到達目標 ・マーケティングとは何か？というマーケティングの本質を理解し自分の言葉で説明できる ・マーケティング活動を行うための基本的な流れを理解できる ・身近にあるマーケティング活動に自分自身で気づけるようになる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画			
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	ガイダンス	
		2	マーケティングとは何か？①	マーケティングとは何かを考える
		3	マーケティングとは何か？②	課題①（宿題）
		4	STP①セグメンテーション<S>とターゲティング<T>	課題①提出日
		5	STP②ポジショニング（P）	課題②（宿題）
		6	4つのP①Product<製品>	課題②提出
		7	4つのP①Product<製品>	配布資料①を読むこと
		8	4つのP②Price<価格>	同上
		9	4つのP②Price<価格>	課題③（宿題）
		10	4つのP③Place<流通>	課題③提出
		11	4つのP③Place<流通>	配布資料②を読むこと
		12	4つのP④Promotion<販売促進>	同上
		13	4つのP④Promotion<販売促進>	課題④（宿題）
		14	具体例で考えるSTPと4つのP①	課題④提出
		15	具体例で考えるSTPと4つのP②	テスト勉強
		16	テスト	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：プレステップマーケティング 丸山正博著 弘文堂 必要時にプリントを配布します			
	学びの手立て ・出欠確認を毎回行います。やむを得ず欠席する場合は必ず欠席届とそれを証明できるものをセットにして提出してください ・マーケティングは日々のニーズや環境の変化に大きく関わっている学問のため、毎日新聞を読んだりニュースをチェックするよう心掛けてください ・受動的に学ぶのではなく、能動的に学ぶ姿勢を期待しています。そのため自分で考える！ということが大切になってきます。質問や意見がある場合はその都度それを、どんどん述べてください			
	評価 試験60点、 課題40点（授業の到達目標を達成できるよう定期的に課題を提出） 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる			

学びの継続	次のステージ・関連科目 「マーケティング入門Ⅰ」で修得した基礎的なマーケティング知識を踏まえて「マーケティングⅡ」では、企業が行っているマーケティング活動などを例に取り上げ、より深くマーケティングについて学んでいく。また消費者の立場にたち消費者の心理や脳科学の観点から、消費者がモノを買うときにどのようなプロセスをたどっているのかなどの視点からマーケティングを考えていく。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①マーケティングの全体像をおおまかにつかむことができる。</p> <p>②現実の企業活動に関心を持ち、実際の経済現象について普段から考える契機を与える。</p>	<p>マーケティングとは、顧客がほしいものを生産して届ける企業活動のことです。すなわち、製品が売れる仕組みをつくるのが目的となります。</p> <p>本講義は、マーケティングの全体像と特徴をおおまかに知ることで、より、「優れたマーケティングとは何か」を理解する端緒をつかむことを目的とします。</p>
到達目標		
	<p>①マーケティングの全体像をおおまかに把握できる。</p> <p>②具体的な企業のマーケティング戦略への興味関心の喚起。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	マーケティングの考え方	レポート課題①
	3	顧客志向・市場志向①	
	4	顧客志向・市場志向②	
	5	創造的適応	
	6	マーケティングの概念①	
	7	マーケティングの概念②	
8	まとめ①	レポート課題②	
9	マーケティング・マネジメント・プロセス①		
10	マーケティング・マネジメント・プロセス②		
11	マーケティングにおける環境分析①		
12	マーケティングにおける環境分析②		
13	マーケティングと消費者行動①	レポート課題③	
14	マーケティングと消費者行動②		
15	まとめ②	期末テスト対策	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>使用テキスト： 久保田進彦・澁谷覚・須永努『はじめてのマーケティング』有斐閣，2013年</p>		
	学びの手立て		
	<p>【履修の心構え】</p> <p>①履修学生の出席を前提として講義を進行していきます。そのため、遅刻や無断欠席は成績評価に大きく影響します。</p> <p>②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで担当教員に連絡をしてください。</p> <p>③使用テキストのほかに、適宜プリント等を配布して講義を進行する予定です。そのため、講義時のノート作成が重要になります。</p> <p>④使用テキストを熟読し、予習復習を怠らないようにしてください。</p>		
	評価		
	<p>期末テスト (50%)</p> <p>出席点・受講態度 (20%) : 質問や発言を適宜加点する。遅刻、無断欠席は評価に大きく影響します。</p> <p>レポート (30%) : 適宜、レポート課題を実施します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>2年次以降のマーケティングコース各科目へのスムーズな接続が達成できるように、マーケティング・流通の基礎知識を習得します。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山川 典二	1年	noriji151801@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい 「ニーズに対応して利益を上げる」。マーケティングの真髄を表した言葉としてよく使われる。本講義では上級学年時での演習などにも対応できるよう1年生に対しマーケティングの真髄を面白く追及しながら徹底してマーケティング基礎理論を学習できるよう配慮する。	メッセージ 社会生活におけるマーケティングセンスを磨けるよう指導する。
	到達目標 マーケティング・ビジネス実務検定試験B級合格を目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	戦略的マーケティング	指定テキストをよく読むこと
	3	マーケティング・マネージメント	同上
	4	市場細分化	同上
	5	マーケティング・リサーチ	同上
	6	消費者行動	同上
	7	製品戦略	同上
	8	価格戦略	同上
	9	流通チャネル戦略	同上
	10	ロジスティック戦略	同上
	11	プロモーション戦略	同上
	12	マーケティング情報システム	同上
	13	マーケティング関連法規	同上
	14	新しいマーケティング	同上
15	講義のまとめ		
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など 指定テキスト国際実務マーケティング協会「マーケティング・ビジネス実務検定・アドバンスト版」税務経理協会 フィリップ・コトラー&ゲイリー・アームストロング「コトラーのマーケティング入門」第4版 丸善出版 古川一郎・守口剛・阿部誠(2011年) 「新版 マーケティング・サイエンス入門」 有斐閣アルマ			
学びの手立て 履修の心構え。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールにて連絡すること。 ・講義中は聞き漏らしのないように集中してメモを取ること。			
評価 期末試験(50%)、出席点・受講態度(50%)、講義回数の3分の1以上の欠席は不合格となるので要注意。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング・ビジネス実務検定準A級又はA級を目指すよう研究。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①マーケティングの全体像をおおまかにつかむことができる。</p> <p>②現実の企業活動に関心を持ち、実際の経済現象について普段から考える契機を与える。</p>	<p>マーケティングとは、顧客がほしいものを生産して届ける企業活動のことです。すなわち、製品が売れる仕組みをつくるのが目的となります。</p> <p>本講義は、マーケティングの全体像と特徴をおおまかに知ることで、より、「優れたマーケティングとは何か」を理解する端緒をつかむことを目的とします。</p>
到達目標		
	<p>①マーケティングの全体像をおおまかに把握できる。</p> <p>②具体的な企業のマーケティング戦略への興味関心の喚起。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
2	マーケティング入門Ⅰを振り返って	レポート課題①	
3	セグメンテーションとターゲティング①		
4	セグメンテーションとターゲティング②		
5	セグメンテーションとターゲティング③		
6	ポジショニング①		
7	ポジショニング②		
8	ポジショニング③		
9	まとめ①	レポート課題②	
10	マーケティング・ミックス①：製品のマネジメント		
11	マーケティング・ミックス②：価格のマネジメント		
12	マーケティング・ミックス③：コミュニケーションのマネジメント		
13	マーケティング・ミックス④：チャネルのマネジメント		
14	マーケティング戦略	レポート課題③	
15	まとめ②	期末テスト対策	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>使用テキスト： 久保田進彦・澁谷覚・須永努『はじめてのマーケティング』有斐閣、2013年</p>		
	学びの手立て		
	<p>【履修の心構え】</p> <p>①履修学生の出席を前提として講義を進行していきます。そのため、遅刻や無断欠席は成績評価に大きく影響します。</p> <p>②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで担当教員に連絡をしてください。</p> <p>③使用テキストのほかに、適宜プリント等を配布して講義を進行する予定です。そのため、講義時のノート作成が重要になります。</p> <p>④使用テキストを熟読し、予習復習を怠らないようにしてください。</p>		
	評価		
	<p>期末テスト (50%)</p> <p>出席点・受講態度 (20%) : 質問や発言を適宜加点する。遅刻、無断欠席は評価に大きく影響します。</p> <p>レポート (30%) : 適宜、レポート課題を実施します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>2年次以降のマーケティングコース各科目へのスムーズな接続が達成できるように、マーケティング・流通の基礎知識を習得します。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-野原 寿加子	1年	hotconsulting50@hotmail.com	

学びの準備	ねらい 将来、どのような職業に就くにしても、マーケティングは必ず求められる。基礎的なマーケティング理論と同時に企業の実例を学ぶことにより、マーケティングという学問に興味を持ってもらうことがこの授業のねらいである。	メッセージ マーケティングⅠで学んだ基礎的な知識をさらに深めるために、実際に企業で行われているマーケティング活動を例に取り上げ、分かりやすく、マーケティングに関してさらに興味を持てる授業にしていきます。
	到達目標 ・基礎的な知識を実践的な企業のマーケティング活動と照らし合わせて考えることができる ・消費者の心理を学びそれをマーケティングと合わせて考えることができる ・様々な形のマーケティングがあることが理解できるようになる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	マーケティングⅠの復習
	2	マーケティングⅠの復習①	ディスカッションのための情報収集
	3	マーケティングに関する問題を1つ挙げディスカッションを行う	課題①(宿題)
	4	売り手・買い手の力関係、業界内の競争関係①	課題①提出日
	5	売り手・買い手の力関係、業界内の競争関係②	配布資料③を読むこと
	6	消費者行動①	同上
	7	消費者行動②	同上
	8	消費者行動③	ディスカッションのための情報収集
	9	消費者行動に関する問題を1つ挙げディスカッションを行う	課題②(宿題)
	10	eコマース	課題②提出日
	11	サービス業のマーケティング①	配布資料④を読むこと
	12	サービス業のマーケティング②	課題③(宿題)
	13	法律と政策の関与	課題③提出日
	14	ソーシャル・マーケティング①	入費資料⑤を読むこと
	15	ソーシャル・マーケティング②	テスト勉強
	16	テスト	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：プレステップマーケティング 丸山正博著 弘文堂 必要時にプリントを配布します		
	学びの手立て ・出欠確認を毎回行います。やむを得ず欠席する場合は必ず欠席届とそれを証明できるものをセットにして提出してください ・マーケティングは日々のニーズや環境の変化に大きく関わっている学問のため、毎日新聞を読んだりニュースをチェックするよう心掛けてください ・受動的に学ぶのではなく、能動的に学ぶ姿勢を期待しています。そのため自分で考える！ということが大切になってきます。質問や意見がある場合はその都度それを、どんどん述べてください		
	評価 試験60点、 課題40点(授業の到達目標を達成できるよう定期的に課題を提出) 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる		

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティングの入門的な知識を修得し、「マーケティング管理論」や「マーケティング演習」を履修することで、よりマーケティングに関する知識を深めることができる。またマーケティングの中でも興味のある分野を詳しく学ぶことができる。例えば、4つのPの販売促進について詳しく学びたい場合は「広告論」や「セールスプロモーション」などがある。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	民法	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-福里 芝人	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 私たちの日常生活で起こる紛争を解決する手段としての民法について学ぶことにより、契約社会で生き抜く基礎的な力を養います。	メッセージ これまで民法について学んだことのない初学者にも、例えを交えながらわかりやすく教えます。この講義をきっかけに「法律って難しい」⇒「あれ？法律って結構たのしいぞ！」という考えになってくれたら嬉しいです。他学科の学生の受講も歓迎します。
	到達目標 契約や結婚・離婚・相続などについての基礎的仕組みや法律用語の意味を理解でき、さらに、六法の仕組みや条文を理解することができます。そのことによって、会社や地域社会、家庭において必要とされる法的センスを身に付け、これからの生活を賢く生き抜く力を磨くことができます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	民法とは何か	テキスト第1章I
3	財産法の仕組み		テキスト第1章II
4	契約の成立から効力発生まで①（契約の成立、契約の主体）		テキスト第2章I・II・III
5	契約の成立から効力発生まで②（契約の成立・有効要件など）		同上
6	物権①（物権の客体、物権変動）		テキスト第2章IV
7	物権②（占有権、所有権、用益物権）		同上
8	債権の発生から消滅		テキスト第2章V
9	債権の効力として問題が生じたときの処理①（特定物債権と不特定物債権）		テキスト第2章VI
10	債権の効力として問題が生じたときの処理②（受領遅滞、危険負担）		同上
11	債権の効力として問題が生じたときの処理③（債務不履行、担保責任）		同上
12	債権の履行確保の手段①（特殊な債権回収手段、債権保全）		テキスト第2章VII
13	債権の履行確保の手段②（債権の担保）		同上
14	家族法①（親族、婚姻・離婚、親子）		テキスト第3章I
15	家族法②（相続、遺言）		テキスト第3章II
16	テスト		合計60点未満の人は再試
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：「伊藤真の民法入門」伊藤真（著）日本評論社。ポケット六法（平成28年版）必携。		
	学びの手立て 【履修の心構え】民法は分量が多いので、予習・復習をしっかりとすること。また、早めに教科書・六法を購入して民法に慣れること。そして、授業では私語・居眠りをしないで、真面目な態度で受講すること。		
	評価 期末試験70%、レポート20%、平常点10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この授業では民法の概要について学ぶので、授業終了後に公務員試験対策や各種対策においてさらに細かな民法の授業があれば受講することを望む。また、「関連科目」としては、「商法」や「会社法」を学ぶことによって、卒業後のビジネス現場で必要とされる法的知識を習得して、企業で必要とされる人材へと成長することができます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	流通政策論	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年		

学びの準備	ねらい ①流通政策を歴史的に見ることで、日本型流通システムの特徴を理解する。 ②まちづくり、中心市街地活性化の視点から、地方都市における流通サービスの特徴について考える。	メッセージ 現実の経済制度がすべて順調に機能しているとは限りません。流通政策は、経済政策のうち流通部門にかかわる政策で、流通システムをうまく機能させるためのものです。 本講義では、主に流通政策とまちづくりに焦点を当て、中心市街地の活性化や都市の再開発、地方創生について考えます。
	到達目標 ①流通政策の変遷に見ることで、日本都市の特徴を理解すると同時に、流通システムの抱える問題点を明らかにする。 ②まちづくり、中心市街地活性化の視点から、地方都市における流通サービスの特徴について考える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	流通政策の目的	
	3	競争政策と不公正な取引問題①	
	4	競争政策と不公正な取引問題②	レポート課題①
	5	再販売価格維持制度と景品表示法①	
	6	再販売価格維持制度と景品表示法②	
	7	商業振興政策の変遷	
	8	まとめ①	レポート課題②
	9	流通政策とまちづくりを考える	
	10	まちづくり政策の変遷①	
	11	まちづくり政策の変遷②	
	12	まちづくり三法の制定	
	13	まちづくり三法の改正	
	14	流通政策の課題	レポート課題③
	15	まとめ	
	16	期末テスト	期末テスト対策
	テキスト・参考文献・資料など 使用テキスト：番場博之編著『基礎から学ぶ流通の理論と政策（新版）』八千代出版，2016年 参考文献：崔容薫・原頼利・東伸一『はじめての流通』有斐閣，2014年 参考文献：加藤義忠・他編『現代流通入門』有斐閣，2007年		
	学びの手立て 【履修の心構え】 ①履修学生の出席を前提として講義を進行していきます。そのため、遅刻や無断欠席は成績評価に大きく影響します。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで担当教員に連絡をしてください。 ③使用テキストのほかに、適宜プリント等を配布して講義を進行する予定です。そのため、講義時のノート作成が重要になります。 ④使用テキストを熟読し、予習復習を怠らないようにしてください。 ⑤「流通総論」、「商業史」を事前に履修していると、講義内容をより深く理解できます。		
	評価 期末テスト (50%) 出席点・受講態度 (20%) : 質問や発言を適宜加点する。遅刻、無断欠席は評価に大きく影響します。 レポート (30%) : 適宜、レポート課題を実施します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 流通・マーケティングを教養として身につけることで、小売業・卸売業が抱える課題を発見する。 また、流通政策の目的を理解することで、流通システムと都市・地域の発展の関係性を考えることができる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	流通総論	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①流通に関する基礎的な理論を学び、今日の流通実態を理解する。 ②流通の歴史的展開を学ぶことで、流通の役割を理解する。 ③地域社会の発展と流通の関係について考える契機を与える。</p>	<p>流通は、生産と消費をつなぐことで商業活動を円滑に行う手助けをするという役割を持っています。だからこそ、私たちは便利で豊かな生活を送ることができるのです。 本講義では、生活に密接に結び付いた流通の仕組みや役割を学びながら、今後の社会の方向性について考えていきます。</p>
到達目標	<p>①流通に関する基礎的な理論を習得し、今日の流通実態の理解を助ける。 ②小売業の業態についての理解を深めると同時に、流通・商業のメカニズムを考える端緒をつかむ。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	流通の基礎知識①	
	3	流通の基礎知識②	
	4	商業の基礎知識①	
	5	商業の基礎知識②	
	6	まとめ①	レポート課題①
	7	小売業のかたち①：百貨店・専門量販店	
8	小売業のかたち②：スーパーマーケット・コンビニエンスストア		
9	小売業のかたち③：通信販売・訪問販売	レポート課題②	
10	小売業の展開①：海外展開		
11	小売業の展開②：情報化と電子商取引		
12	小売業の展開③：プライベートブランド	レポート課題②	
13	マーケティング①		
14	マーケティング②		
15	まとめ②	期末テスト対策	
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>使用テキスト：番場博之編著『基礎から学ぶ流通の理論と政策（新版）』八千代出版，2016年 参考文献：崔容薫・原頼利・東伸一『はじめての流通』有斐閣，2014年 参考文献：加藤義忠・他編『現代流通入門』有斐閣，2007年</p>		
	学びの手立て		
	<p>【履修の心構え】 ①履修学生の出席を前提として講義を進行していきます。そのため、遅刻や無断欠席は成績評価に大きく影響します。 ②やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで担当教員に連絡をしてください。 ③使用テキストのほかに、適宜プリント等を配布して講義を進行する予定です。そのため、講義時のノート作成が重要になります。 ④使用テキストを熟読し、予習復習を怠らないようにしてください。</p>		
	評価		
	<p>期末テスト (50%) 出席点・受講態度 (20%) : 質問や発言を適宜加点する。遅刻、無断欠席は評価に大きく影響します。 レポート (30%) : 適宜、レポート課題を実施します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>流通・マーケティングを教養として身につけることで、地域社会における流通の役割を理解し、小売業・卸売業が抱える課題を発見する。 関連科目としては、「小売流通論」，「流通政策論」など。</p>
-------	---